

新型コロナウイルス感染症の影響に対する 政府の施策の活用状況及び芸術家等の セーフティネットに関するアンケート

分析結果

2024年4月

独立行政法人日本芸術文化振興会

文化芸術推進フォーラム

(事務局：公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)

目次

I 調査概要

1.調査概要	2
<参考> 調査結果の見方	5

II 結果概要

1.文化芸術活動の主な取り組み方	8
2.文化芸術活動以外でのケガや病気への備え	10
3.高齢になった時への備え	12
4.文化芸術活動でのケガや病気への備え	14
5.仕事が出来なくなった時への備え	16
6.基本的な社会保険以外での備え	18
7.活用できる公的制度への理解	20
8.必要とする給付の仕組み	22
9.互助の仕組みとして必要なこと	29
10.支え合いの仕組みへの賛同	31
11.芸術活動継続のサポートとして必要なこと	33
12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの	40
13.継続支援事業の交付による成果	45
14.政府補助金で実施されたイベントへの参画	47
15.コロナ禍を経た現在の状況	49
16.主な活動領域	51
17.組織への参加・所属等の状況	53
18.文化芸術活動からの収入割合	55
19.所得の申告状況	57
20.昨年の全収入	59
21.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請の有無	61

22.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」交付の有無	63
23.年齢	65
24.性別	66

III 調査票

調査票	67
-----	----

I 調查概要

はじめに ～芸術家社会保障アンケート 結果を受けて～

2021年5月、独立行政法人日本芸術文化振興会と文化芸術推進フォーラムは、「『文化芸術活動の継続支援事業』及び新型コロナウイルス感染拡大による影響に関するアンケート調査」を実施した。その結果、新型コロナウイルス感染症感染拡大により芸術家等個人及び団体の仕事と収入が大きく減少したことが明らかになった。文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」は、芸術家等個人及び団体の仕事の継続に効果的な役割を果たしたが、支援対象にあたる芸術家の特定に大きな困難を伴った。

この調査結果を踏まえ、文化芸術推進フォーラムは調査報告書「新型コロナウイルス感染拡大による文化芸術界への甚大な打撃、そして再生に向けて—調査報告と提言—」をまとめた。そして、芸術活動の不安定さや芸術家等の社会保障の脆弱さが、パンデミックのような非常時だけでなく、日常的に存在することが明らかになった中で、「芸術家等が安心して仕事に取り組める、業界全体が支える公的な共済制度の創設」を提言した。

それから2年、独立行政法人日本芸術文化振興会と文化芸術推進フォーラムは、個人への支援がなくなった2021年以降の政府施策の活用と芸術家等の状況を把握するとともに、前回調査で課題となった芸術家等に特有の働き方から起こる事態に対応する「仕組」づくりに向けて必要な情報を集める目的でアンケートを実施することとなった。

2023年7月、前回と同様に、「文化芸術活動の継続支援事業」交付決定者にメールによる呼びかけを行うとともに、文化芸術推進フォーラム構成団体及び芸団協正会員団体から芸術家等に呼びかけ、「新型コロナウイルス感染症の影響に対する政府の施策の活用状況及び芸術家等のセーフティネットに関するアンケート」を実施した。本報告はその結果である。

アンケートにはメール送付総数の30%を超える20,273件の回答が寄せられ、この課題への関心の高さが伺われた。また、以下の点から、芸術活動による収入の少なさや芸術家のセーフティネットの脆弱さが改めて浮き彫りになった。

- 自営業者が多いため、雇用保険や労災保険が適用されない層が多いこと
- 社会保険以外の備えとして、民間保険への加入や貯蓄・資金運用をしている層に次ぎ、金銭的余裕がなく備えが出来ない層が多いこと
- 個人収入が300万円未満の層が60%を越えるほど存在すること
- 文化芸術活動を続ける上で必要なこととして、個人の文化活動費用への金銭的な補助・助成、生計維持など用途を問わない給付金に次ぎ、芸術家であることの職業・身分証明を挙げる層が多いこと
- 政府のコロナ対策の事業支援に参画しなかった層が50%程度いること
- 2019年比で収入が50%以下の層が依然として40%程度存在すること

このような状況から「万一の場合」、「芸術家特有の収入変動」や「仕事上の事故等」に備える仕組づくりに、殆どの回答者から賛同が示された。本アンケートに回答、ご協力頂いた多くの方々に感謝する。このような芸術家等の切実な声を受けて、具体的な制度設計に向け、検討を進めていきたい。

1. 調査概要

目的	芸術家、実演家、スタッフ等の働き方に配慮したセーフティネットを実現するため、コロナ禍を経た現在、芸術家等が活動を続ける上で困っていることや必要だと感じていることの把握を目的とする。
対象	①文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の個人交付決定者 ②文化芸術推進フォーラム構成団体及び公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）正会員団体に所属する芸術家等
期間	令和5（2023）年7月7日（金）～7月31日（月）
手法	インターネットアンケート（対象者個人へのメール配信・WEB回答） <ul style="list-style-type: none">①の対象者へは、文化芸術推進フォーラム事務局からメールを送付し、WEB回答をいただいた。②の対象者へは、文化芸術推進フォーラム構成団体及び芸団協正会員団体の協力を得て周知し回答を求めた。
有効回答数	20,273名
調査主体	独立行政法人日本芸術文化振興会 文化芸術推進フォーラム（事務局：公益社団法人日本芸能実演家団体協議会）
調査協力	株式会社インテージリサーチ

<参考> 調査結果の見方

- ① 報告書中の問番号および質問は、調査票の問番号および質問文をそのまま示している。また、本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、語句を簡略化している場合がある（詳細は、別添調査票参照）。
- ② 調査結果の数値は回答率（％）で示している。
％の母数は、その質問の回答数または属性別のTOTAL数で、「n=」で表している。
- ③ 割合は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、「○は1つだけ」などの質問であっても、端数が影響し、回答率の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ④ 複数回答の設問では、回答率（％）は回答数「n=」に占める割合となっている。
したがって、回答割合を全て合計しても100.0%にならない場合がある。
- ⑤ 属性の回答者数では、傾向を分析する上で十分とは言えない30サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として掲載している。
- ⑥ 報告書中に表示される「活動分野」には、以下のものが含まれる。
音楽 / 美術・写真・デザイン / 演劇・舞踊 / メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
/ 伝統的な芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、邦楽など）
/ 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱など） / スタッフ（舞台・照明・音響技術、制作など） / その他

【補足】 SA・・・回答は1つだけ MA・・・複数回答 3LA・・・上限3つまでの複数回答

調査項目(クロス結果)一覧表

	クロス共通	基本クロス1		基本クロス2		
	TOTAL	活動領域別 Q18	年代別 Q23	性別 Q24	年収別 Q22	継続支援事業 申請・交付の有無別 Q1+Q2
1.文化芸術活動の主な取り組み方 Q3	○	○	○	○	○	○
2.文化芸術活動以外でのケガや病気への備え Q4	○	○	○	○	○	○
3.高齢になった時への備え Q5	○	○	○	○	○	○
4.文化芸術活動でのケガや病気への備え Q6	○	○	○	○	○	○
5.仕事が出来なくなった時への備え Q7	○	○	○	○	○	○
6.基本的な社会保険以外での備え Q8	○	○	○	○	○	○
7.活用できる公的制度への理解 Q9	○	○	○	○	○	○
8.必要とする給付の仕組み Q10	○	○	○	○	○	○
9.互助の仕組みとして必要なこと Q11	○	○	○	○	○	○
10.支え合いの仕組みへの賛同 Q12	○	○	○	○	○	○
11.芸能活動継続のサポートとして必要なこと Q13	○	○	○	○	○	○
12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの Q14	○	○	○	○	○	○
13.継続支援事業の交付による成果 Q15	○	○	○	○	○	○
14.政府補助金で実施されたイベントへの参画 Q16	○	○	○	○	○	○
15.コロナ禍を経た現在の状況 Q17	○	○	○	○	○	○
16.主な活動領域 Q18	○	-	○	○	○	○
17.組織への参加・所属等の状況 Q19	○	○	○	○	○	○
18.文化芸術活動からの収入割合 Q20	○	○	○	○	○	○
19.所得の申告状況 Q21	○	○	○	○	○	○
20.昨年の全収入 Q22	○	○	○	○	-	○
21.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請の有無 Q1	○	○	○	○	○	-
22.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」交付の有無 Q2	○	○	○	○	○	-
23.年齢 Q23	○	-	-	-	-	-
24.性別 Q24	○	-	-	-	-	-

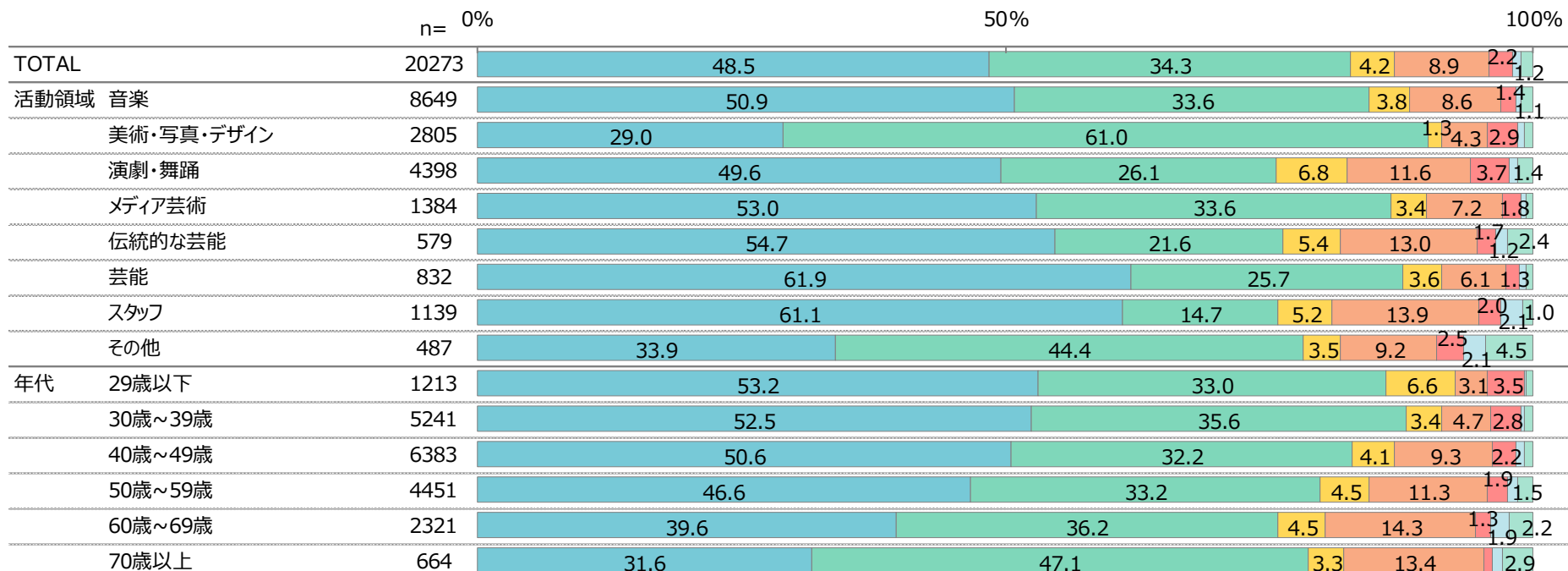
II 結果概要

1.文化芸術活動の主な取り組み方(SA)

- 文化芸術活動の主な取り組み方をTOTALでみると、「個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され、文化芸術活動を行っている」が48.5%と最も多く、「個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている」が34.3%で続く。
- 活動領域別でみると、『美術・写真・デザイン』は、「個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている」が61.0%と他の領域に比べて高い。
- 年代別でみると、『60歳以上』は、「文化芸術関係の団体・会社を運営し、文化芸術活動を行っている」がTOTALに比べてやや高い。

1-1.TOTAL／活動領域別／年代別

- 個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社に年間雇用され、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社に雇用されているが、文化芸術活動を行っている
- その他
- 個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社を運営し、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社を運営しているが、文化芸術活動を行っている



非表示：1%未満

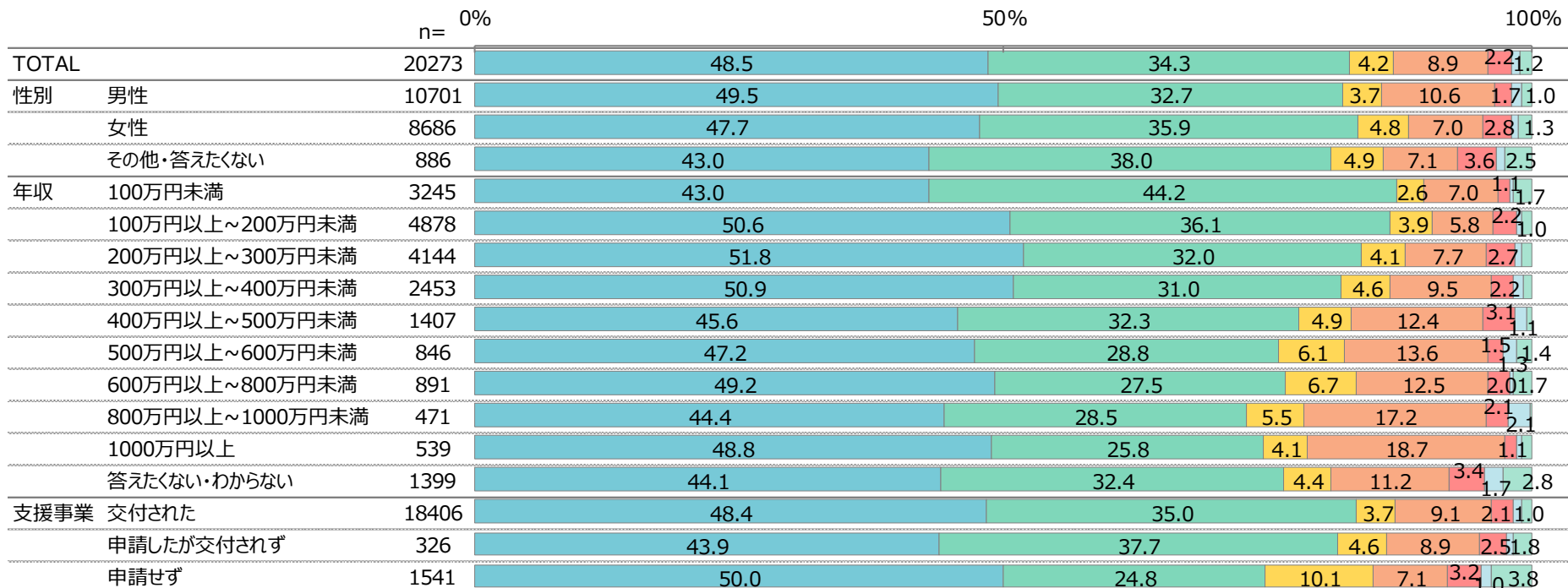
(質問文) Q3 あなたの文化芸術活動の主な取り組み方を教えてください。

1.文化芸術活動の主な取り組み方(SA)

- 文化芸術活動の主な取り組み方を年収別で見ると、『500万円以上』は、「個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている」がTOTALに比べてやや低い。また、『800万円以上』は、「文化芸術関係の団体・会社を経営し、文化芸術活動を行っている」が10%台後半と、TOTALに比べて高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は、「文化芸術関係の団体・会社に年間雇用され、文化芸術活動を行っている」が10.1%とTOTALに比べてやや高い。

1-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

- 個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社に年間雇用され、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社に雇用されているが、文化芸術活動を行っている
- その他
- 個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社を経営し、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社を経営しているが、文化芸術活動を行っている



非表示：1%未満

(質問文) Q3 あなたの文化芸術活動の主な取り組み方を教えてください。

2.文化芸術活動以外でのケガや病気への備え(SA)

- 文化芸術活動以外でのケガや病気への備えをTOTALでみると、「居住地の国民健康保険に加入している」が61.4%と最も多い。
- 活動領域別でみると、『メディア芸術』、『伝統的な芸能』は「文芸美術国民健康保険組合、東京芸能人国民健康組合等の国民健康保険組合に加入している」が10%程と、TOTALに比べてやや高い。
- 年代別でみると、『29歳以下』は「健康保険に加入している家族の被扶養親族になっている」が21.6%、『70歳以上』は「居住地の国民健康保険に加入している」が75.5%と、それぞれTOTALに比べて高い。

2-1.TOTAL／活動領域別／年代別

- 雇用されているので職場の健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している
- 健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している家族の被扶養親族になっている
- 居住地の国民健康保険に加入している
- 文芸美術国民健康保険組合、東京芸能人国民健康組合等の国民健康保険組合に加入している
- 公的医療保険に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない

	n=	0%	50%	100%
TOTAL	20273	18.3	13.3	61.4
活動領域 音楽	8649	16.8	13.8	63.2
美術・写真・デザイン	2805	18.4	15.2	60.8
演劇・舞踊	4398	22.1	13.2	58.8
メディア芸術	1384	17.3	11.2	58.5
伝統的な芸能	579	16.4	14.0	56.8
芸能	832	12.4	13.5	63.8
スタッフ	1139	19.4	6.7	65.2
その他	487	22.2	13.8	57.3
年代 29歳以下	1213	21.7	21.6	48.6
30歳～39歳	5241	19.2	15.1	60.0
40歳～49歳	6383	19.6	12.9	60.9
50歳～59歳	4451	17.0	12.2	63.6
60歳～69歳	2321	16.1	9.8	64.3
70歳以上	664	7.5	6.5	75.5

非表示：1%未満

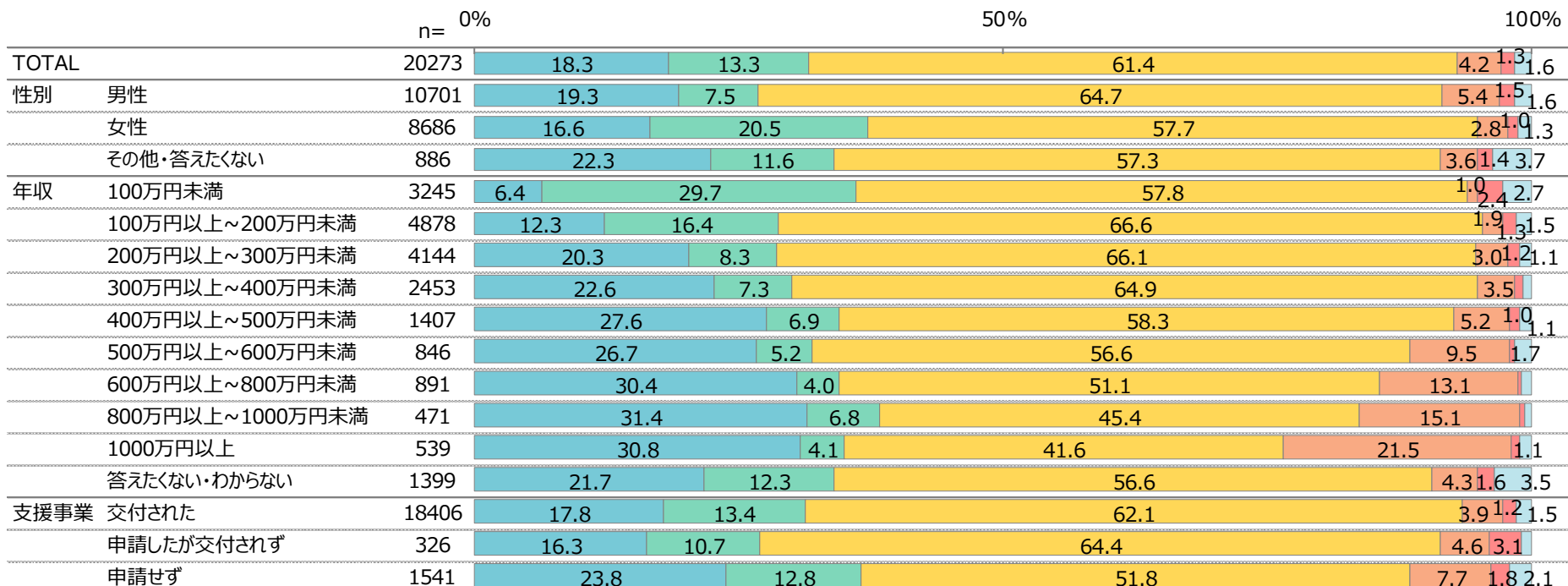
(質問文) Q4 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「文化芸術活動以外でのケガや病気への備え」

2.文化芸術活動以外でのケガや病気への備え(SA)

- 文化芸術活動以外でのケガや病気への備えを性別で見ると、『女性』は「健康保険に加入している家族の被扶養親族になっている」が20.5%とTOTALに比べて高い。
- 年収別で見ると、『600万円以上』は「雇用されているので職場の健康保険に加入している」が30%程とTOTALに比べて高い。また、『800万円以上』は「文芸美術国民健康保険組合、東京芸能人国民健康組合等の国民健康保険組合に加入している」が15%～20%強と高い。

2-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

- 雇用されているので職場の健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している
- 健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している家族の被扶養親族になっている
- 居住地の国民健康保険に加入している
- 文芸美術国民健康保険組合、東京芸能人国民健康組合等の国民健康保険組合に加入している
- 公的医療保険に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない



非表示：1%未満

(質問文) Q4 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「文化芸術活動以外でのケガや病気への備え」

3.高齢になった時への備え(SA)

- 高齢になった時への備えをTOTALで見ると、「国民年金に加入しており、保険料を支払っている」が47.0%と最も多い。次いで、「国民年金に加入しており、保険料の免除・猶予手続きを行っている」「雇用されているので厚生年金に加入している」が10%後半で続く。
- 活動領域別で見ると、『伝統的な芸能』は「国民年金に加入しており、保険料を支払っている」が52.5%とTOTALに比べてやや高い。
- 年代別で見ると、『29歳以下』は「国民年金に加入しており、保険料を支払っている」が34.5%と低い。

3-1.TOTAL／活動領域別／年代別

- 雇用されているので厚生年金に加入している
- 国民年金に加入しており、保険料を支払っている
- 国民年金に加入しており、保険料の免除・猶予手続きを行っている
- 国民年金に加入しているが、扶養されているので保険料を支払っていない
- 公的年金に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない

	n=	0%	50%	100%
TOTAL	20273	17.9	47.0	19.1 6.4 4.9 4.7
活動領域 音楽	8649	16.7	48.5	18.4 6.9 5.0 4.5
美術・写真・デザイン	2805	17.0	46.7	19.2 8.2 4.0 4.9
演劇・舞踊	4398	21.2	42.7	19.6 6.2 5.3 5.0
メディア芸術	1384	16.7	48.7	21.5 4.6 5.0 3.5
伝統的な芸能	579	18.1	52.5	14.9 6.6 2.9 5.0
芸能	832	12.9	46.9	21.8 5.0 6.1 7.3
スタッフ	1139	19.7	50.5	18.4 2.5 5.4 3.5
その他	487	22.6	39.8	21.4 5.5 5.3 5.3
年代 29歳以下	1213	19.0	34.5	23.2 8.3 6.8 8.1
30歳～39歳	5241	17.7	43.3	22.8 7.3 4.0 4.9
40歳～49歳	6383	19.1	47.9	19.3 6.6 3.7 3.4
50歳～59歳	4451	17.4	50.0	19.6 6.6 3.6 2.9
60歳～69歳	2321	17.2	51.5	10.9 3.7 10.4 6.3
70歳以上	664	10.4	54.2	5.4 2.6 10.8 16.6

(質問文) Q5 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「高齢になった時への備え」

3.高齢になった時への備え(SA)

- 高齢になった時への備えを性別で見ると、『女性』は「国民年金に加入しているが、扶養されているので保険料を支払っていない」が12.1%とやや高い。
- 年収別で見ると、『600万円以上』は「雇用されているので厚生年金に加入している」が30%程とTOTALに比べて高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「雇用されているので厚生年金に加入している」が24.3%とTOTALに比べてやや高い。

3-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

- 雇用されているので厚生年金に加入している
- 国民年金に加入しており、保険料を支払っている
- 国民年金に加入しているが、扶養されているので保険料を支払っていない
- 公的年金に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない

	n=	0%	50%	100%
TOTAL	20273	17.9	47.0	19.1 6.4 4.9 4.7
性別				
男性	10701	19.0	48.0	20.0 1.8 6.3 5.0
女性	8686	16.3	46.5	17.8 12.1 3.2 4.0
その他・答えたくない	886	20.3	39.4	21.0 6.1 5.0 8.2
年収				
100万円未満	3245	6.4	34.4	25.9 18.7 7.1 7.6
100万円以上～200万円未満	4878	11.7	44.6	24.7 8.5 5.6 4.8
200万円以上～300万円未満	4144	19.6	48.9	20.3 2.9 4.6 3.7
300万円以上～400万円未満	2453	22.7	53.2	15.7 1.5 5.3 3.3
400万円以上～500万円未満	1407	27.6	52.4	11.5 1.4 4.3 2.8
500万円以上～600万円未満	846	27.4	52.8	11.0 4.1 4.1
600万円以上～800万円未満	891	30.3	56.5	7.9 2.9 1.9
800万円以上～1000万円未満	471	29.1	56.7	8.1 3.4 1.9
1000万円以上	539	29.1	59.6	5.0 2.8 2.8
答えたくない・わからない	1399	20.9	44.8	14.9 5.7 4.8 8.9
支援事業				
交付された	18406	17.4	47.0	19.9 6.5 4.8 4.5
申請したが交付されず	326	17.2	46.0	19.0 4.0 5.8 8.0
申請せず	1541	24.3	46.9	9.5 6.5 6.3 6.5

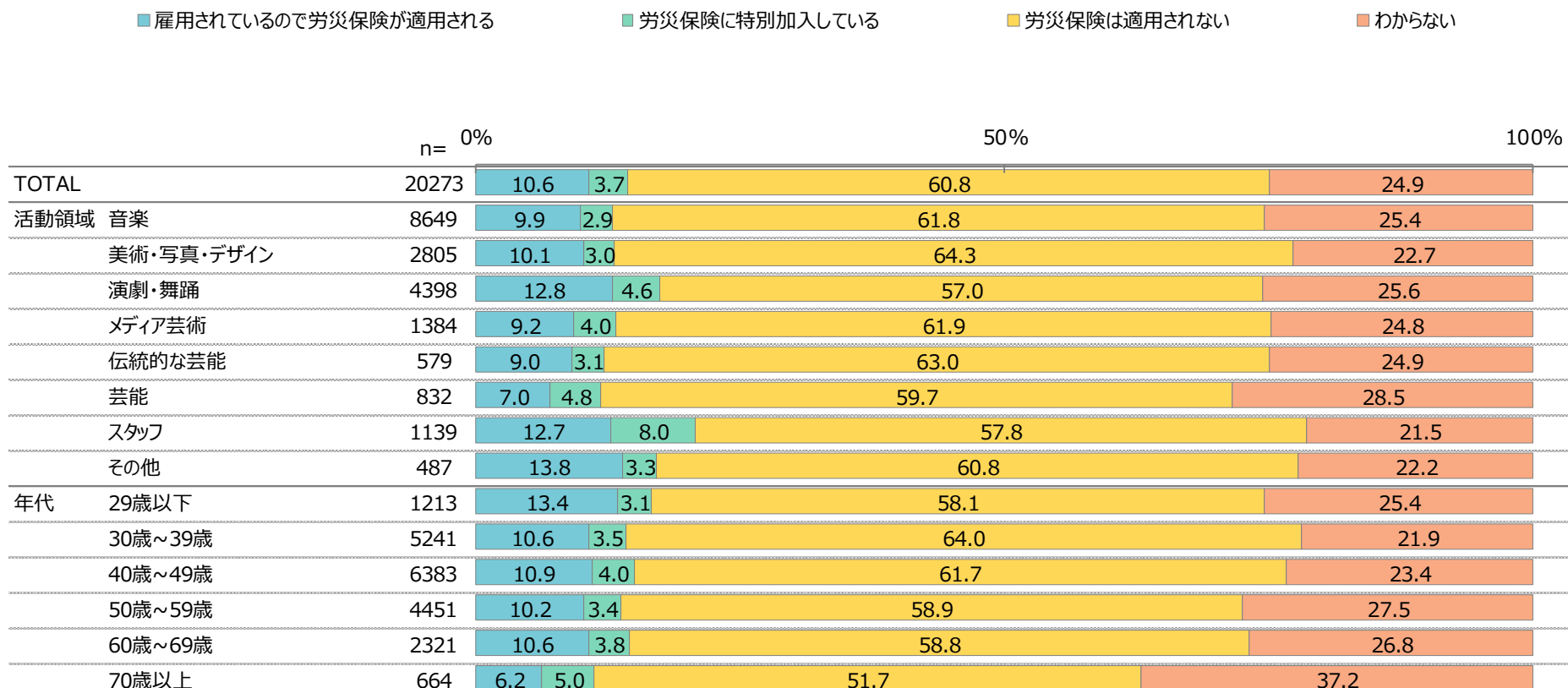
非表示：1%未満

(質問文) Q5 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「高齢になった時への備え」

4.文化芸術活動でのケガや病気への備え(SA)

- 文化芸術活動でのケガや病気への備えをTOTALでみると、「労災保険は適用されない」が60.8%と最も多い。次いで、「わからない」が24.9%で続く。
- 活動領域別でみると、『演劇・舞踊』は「雇用されているので労災保険が適用される」が12.8%と他の領域に比べて僅かに高い。また、『芸能』は「わからない」が28.5%と他の領域に比べて僅かに高い。
- 年代別でみると、『70歳以上』は「わからない」が37.2%とTOTALに比べて特に高い。

4-1.TOTAL／活動領域別／年代別

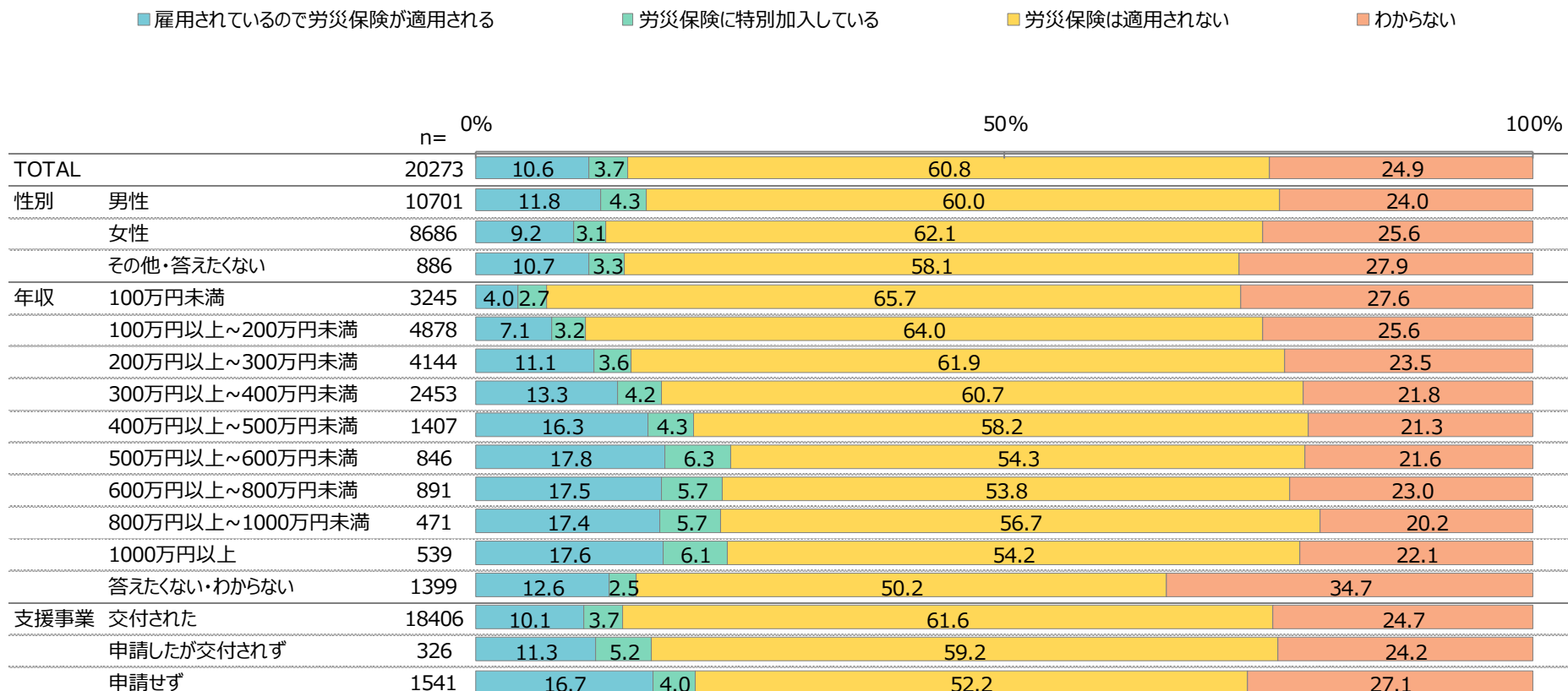


(質問文) Q6 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「文化芸術活動でのケガや病気への備え」

4.文化芸術活動でのケガや病気への備え(SA)

- 文化芸術活動でのケガや病気への備えを年収別で見ると、『400万円以上』は「雇用されているので労災保険が適用される」が10%後半とTOTALに比べてやや高い。
また、『500万円以上～800万円未満』、『1000万円以上』は「労災保険は適用されない」が50%前半とTOTALに比べてやや低い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「雇用されているので労災保険が適用される」が16.7%とTOTALに比べてやや高い。

4-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別



(質問文) Q6 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「文化芸術活動でのケガや病気への備え」

5.仕事が出来なくなった時への備え(SA)

- 仕事が出来なくなった時への備えをTOTALで見ると、「雇用保険は適用されない」が73.8%と最も多い。
- 活動領域別で見ると、『芸能』は「雇用されているので雇用保険が適用される」が7.7%と他の領域に比べてやや低く、「わからない」が18.3%と僅かに高い。
- 年代別で見ると、『29歳以下』は「雇用されているので雇用保険が適用される」が16.9%とTOTALに比べてやや高い。また、『70歳以上』は「わからない」が30.7%とTOTALに比べて特に高い。

5-1.TOTAL／活動領域別／年代別

■ 雇用されているので雇用保険が適用される ■ 雇用保険は適用されない ■ わからない

	n=	0%	50%	100%
TOTAL	20273	11.7	73.8	14.4
活動領域 音楽	8649	10.1	75.6	14.3
美術・写真・デザイン	2805	12.6	74.1	13.3
演劇・舞踊	4398	15.0	69.3	15.7
メディア芸術	1384	11.5	75.8	12.7
伝統的な芸能	579	10.5	74.1	15.4
芸能	832	7.7	74.0	18.3
スタッフ	1139	12.1	75.8	12.1
その他	487	14.6	70.8	14.6
年代 29歳以下	1213	16.9	65.2	17.9
30歳~39歳	5241	13.1	73.6	13.2
40歳~49歳	6383	12.5	75.0	12.5
50歳~59歳	4451	10.2	75.3	14.5
60歳~69歳	2321	8.9	75.2	15.9
70歳以上	664	3.9	65.4	30.7

(質問文) Q7 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「仕事が出来なくなった時への備え」

5.仕事が出来なくなった時への備え(SA)

- 仕事が出来なくなった時への備えを性別で見ると、『その他・答えたくない』は「わからない」が19.4%とTOTALに比べてやや高い。
- 年収別で見ると、『100万円未満』は「雇用保険は適用されない」が80.4%とTOTALに比べて高い。
対して、『400万円以上』は「雇用されているので雇用保険が適用される」が10%後半とTOTALに比べて高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「雇用されているので雇用保険が適用される」が16.7%とTOTALに比べてやや高い。

5-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

■ 雇用されているので雇用保険が適用される ■ 雇用保険は適用されない ■ わからない

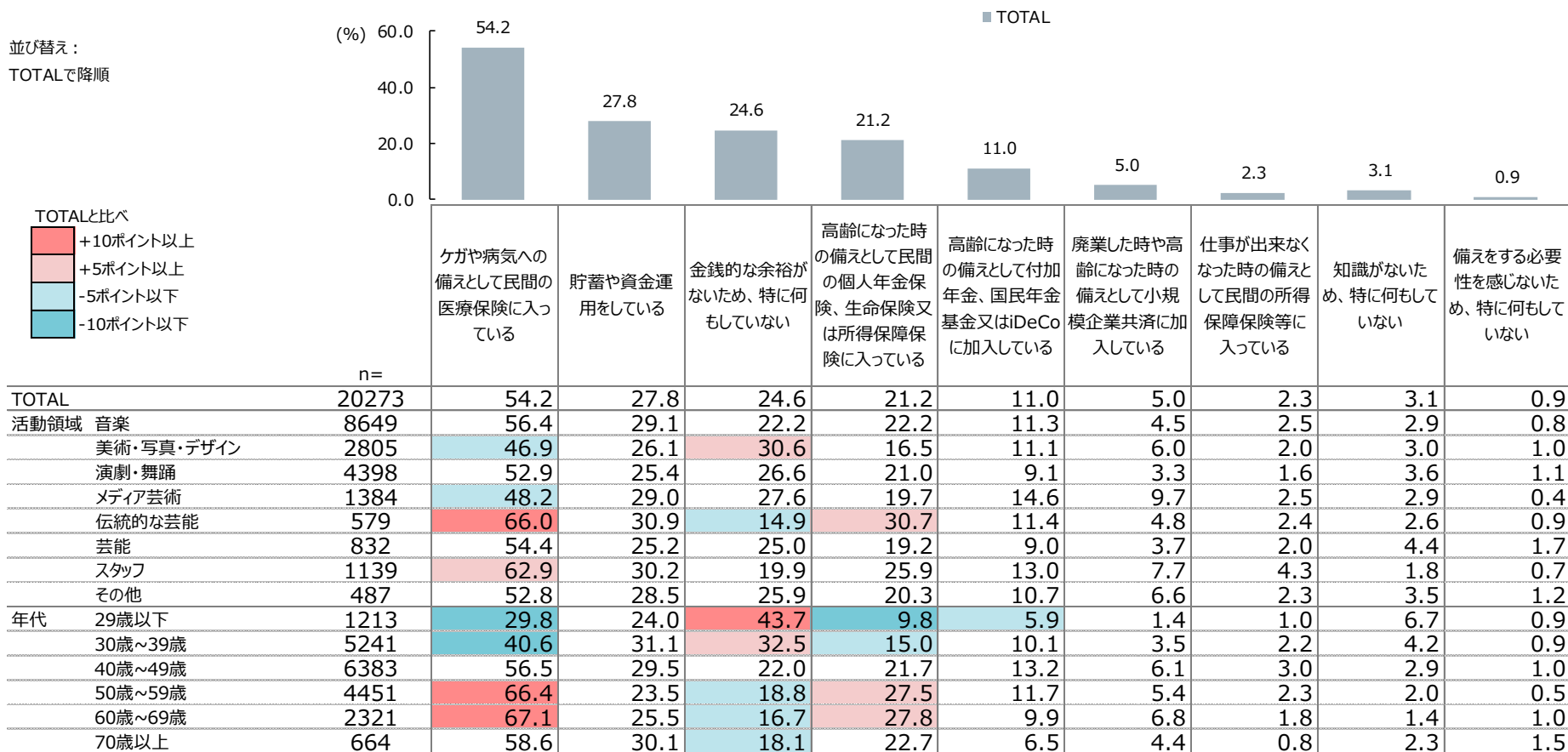
		n=	0%	50%	100%
TOTAL		20273	11.7	73.8	14.4
性別	男性	10701	12.1	73.2	14.7
	女性	8686	11.1	75.2	13.7
	その他・答えたくない	886	13.2	67.4	19.4
年収	100万円未満	3245	3.7	80.4	15.8
	100万円以上～200万円未満	4878	7.9	77.3	14.9
	200万円以上～300万円未満	4144	13.5	73.5	13.1
	300万円以上～400万円未満	2453	15.0	72.0	13.0
	400万円以上～500万円未満	1407	18.2	69.7	12.1
	500万円以上～600万円未満	846	18.9	70.0	11.1
	600万円以上～800万円未満	891	19.6	68.0	12.3
	800万円以上～1000万円未満	471	19.5	66.9	13.6
	1000万円以上	539	16.5	69.8	13.7
	答えたくない・わからない	1399	12.7	64.8	22.5
	支援事業	交付された	18406	11.3	74.6
申請したが交付されず		326	11.7	73.3	15.0
申請せず		1541	16.7	64.6	18.7

(質問文) Q7 あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。「仕事が出来なくなった時への備え」

6.基本的な社会保険以外での備え(MA)

- 基本的な社会保険以外での備えをTOTALでみると、「ケガや病気への備えとして民間の医療保険に入っている」が54.2%と最も多い。
- 活動領域別でみると、『伝統的な芸能』、『スタッフ』は「ケガや病気への備えとして民間の医療保険に入っている」が60%台とやや高く、『美術・写真・デザイン』、『メディア芸術』は40%台とやや低い。また、『美術・写真・デザイン』は「金銭的な余裕がないため、特に何もしていない」が30.6%とやや高い。
- 年代別でみると、『50歳～69歳』は、ケガや病気への備え・高齢になった時の備えとして、「民間の医療保険・個人年金保険・生命保険又は所得保障保険に入っている」がTOTALに比べて高く、『39歳以下』は低い。また、『39歳以下』は「金銭的な余裕がないため、特に何もしていない」がTOTALに比べて高い。

6-1.TOTAL／活動領域別／年代別

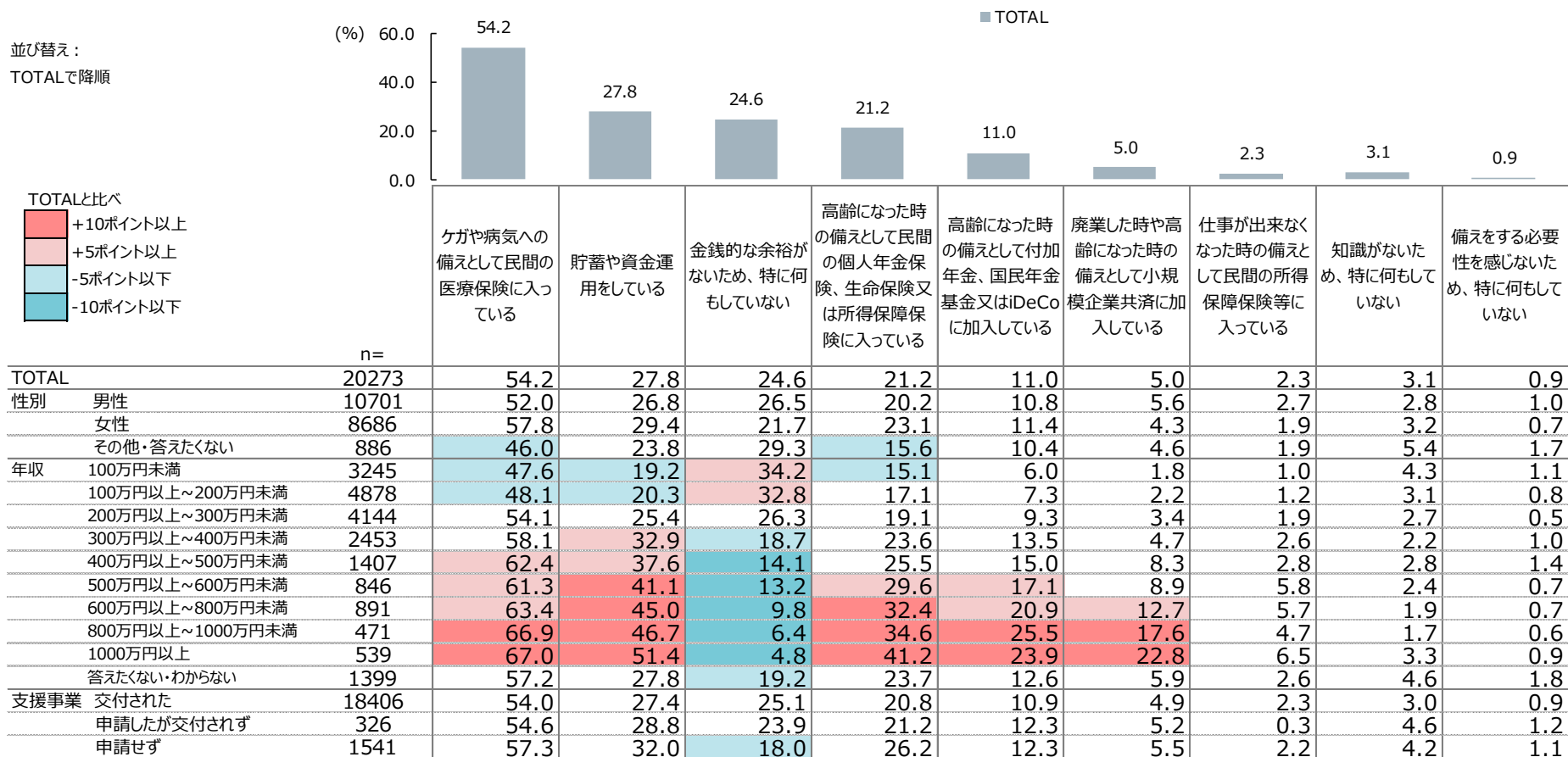


(質問文) Q8 これまでの設問で伺ったあなたの基本的な社会保険以外の備えについて伺います。あてはまるものをすべてお答えください。

6.基本的な社会保険以外での備え(MA)

- 基本的な社会保険以外での備えを性別でみると、『その他・答えたくない』は、ケガや病気への備え・高齢になった時の備えとして、「民間の医療保険・個人年金保険、生命保険又は所得保障保険に入っている」がTOTALに比べてやや低い。
- 年収別でみると、年収が上がるにつれて、社会保険以外の備えもしているという回答が多い傾向。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別でみると、『申請せず』は「金銭的な余裕がないため、特に何もしていない」が18.0%とTOTALに比べてやや低い。

6-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

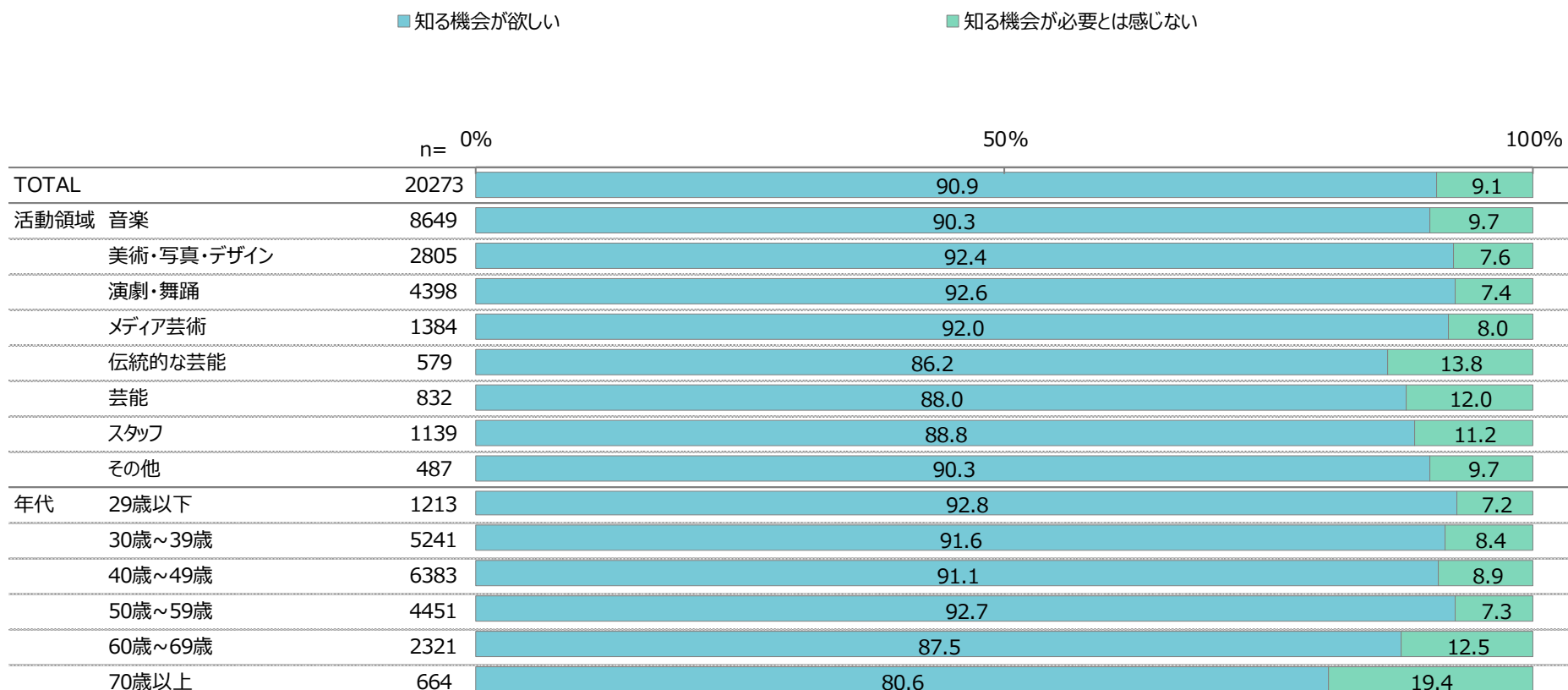


(質問文) Q8 これまでの設問で伺ったあなたの基本的な社会保険以外の備えについて伺います。あてはまるものをすべてお答えください。

7.活用できる公的制度への理解(SA)

- 活用できる公的制度への理解をTOTALで見ると、「知る機会が欲しい」が90.9%、「知る機会が必要とは思わない」が9.1%。
- 活動領域別で見ると、『音楽』、『美術・写真・デザイン』、『演劇・舞踊』、『メディア芸術』は「知る機会が欲しい」が90%台と、他の領域に比べて僅かに高い。
- 年代別で見ると、『60歳以上』は「知る機会が必要とは思わない」が他の年代に比べて高い。

7-1.TOTAL／活動領域別／年代別

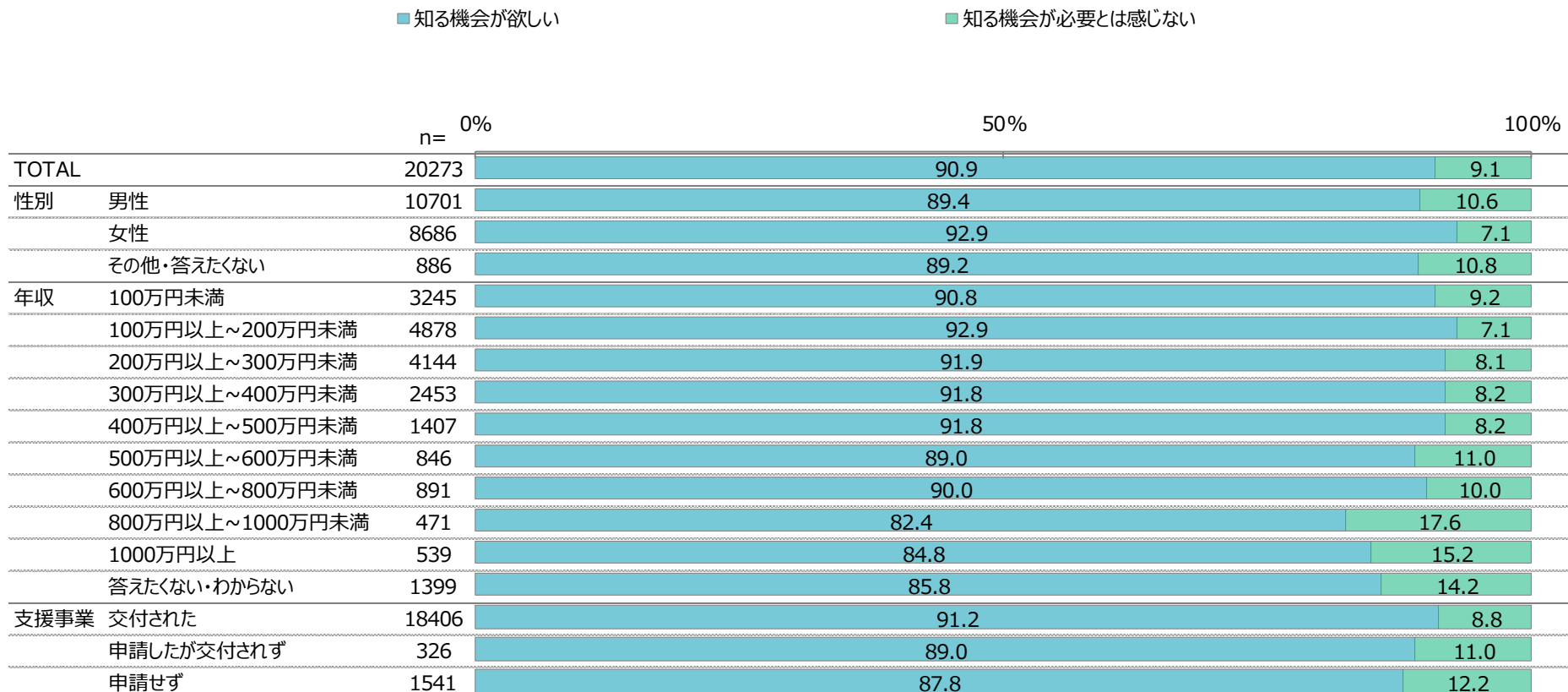


(質問文) Q9 あなたは文化芸術活動や生活維持、老後の備えのために活用できる公的制度について知る機会が欲しいですか。

7.活用できる公的制度への理解(SA)

- 活用できる公的制度への理解を年収別で見ると、『800万円以上』は「知る機会が必要とは思わない」が15%以上とTOTALに比べてやや高い。

7-2.TOTAL/性別/年収別/支援事業別

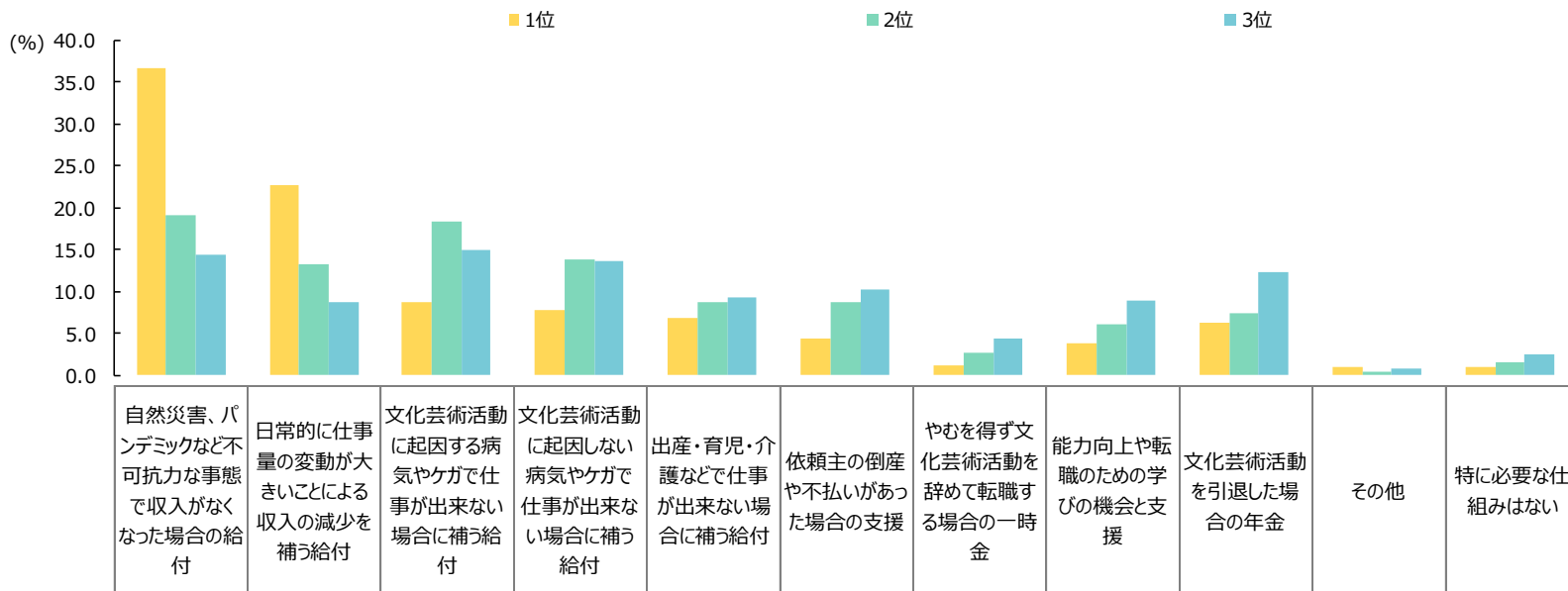


(質問文) Q9 あなたは文化芸術活動や生活維持、老後の備えのために活用できる公的制度について知る機会が欲しいですか。

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)

- 必要とする給付の仕組みをTOTALでみると、『1位』は、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」が36.6%と最も多く、「日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付」が22.7%で続く。『2位』は、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」「文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」が10%後半でTOP2。『3位』は、『2位』と同項目の他、「文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」「文化芸術活動を引退した場合の年金」が10%前半で上位。

8-1.TOTAL



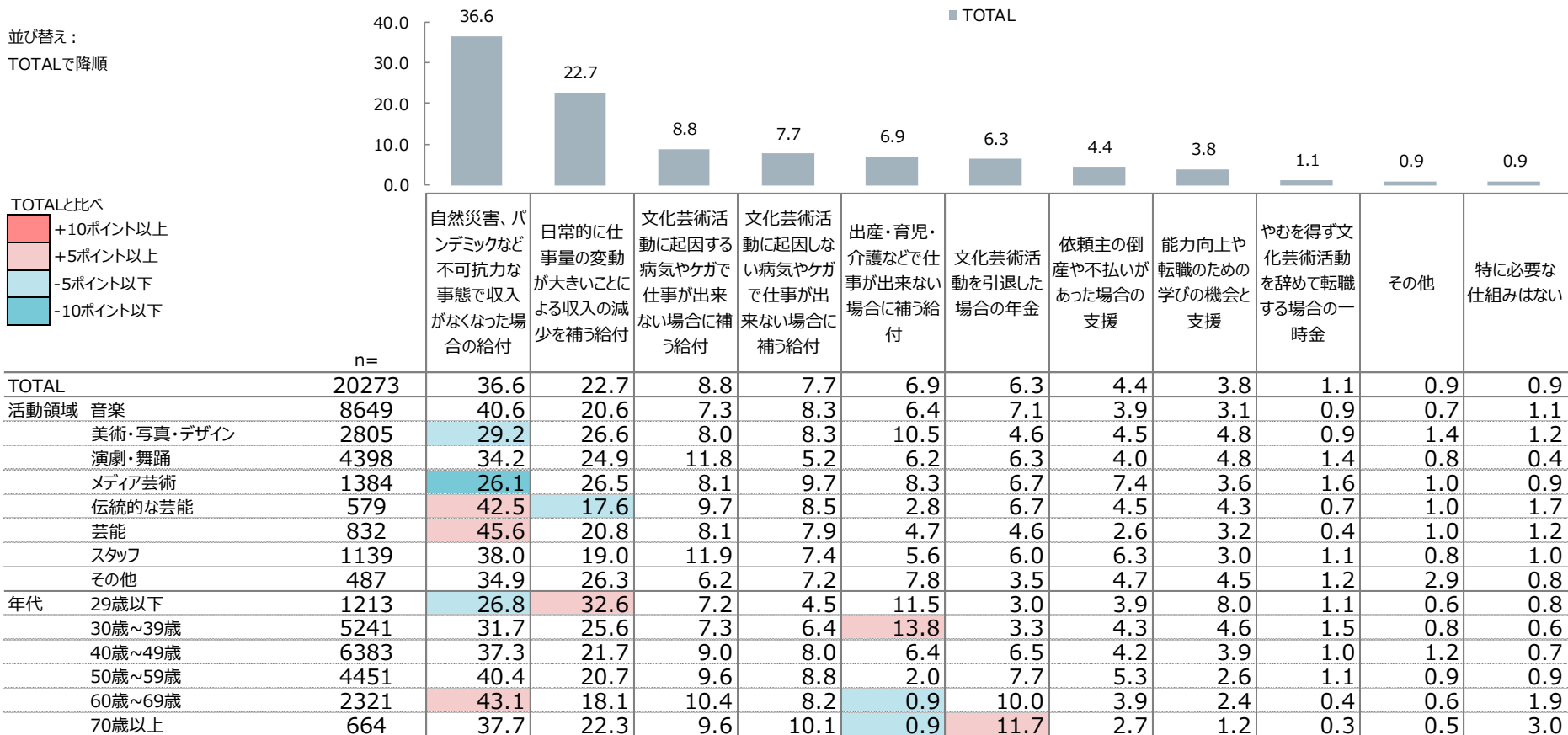
順位	n=	実数	給付の仕組み										
			自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付	日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付	文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付	文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付	出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付	依頼主の倒産や不払いがあった場合の支援	やむを得ず文化芸術活動を辞めて転職する場合の一時金	能力向上や転職のための学びの機会と支援	文化芸術活動を引退した場合の年金	その他	特に必要な仕組みはない
1位	20273	7420	4609	1775	1552	1390	885	218	769	1278	187	190	
		36.6	22.7	8.8	7.7	6.9	4.4	1.1	3.8	6.3	0.9	0.9	
2位	20273	3872	2704	3713	2792	1754	1772	527	1246	1496	103	294	
		19.1	13.3	18.3	13.8	8.7	8.7	2.6	6.1	7.4	0.5	1.5	
3位	20273	2899	1778	3027	2777	1885	2098	864	1806	2507	143	489	
		14.3	8.8	14.9	13.7	9.3	10.3	4.3	8.9	12.4	0.7	2.4	

(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／1位

- 必要とする給付の仕組み(1位)をTOTALでみると、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」が36.6%と最も多い。次いで、「日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付」が22.7%で続く。それ以外の項目はいずれも10%未満である。
- 活動領域別でみると、『伝統的な芸能』、『芸能』は、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」が42~45%程とやや高い。また、『伝統的な芸能』は「日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付」が17.6%とやや低い。
- 年代別でみると、『30歳~39歳』は「出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付」が13.8%とやや高い。

8-2.TOTAL／活動領域別／年代別



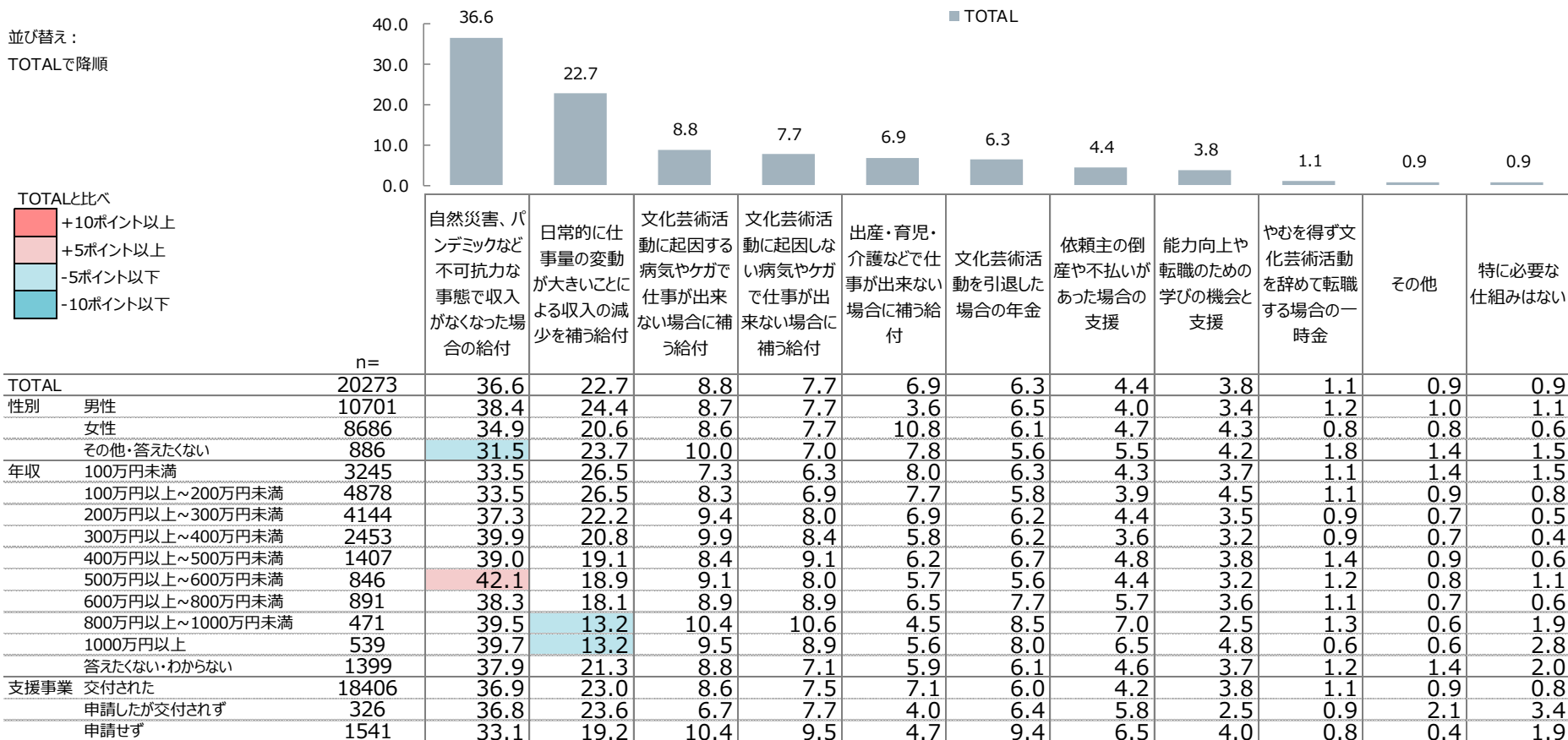
(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／1位

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／1位

- 必要とする給付の仕組み(1位)を年収別で見ると、『500万円～600万円未満』は「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」が42.1%とやや高い。

また、『800万円以上』は「日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付」が13%程とやや低い。

8-3.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

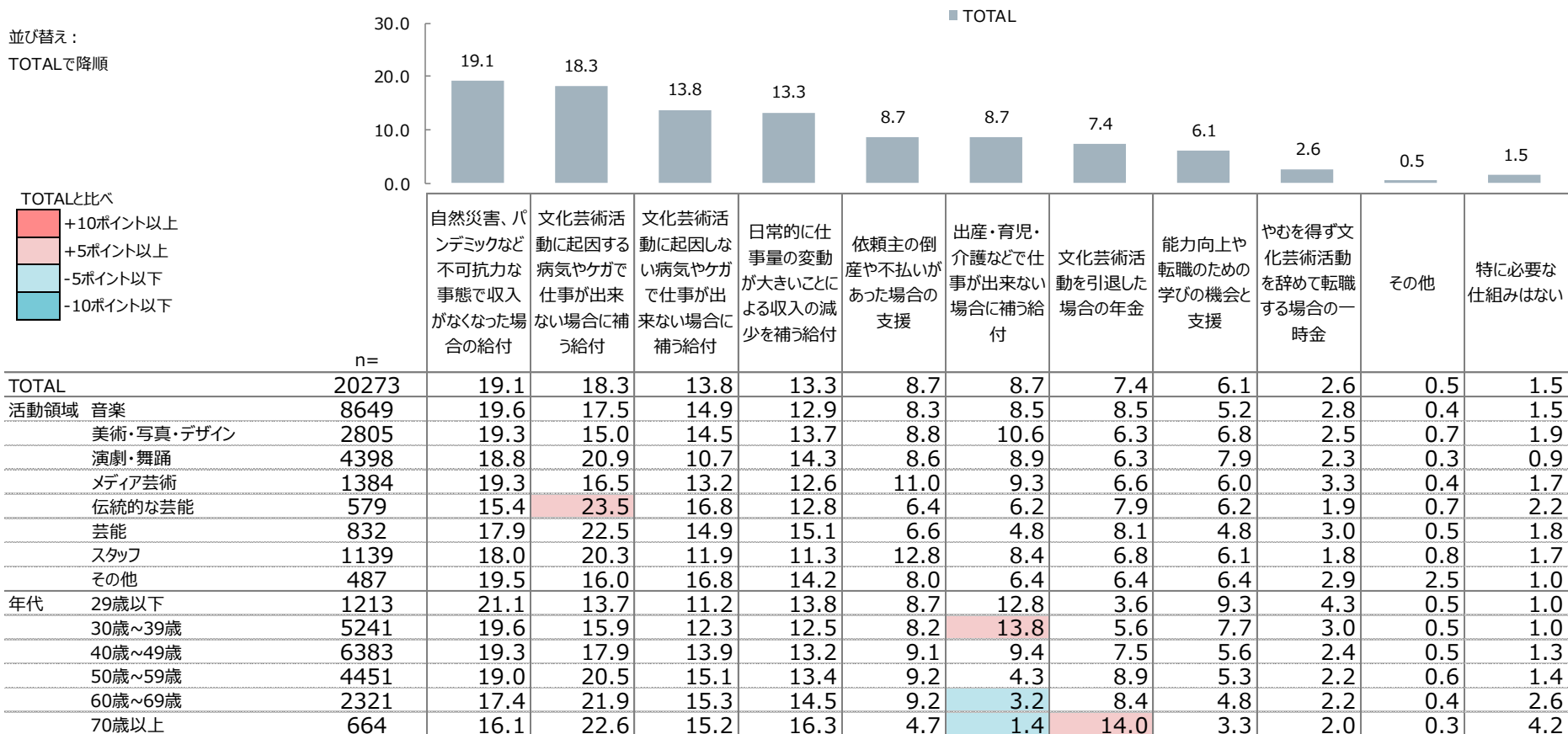


(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／1位

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／2位

- 必要とする給付の仕組み(2位)をTOTALでみると、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」「文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」が10%後半でTOP2。
- 活動領域別でみると、『伝統的な芸能』は「文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」が23.5%とやや高い。
- 年代別でみると、『30歳～39歳』は「出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付」が13.8%とやや高い。

8-4.TOTAL／活動領域別／年代別

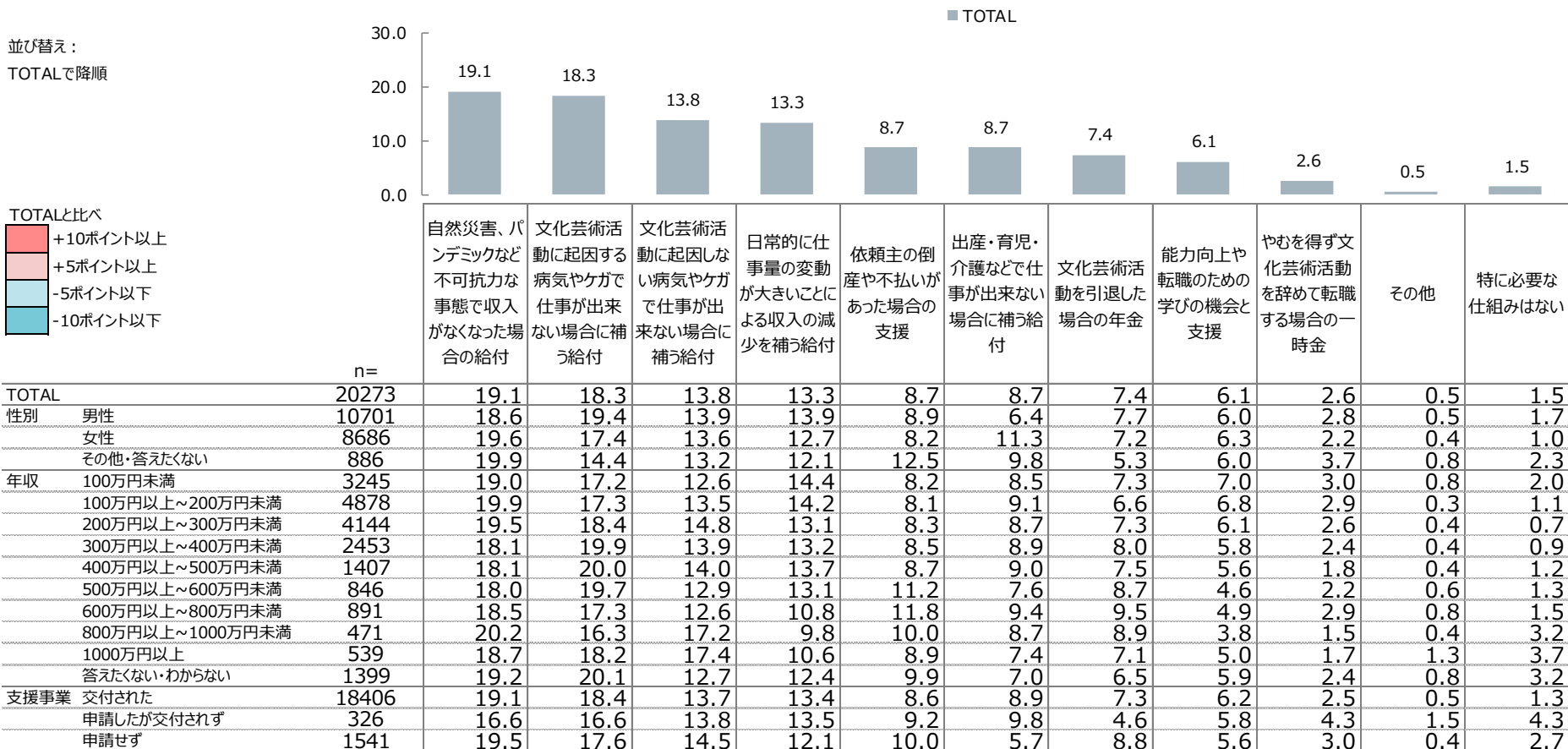


(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。
優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／2位

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／2位

- 必要とする給付の仕組み(2位)を年収別で見ると、『800万円以上』は「文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事ができない場合に補う給付」が17%程と他の年収に比べて僅かに高い。

8-5.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

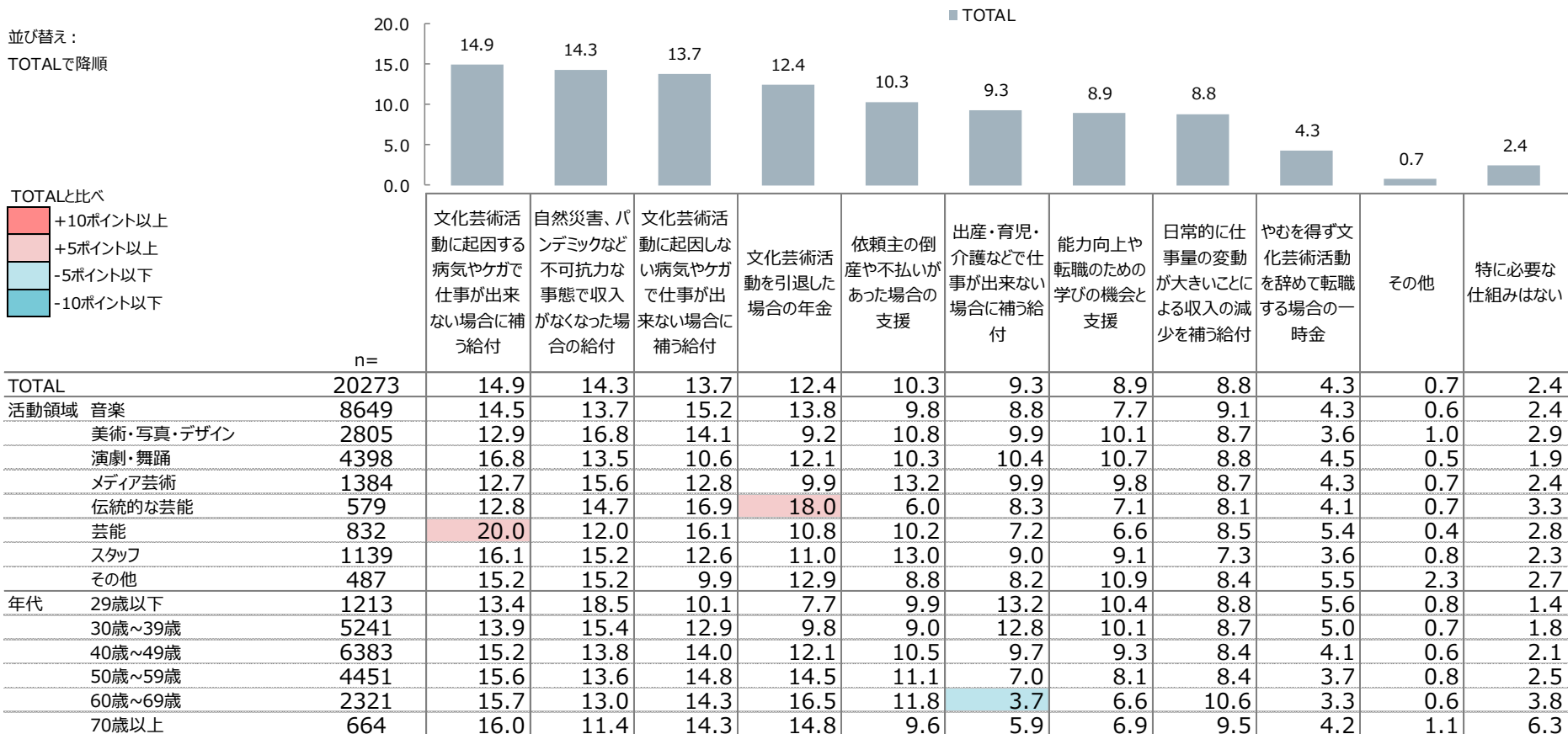


(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／2位

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／3位

- 必要とする給付の仕組み(3位)をTOTALでみると、「文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」、「自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付」、「文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」、「文化芸術活動を引退した場合の年金」が10%前半で上位。
- 活動領域別でみると、『伝統的な芸能』は「文化芸術活動を引退した場合の年金」、『芸能』は「文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付」がそれぞれやや高い。

8-6.TOTAL／活動領域別／年代別

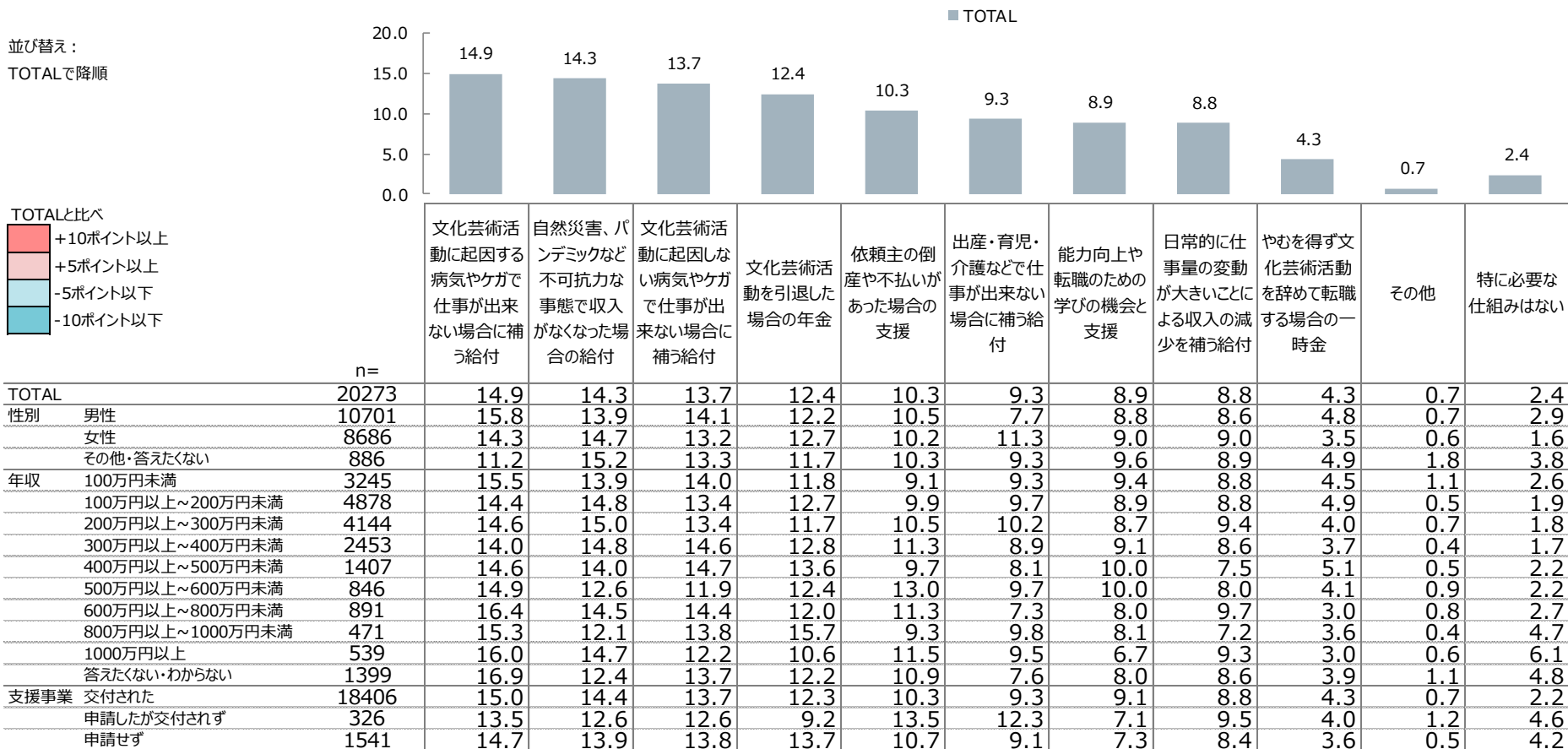


(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／3位

8.必要とする給付の仕組み(SAマトリクス)／3位

- 必要とする給付の仕組み(3位)は、年収別・文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別では大きな差は無い。

8-7.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

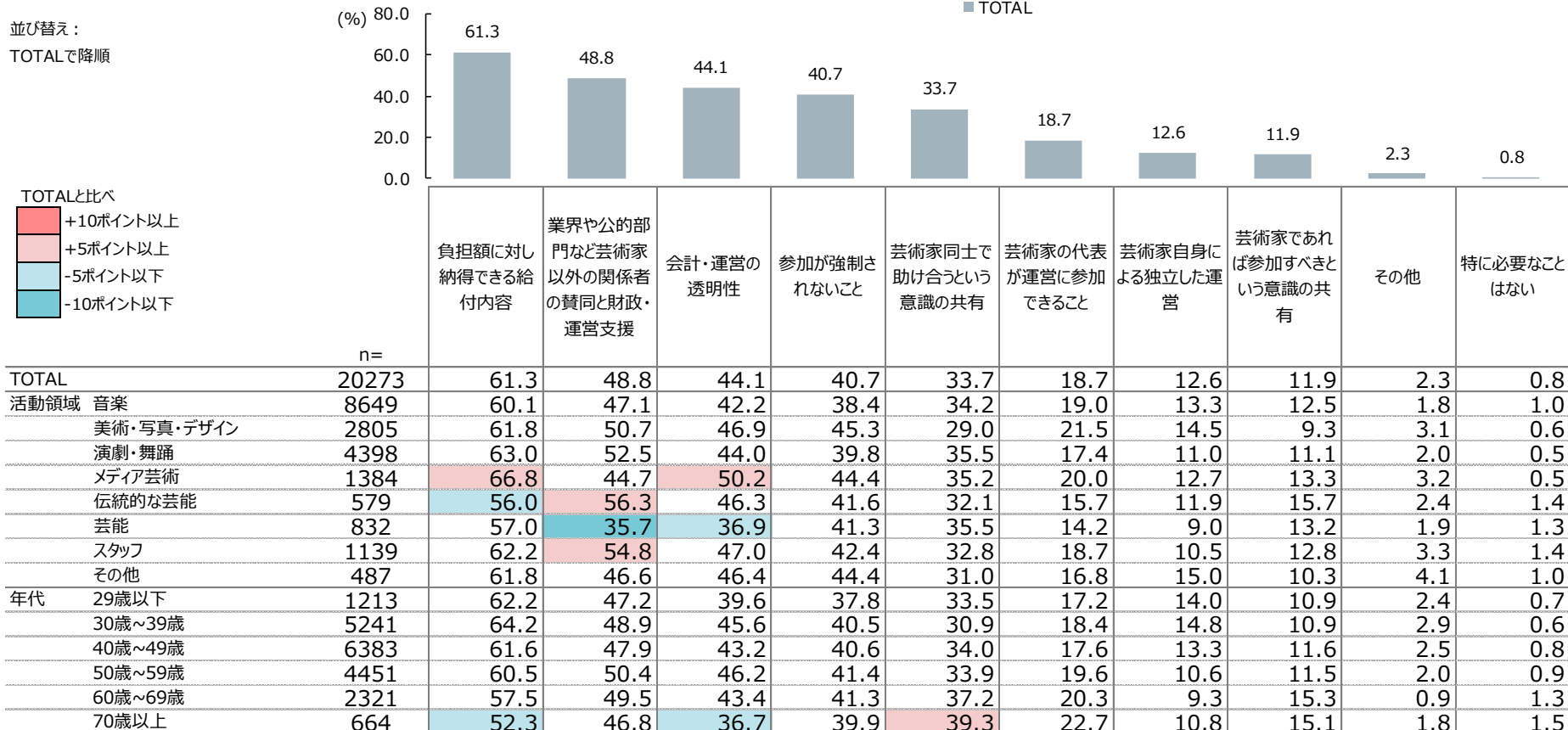


(質問文) Q10「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／3位

9. 互助の仕組みとして必要なこと(MA)

- 互助の仕組みとして必要なことをTOTALでみると、「負担額に対し納得できる給付内容」が61.3%と最も多い。次いで、「業界や公的部門など芸術家以外の関係者の賛同と財政・運営支援」、「会計・運営の透明性」、「参加が強制されないこと」が40%台で続く。
- 活動領域別でみると、『メディア芸術』は「負担額に対して納得できる給付内容」、「会計・運営の透明性」がやや高く、『伝統的な芸能』、『スタッフ』は「業界や公的部門など芸術家以外の関係者の賛同と財政・運営支援」がやや高い。

9-1. TOTAL/活動領域別/年代別

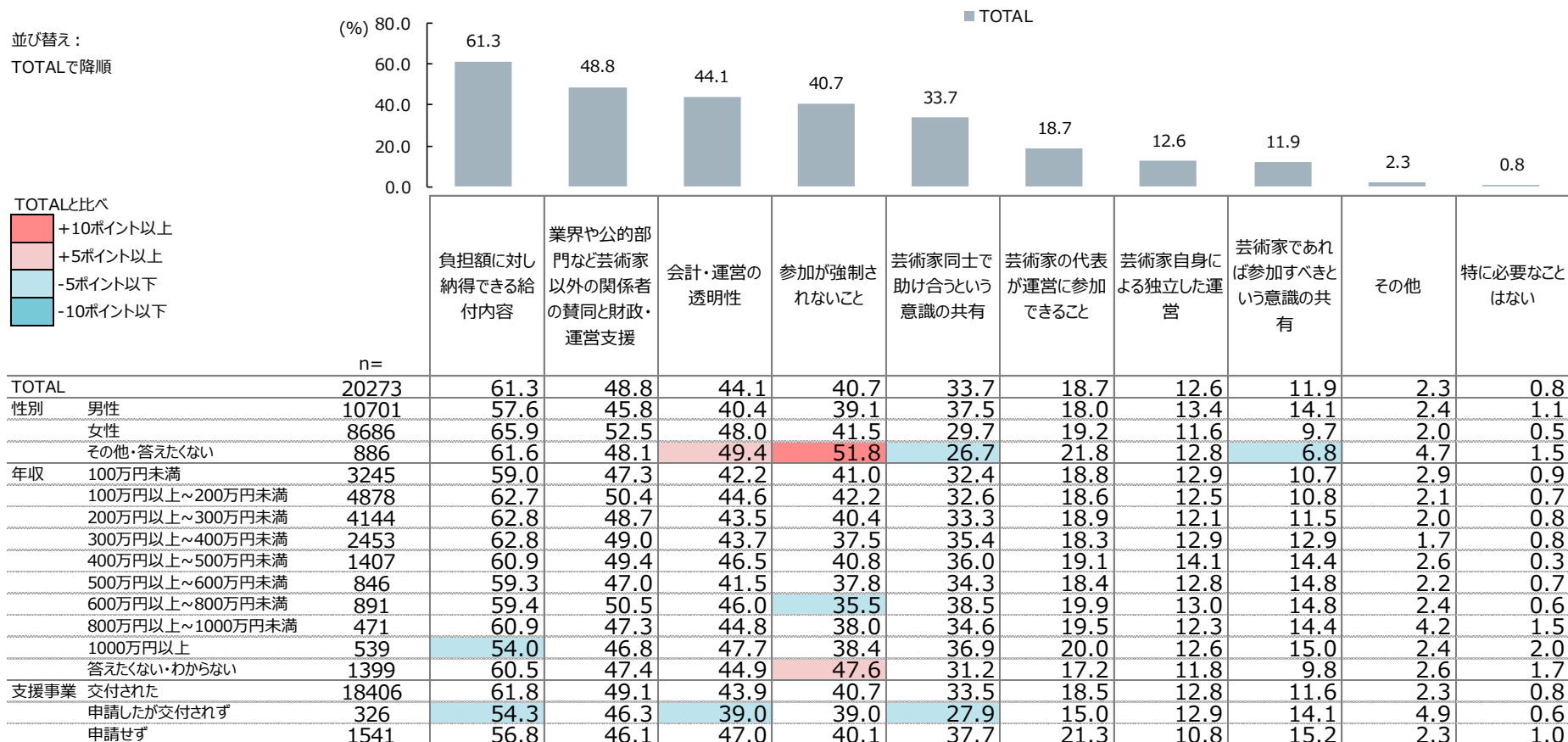


(質問文) Q11「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる上で何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。

9. 互助の仕組みとして必要なこと(MA)

- 互助の仕組みとして必要なことを性別で見ると、『その他・答えたくない』は「参加が強制されないこと」が51.8%とTOTALに比べて高い。
- 年収別で見ると、『600万円以上～800万円未満』は「参加が強制されないこと」、『1000万円以上』は「負担額に対し納得できる給付内容」がTOTALに比べてやや低い。

9-2. TOTAL / 性別 / 年収別 / 支援事業別



(質問文) Q11「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる上で何が重要だと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。

10. 支え合いの仕組みへの賛同(SA)

- 支え合いの仕組みへの賛同をTOTALで見ると、「仕組みをつくることに賛同する」が92.1%と、ポジティブな意見が大半を占める。

10-1. TOTAL／活動領域別／年代別

■ 仕組みをつくることに賛同する

■ 仕組みをつくることに賛同しない

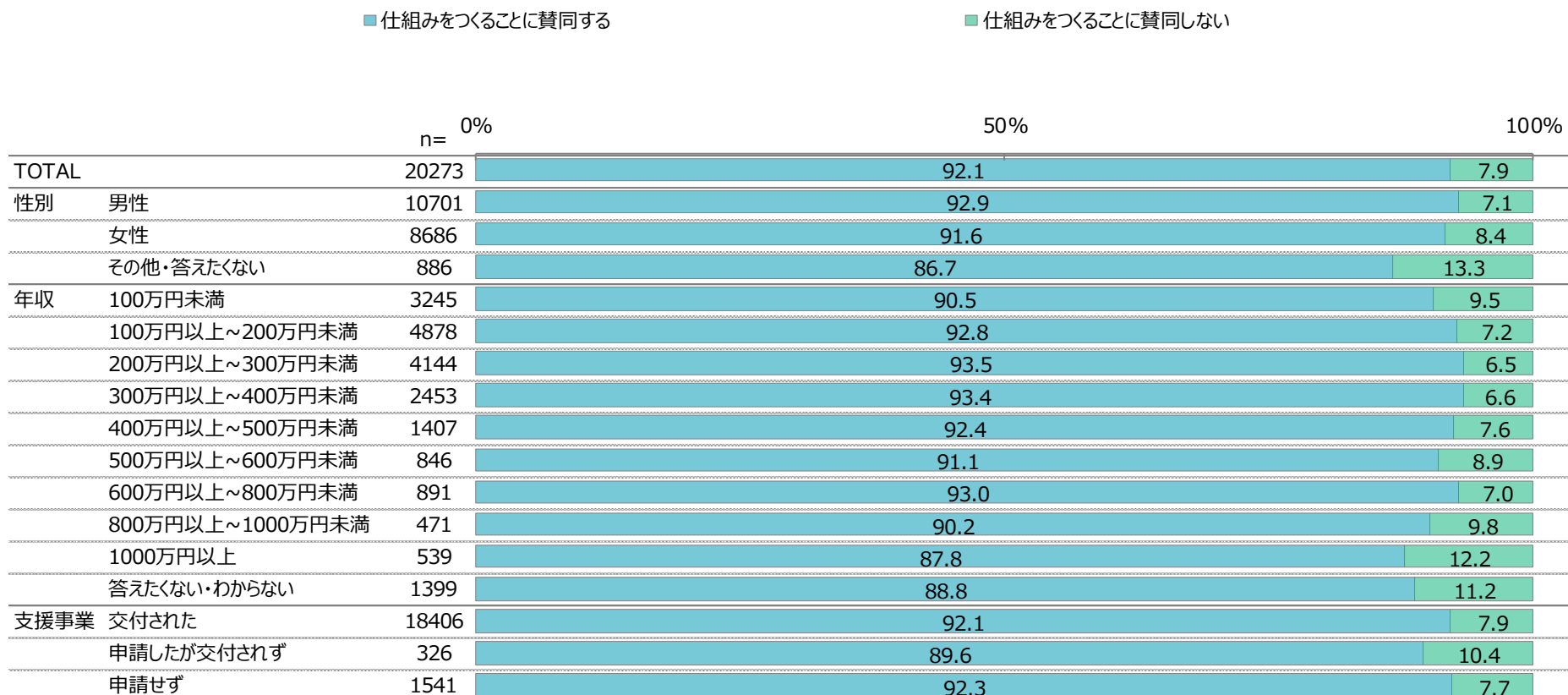
	n=	0%	50%	100%
TOTAL	20273		92.1	7.9
活動領域				
音楽	8649		91.5	8.5
美術・写真・デザイン	2805		91.6	8.4
演劇・舞踊	4398		93.3	6.7
メディア芸術	1384		94.4	5.6
伝統的な芸能	579		90.8	9.2
芸能	832		90.3	9.7
スタッフ	1139		92.6	7.4
その他	487		91.4	8.6
年代				
29歳以下	1213		94.5	5.5
30歳～39歳	5241		92.3	7.7
40歳～49歳	6383		92.6	7.4
50歳～59歳	4451		91.2	8.8
60歳～69歳	2321		91.2	8.8
70歳以上	664		90.5	9.5

(質問文) Q12「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくることについてお考えを教えてください。

10. 支え合いの仕組みへの賛同(SA)

- 支え合いの仕組みへの賛同を性別で見ると、『その他・答えたくない』は「仕組みづくりに賛同しない」が13.3%とやや高い。
- 年収別で見ると、『800万円以上』は「仕組みづくりに賛同しない」が10%前後と、他の年収に比べてやや高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請したが交付されず』は「仕組みづくりに賛同しない」が10.4%と、『交付された』、『申請せず』に比べて僅かに高い。

10-2. TOTAL／性別／年収別／支援事業別

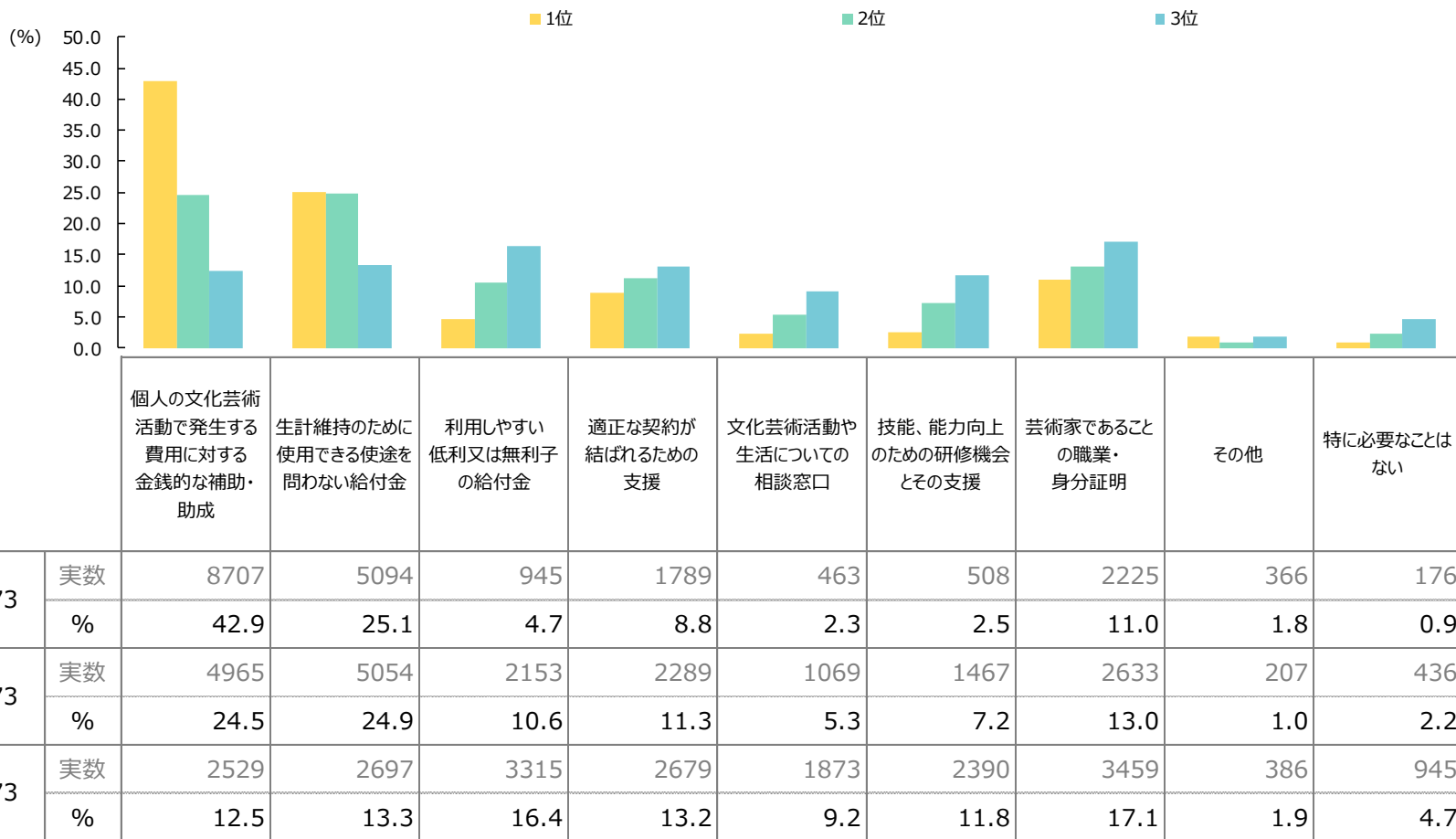


(質問文) Q12「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくることについてお考えを教えてください。

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)

- 芸能活動継続のサポートとして必要なことをTOTALでみると、『1位』は、「個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成」が42.9%と最も多い。次いで、「生計維持のために使用できる用途を問わない給付金」が25.1%で続く。『2位』は、「個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成」、「生計維持のために使用できる用途を問わない給付金」が24~25%程でTOP2。『3位』は、「利用しやすい低利子又は無利子の給付金」、「芸術家であることの職業・身分証明」が15%以上でTOP2。

11-1.TOTAL

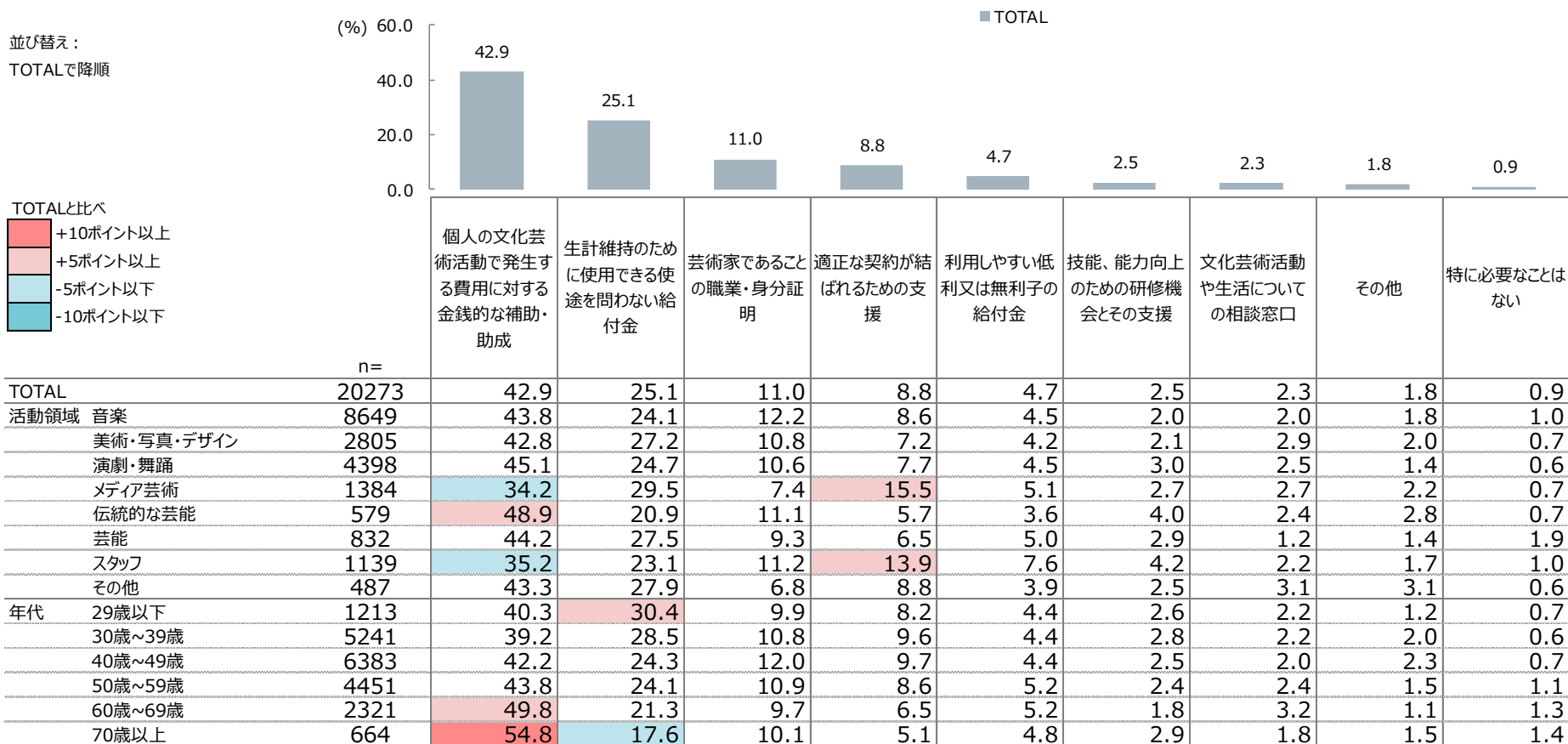


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が重要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／1位

- 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(1位)をTOTALでみると、「個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成」が42.9%と最も多い。次いで、「生計維持のために使用できる用途を問わない給付金」が25.1%で続く。
- 活動領域別でみると、『メディア芸術』、『スタッフ』は「適正な契約が結ばれるための支援」、『伝統的な芸能』は「個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成」がそれぞれTOTALに比べてやや高い。
- 年代別でみると、『29歳以下』は「生計維持のために使用できる用途を問わない給付金」が30.4%とやや高い。

11-2. TOTAL／活動領域別／年代別

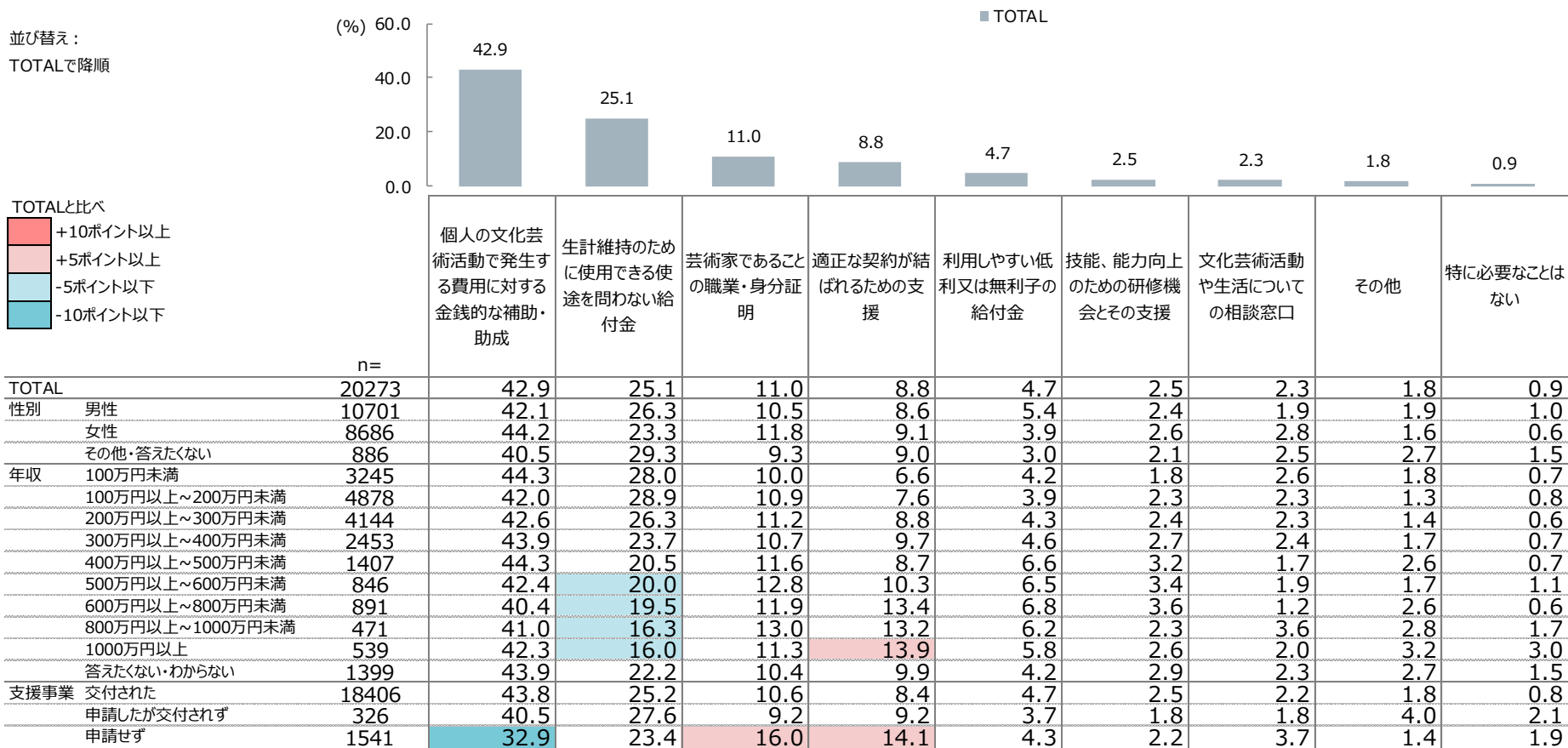


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／1位

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／1位

- 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(1位)を年収別でみると、『800万円以上』は「生計維持のために使用できる使途を問わない給付金」が16%程と低い。
また、『600万円以上』は「適正な契約が結ばれるための支援」が13%台とTOTALに比べてやや高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別でみると、『申請せず』は「芸術家であることの職業・身分証明」「適正な契約が結ばれるための支援」が15%前後とやや高い。

11-3. TOTAL／性別／年収別／支援事業別

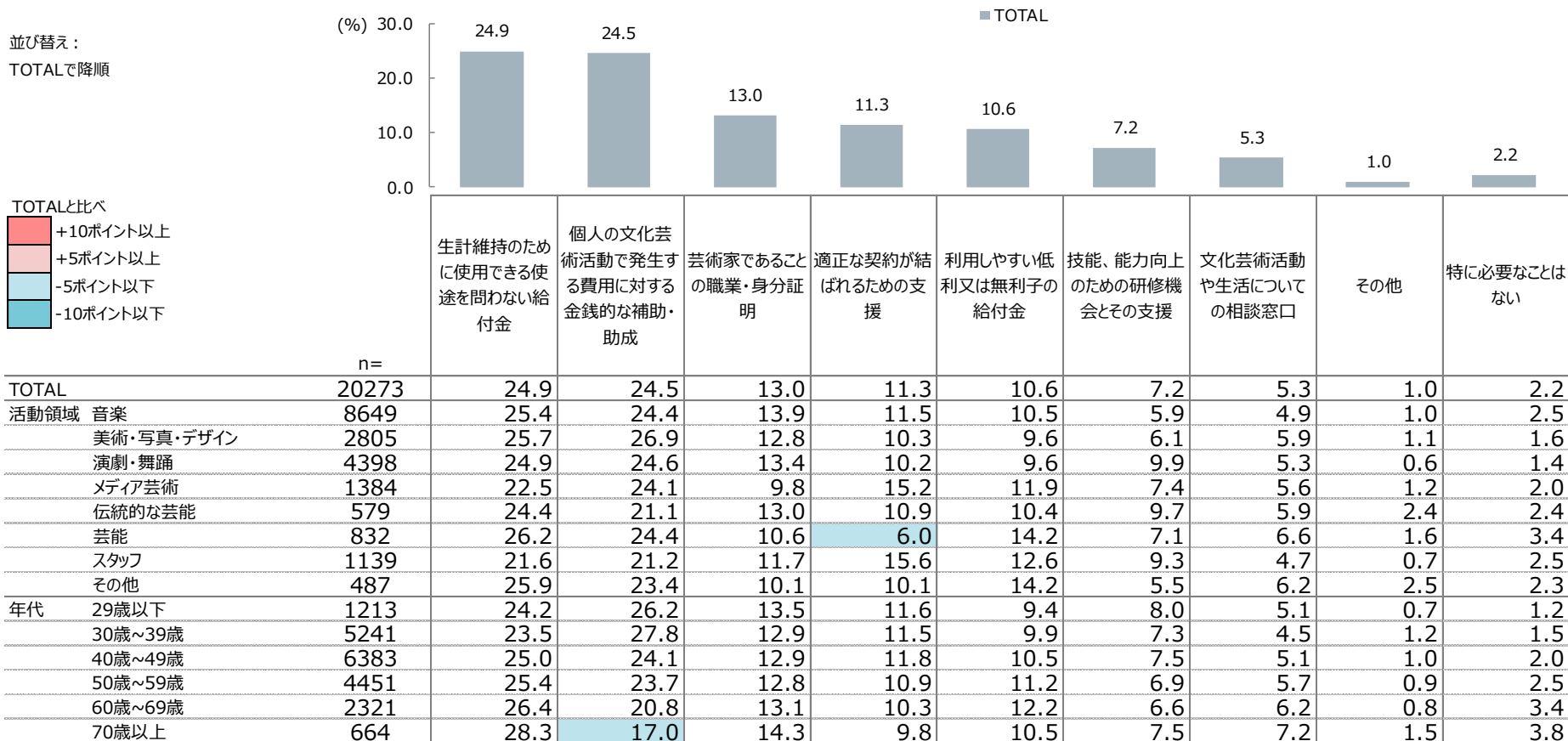


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／1位

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／2位

- 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(2位)をTOTALでみると、「生計維持のために使用できる用途を問わない給付金」、「個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成」が24%程でTOP2。
- 活動領域別でみると、『芸能』は「適正な契約が結ばれるための支援」が6.0%と他の領域に比べて低い。

11-4. TOTAL／活動領域別／年代別

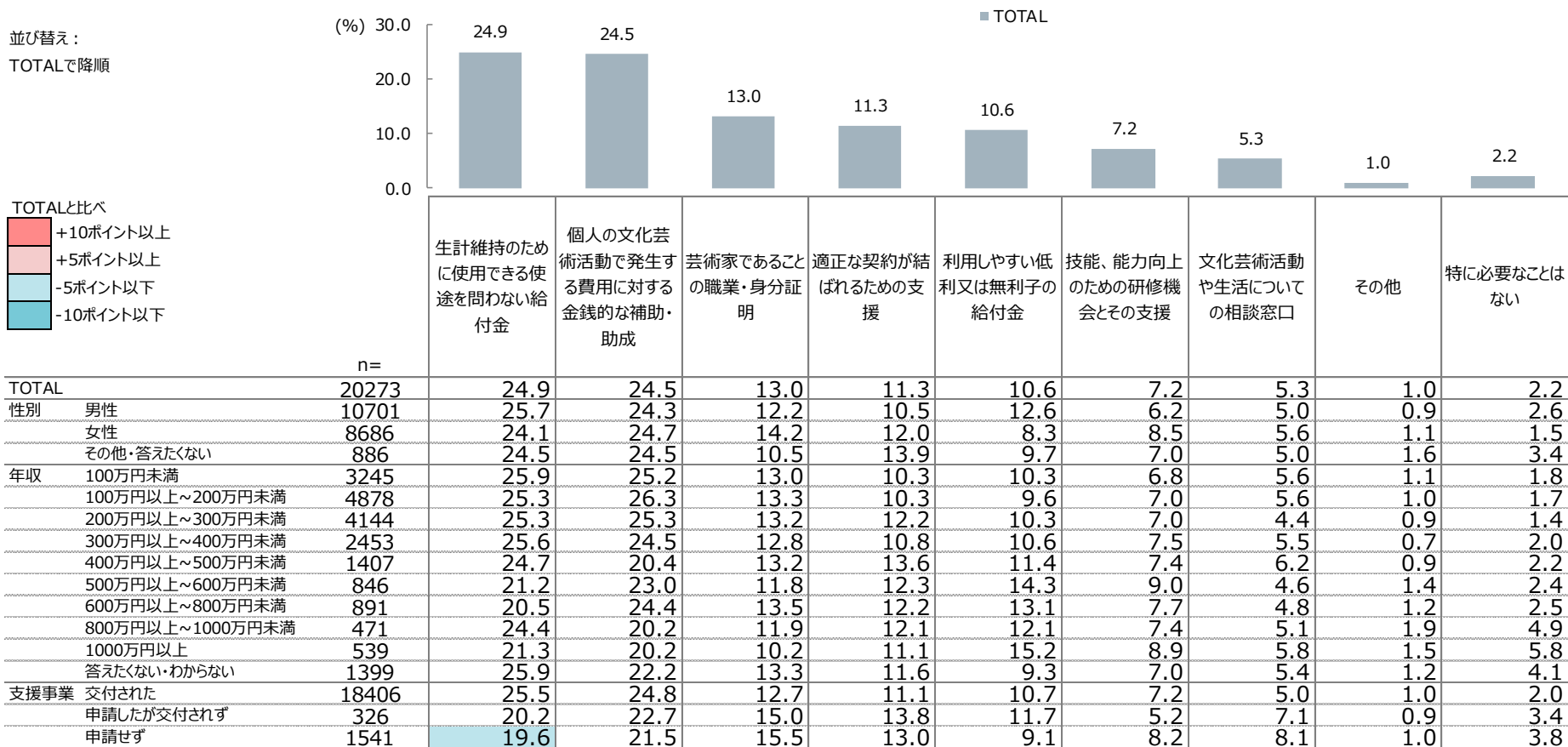


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／2位

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／2位

- 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(2位)を文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「生活維持のために使用できる用途を問わない給付金」が19.6%とTOTALに比べてやや低い。

11-5. TOTAL／性別／年収別／支援事業別

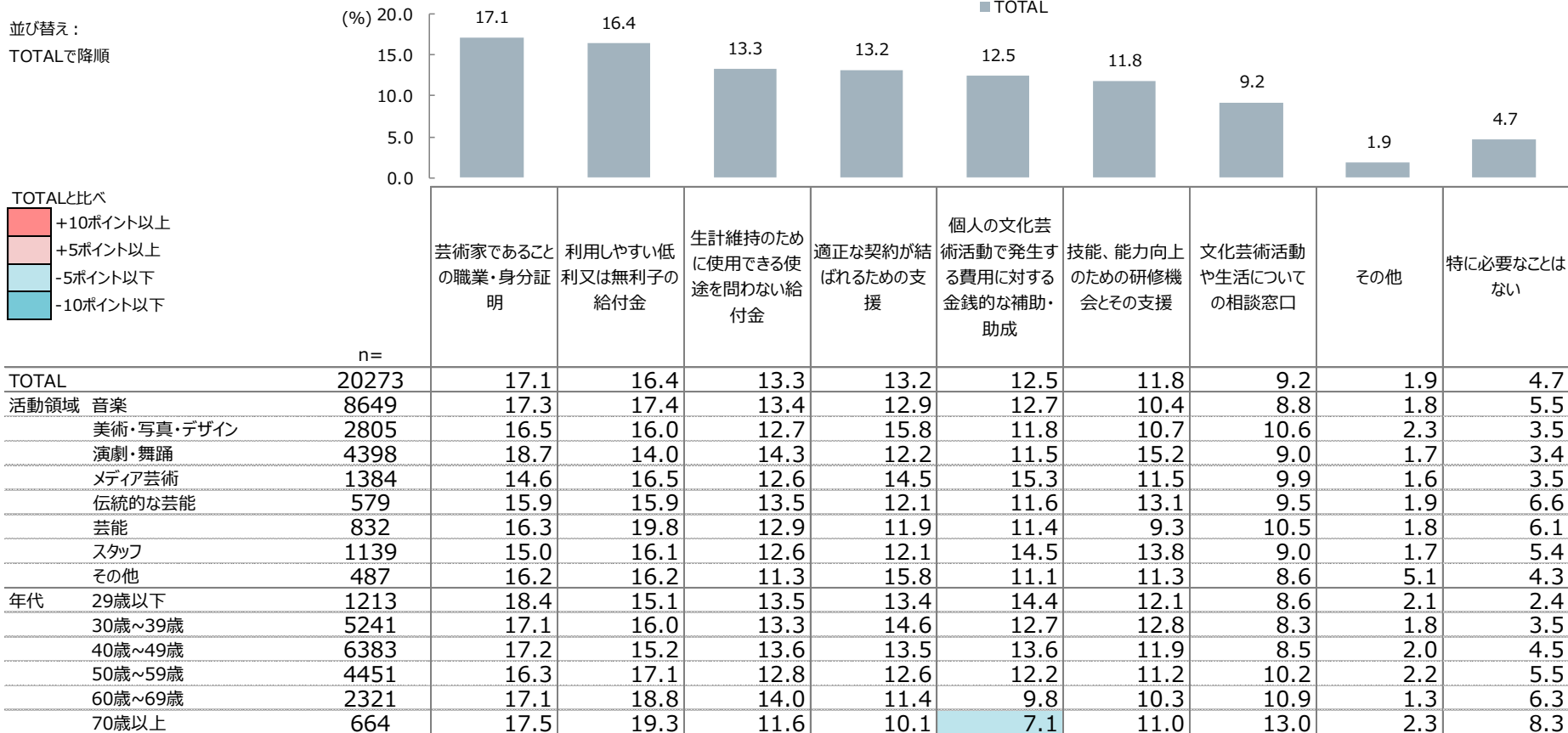


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／2位

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／3位

- 芸術活動継続のサポートとして必要なこと(3位)をTOTALでみると、「芸術家であることの職業・身分証明」、「利用しやすい低利子又は無利子の給付金」が15%以上でTOP2。

11-6. TOTAL／活動領域別／年代別

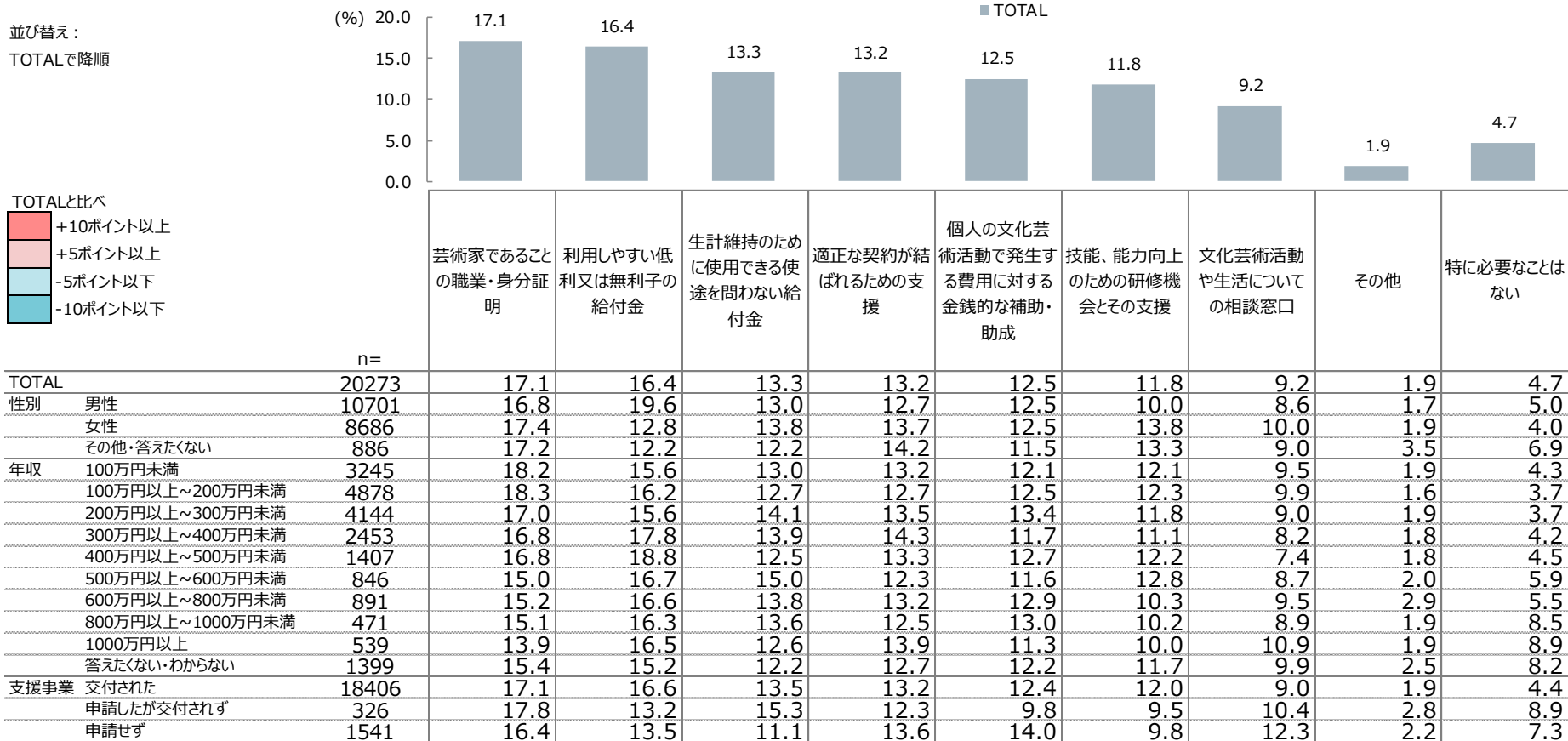


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／3位

11. 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(SAマトリクス)／3位

- 芸能活動継続のサポートとして必要なこと(3位)を性別でみると、『男性』は「利用しやすい低利子又は無利子の給付金」が19.6%と、『女性(12.8%)』『その他・答えたくない(12.2%)』に比べてやや高い。

11-7.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

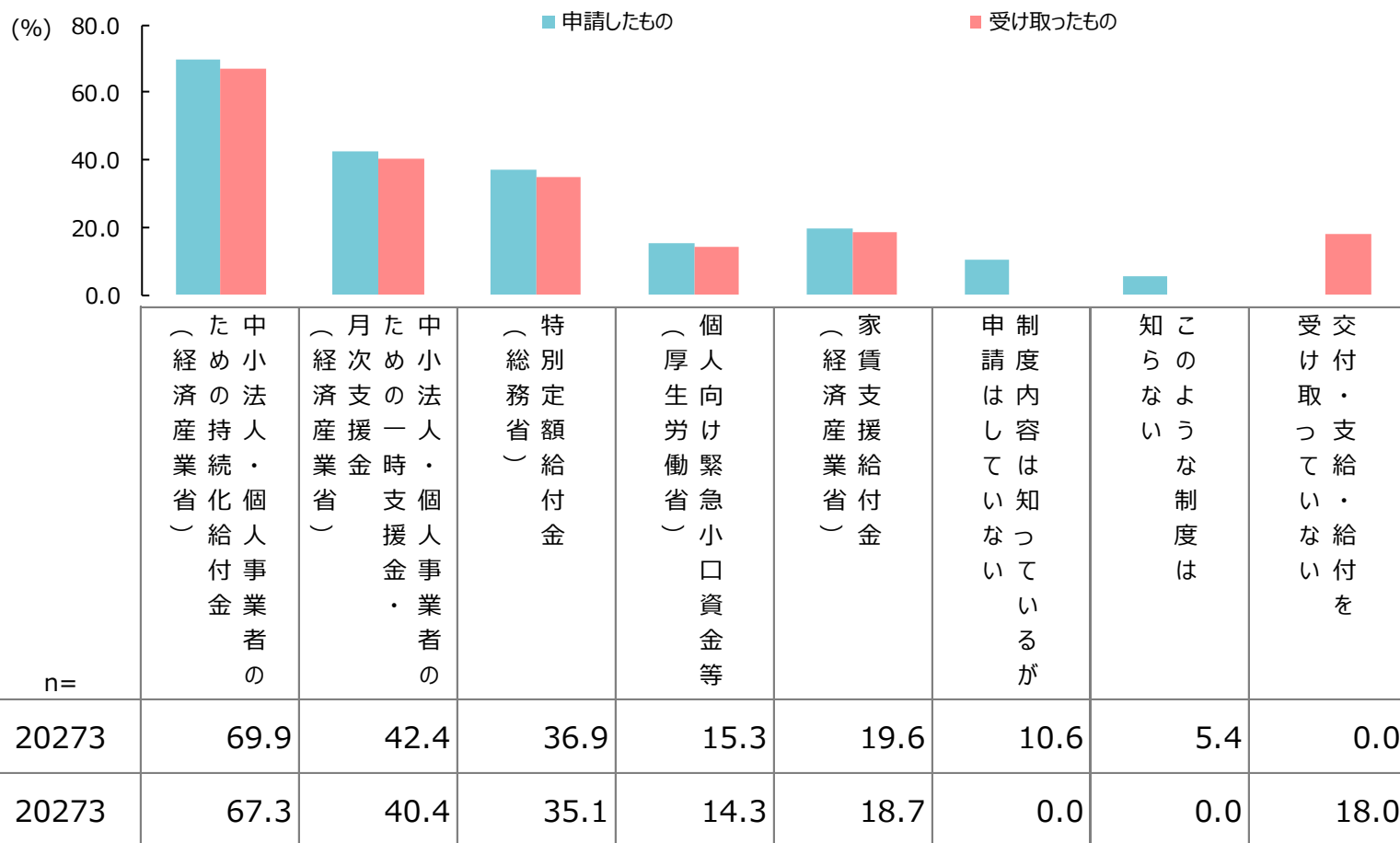


(質問文) Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。／3位

12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したものの(MAマトリクス)

- 新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したものをTOTALで見ると、『申請したもの』、『受け取ったもの』いずれも「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が60%後半～70%程と最も多い。次いで、「中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金」が40%程、「特別定額給付金」が35%程で続く。

12-1.TOTAL

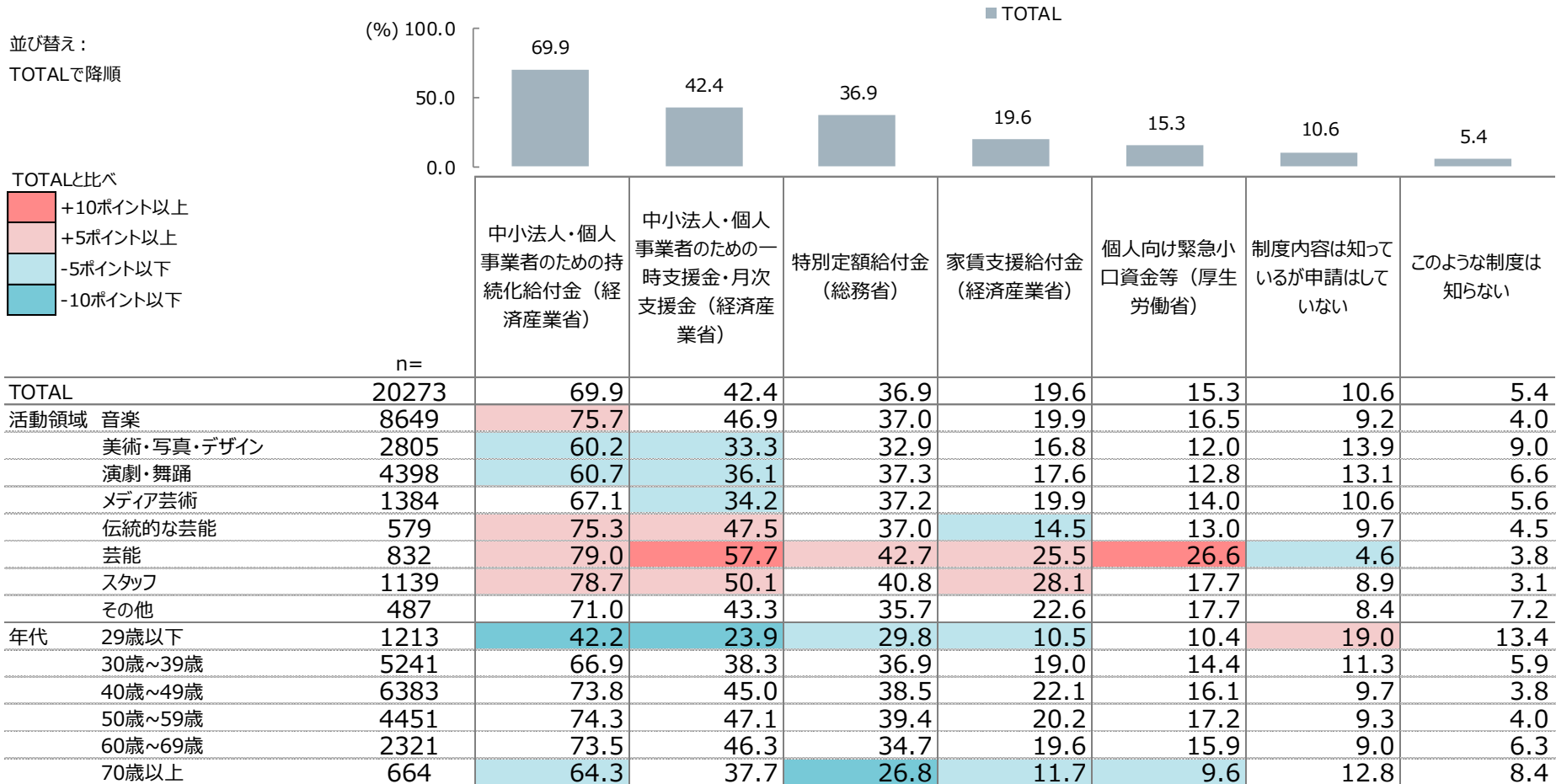


(質問文) Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。

12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(MAマトリクス)／1.申請したもの

- 新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(申請したもの)をTOTALでみると、「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が69.9%と最も多い。次いで、「中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金」が42.4%、「特別定額給付金」が36.9%で続く。
- 活動領域別でみると、『芸能』はいずれの制度もTOTALに比べてスコアが高く、新型コロナウイルス感染症対策の制度への申請が高い模様。中でも、「中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金」、「個人向け緊急小口資金等」がTOTALに比べて10pt以上高い。
- 年代別でみると、『29歳以下』は「制度内容は知っているが、申請はしていない」が19.0%とTOTALに比べて高い。

12-2.TOTAL／活動領域別／年代別

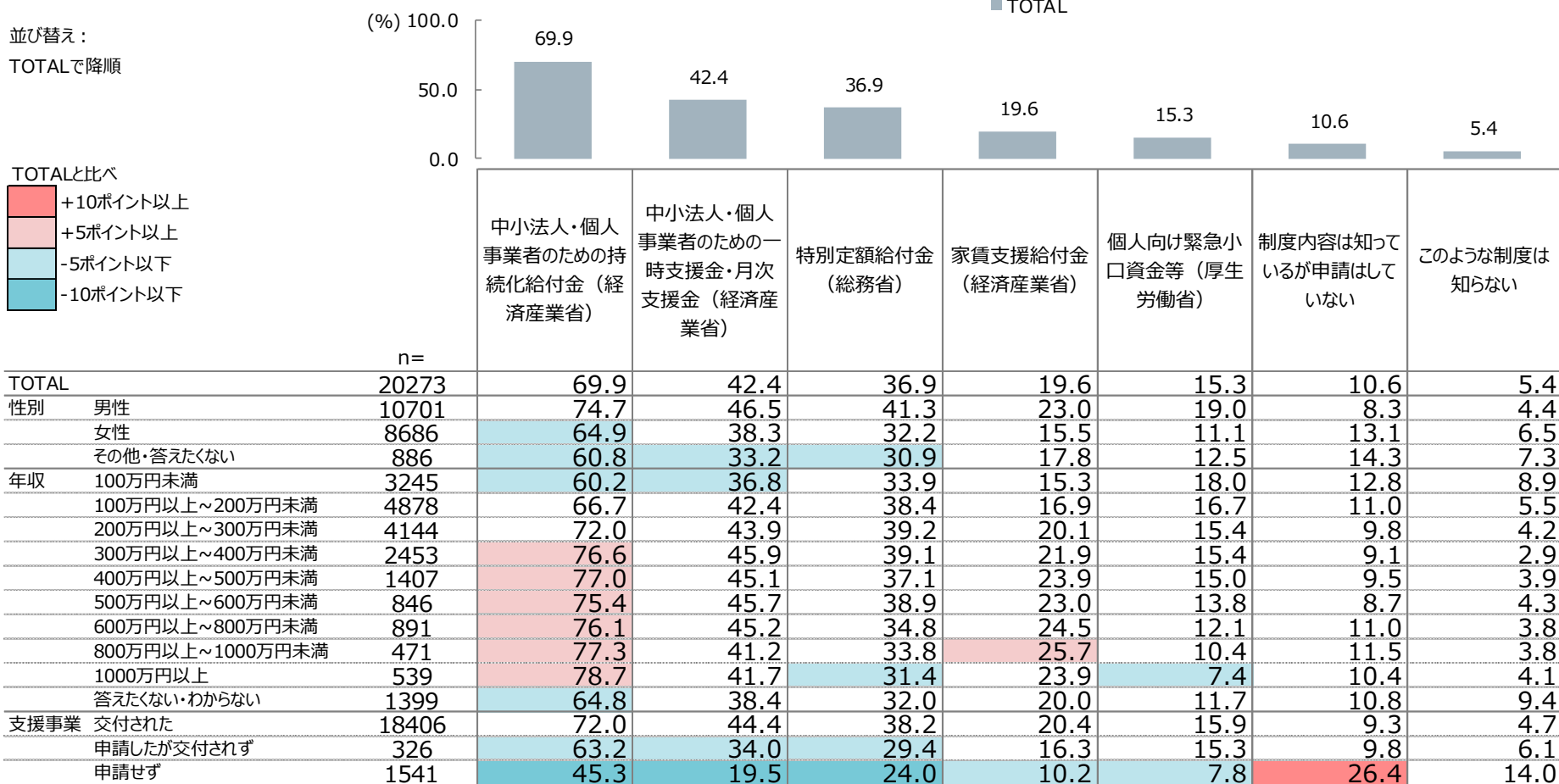


(質問文) Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。
あてはまるものをすべてお答えください。／1.申請したもの(実際に受け取ったかは問いません)

12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(MAマトリクス)／1.申請したもの

- 新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(申請したもの)を性別でみると、『女性』、『その他・答えたくない』は「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が60%台と、『男性』に比べて低い。
- 年収別でみると、『300万円以上』は「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が75%以上とTOTALに比べてやや高い。また、『800万円以上～1000万円未満』は「家賃支援給付金」が25.7%とTOTALに比べてやや高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別でみると、『申請せず』は、「制度内容は知っているが申請はしていない」が26.4%と高く、各種制度に対する申請の低さが窺える。

12-3.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

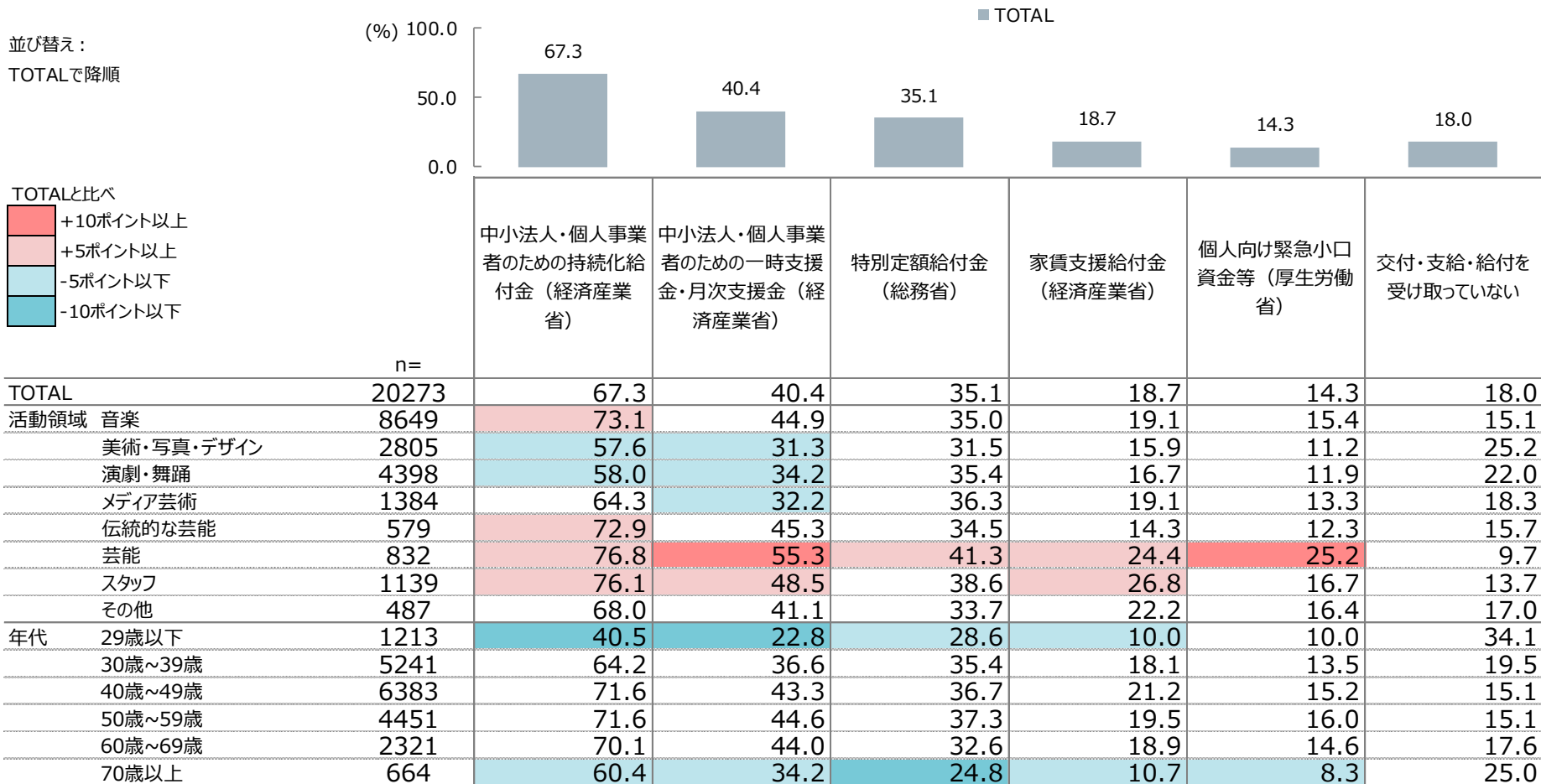


(質問文) Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。
あてはまるものをすべてお答えください。／1.申請したもの（実際に受け取ったかは問いません）

12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したものの(MAマトリクス)／2.受け取ったもの

- 新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したものをTOTALでみると、「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が67.3%と最も多い。次いで、「中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金」が40.4%、「特別定額給付金」が35.1%で続く。
- 活動領域別でみると、『芸能』はいずれの制度もTOTALに比べてスコアが高く、新型コロナウイルス感染症対策の制度の利用が高い模様。中でも、「中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金」、「個人向け緊急小口資金等」がTOTALに比べて10pt以上高い。
- 年代別でみると、『29歳以下』、『70歳以上』は各種制度のスコアが他の年代に比べて低い。

12-4.TOTAL／活動領域別／年代別

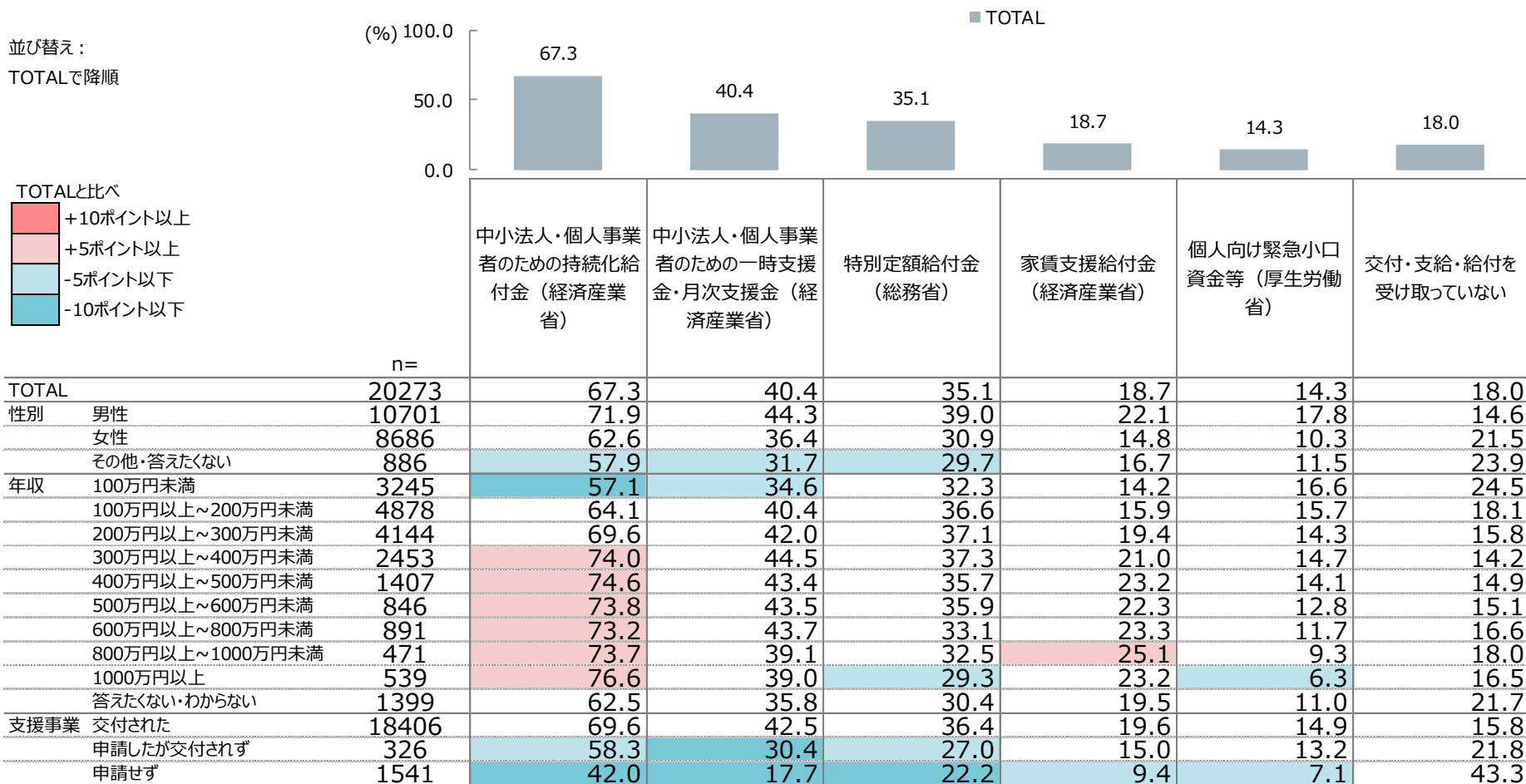


(質問文) Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。
あてはまるものをすべてお答えください。／2.受け取ったもの (実際に交付・支給・給付を受けたもの)

12.新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(MAマトリクス)／2.受け取ったもの

- 新型コロナウイルス感染症対策の制度として利用したもの(受け取ったもの)を性別で見ると、『男性』は「中小法人・個人事業者のための持続化給付金／一時支援金・月次支援金」、「特別定額給付金」がそれぞれ『女性』、『その他・答えたくない』に比べて高い。
- 年収別で見ると、『300万円以上』は「中小法人・個人事業者のための持続化給付金」が70%台とTOTALに比べてやや高い。また、『800万円～1000万円未満』は「家賃支援給付金」が25.1%とTOTALに比べてやや高い。

12-5.TOTAL／性別／年収別／支援事業別



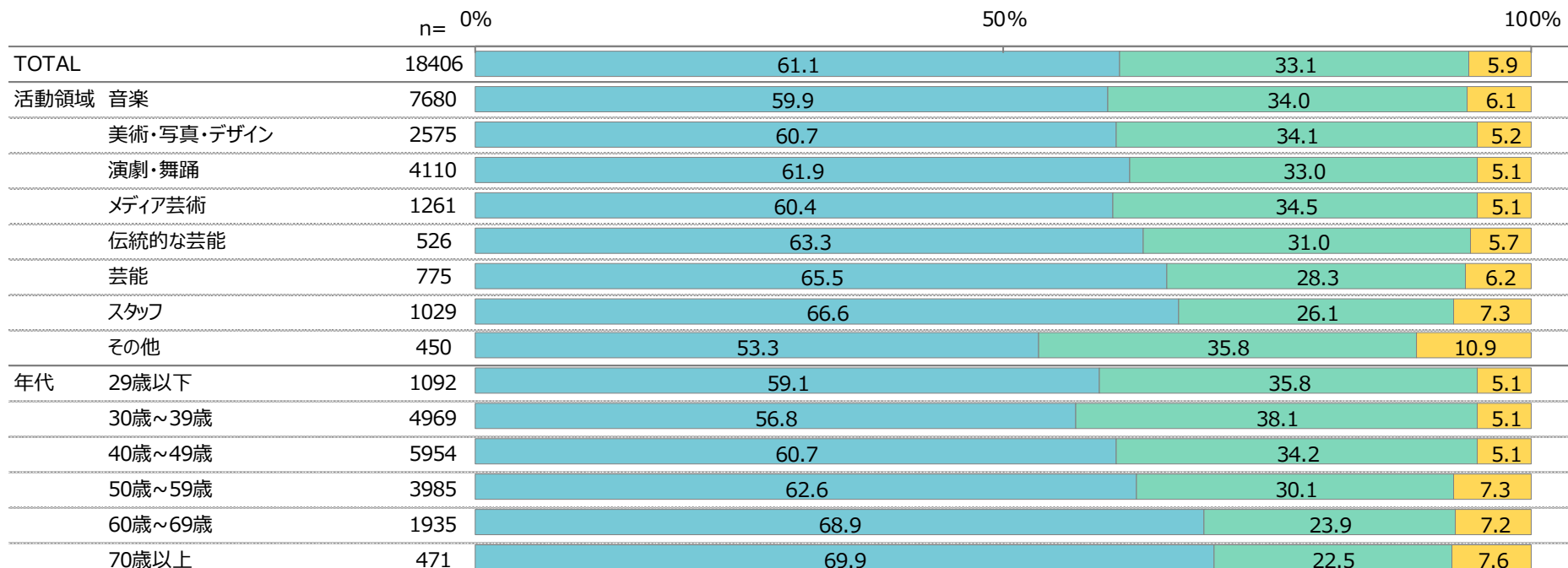
(質問文) Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。
あてはまるものをすべてお答えください。／2.受け取ったもの（実際に交付・支給・給付を受けたもの）

13.継続支援事業の交付による成果(SA)

- 継続支援事業の交付による成果をTOTALでみると、「従来の活動を維持することができた」が61.1%、「新たな活動を行うことができた」が33.1%、「その他」が5.9%と、大半が成果を感じていると回答している。
- 活動領域別でみると、『スタッフ』は「従来の活動を維持することができた」が66.6%とTOTALに比べてやや高い。
- 年代別でみると、『60歳以上』は「従来の活動をすることができた」が70%近くとTOTALに比べて高い。

13-1.TOTAL／活動領域別／年代別※継続支援事業の交付を受けた方ベース

■ 従来の活動を維持することができた ■ 新たな活動を行うことができた ■ その他



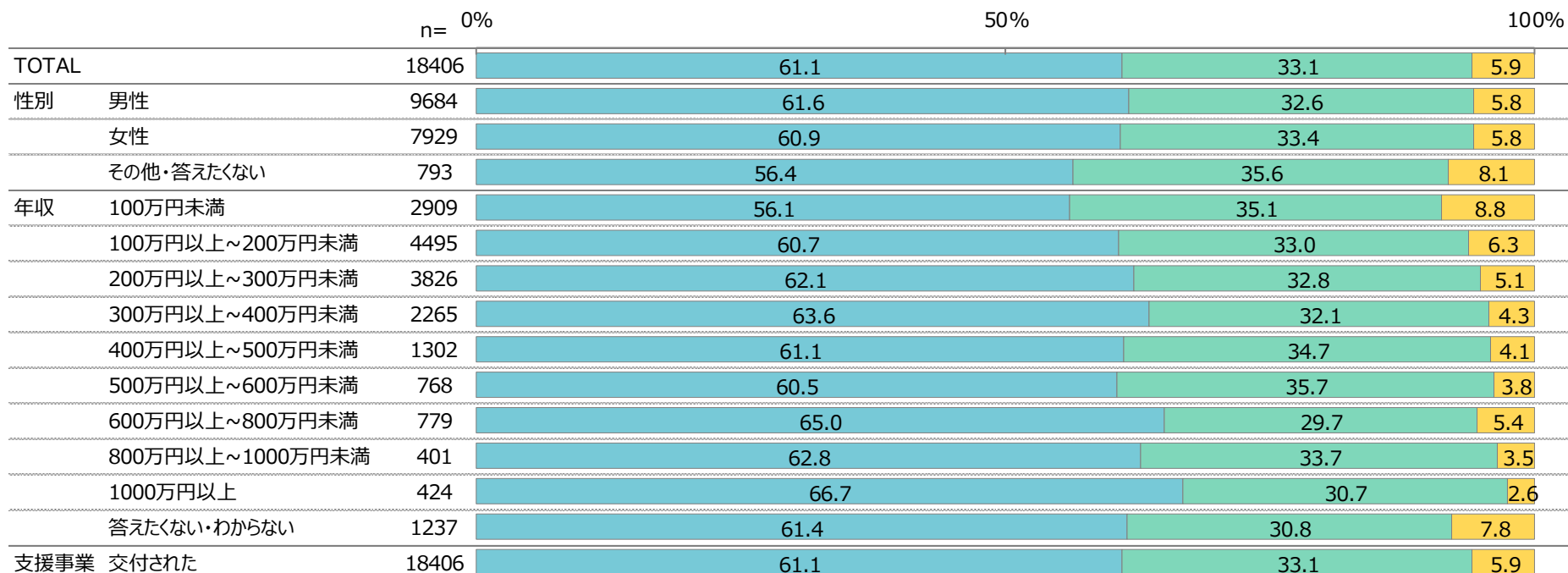
(質問文) Q15 あなたは、文化芸術活動の継続支援事業の「交付を受けた」とお答えになりましたが、交付を受けたことによりどのような成果がありましたか。

13. 継続支援事業の交付による成果(SA)

- 継続支援事業の交付による成果を年収別で見ると、『1000万円以上』は「従来の活動を維持することができた」が66.7%と、TOTALに比べてやや高い。

13-2. TOTAL／性別／年収別／支援事業別※継続支援事業の交付を受けた方ベース

■ 従来の活動を維持することができた ■ 新たな活動を行うことができた ■ その他

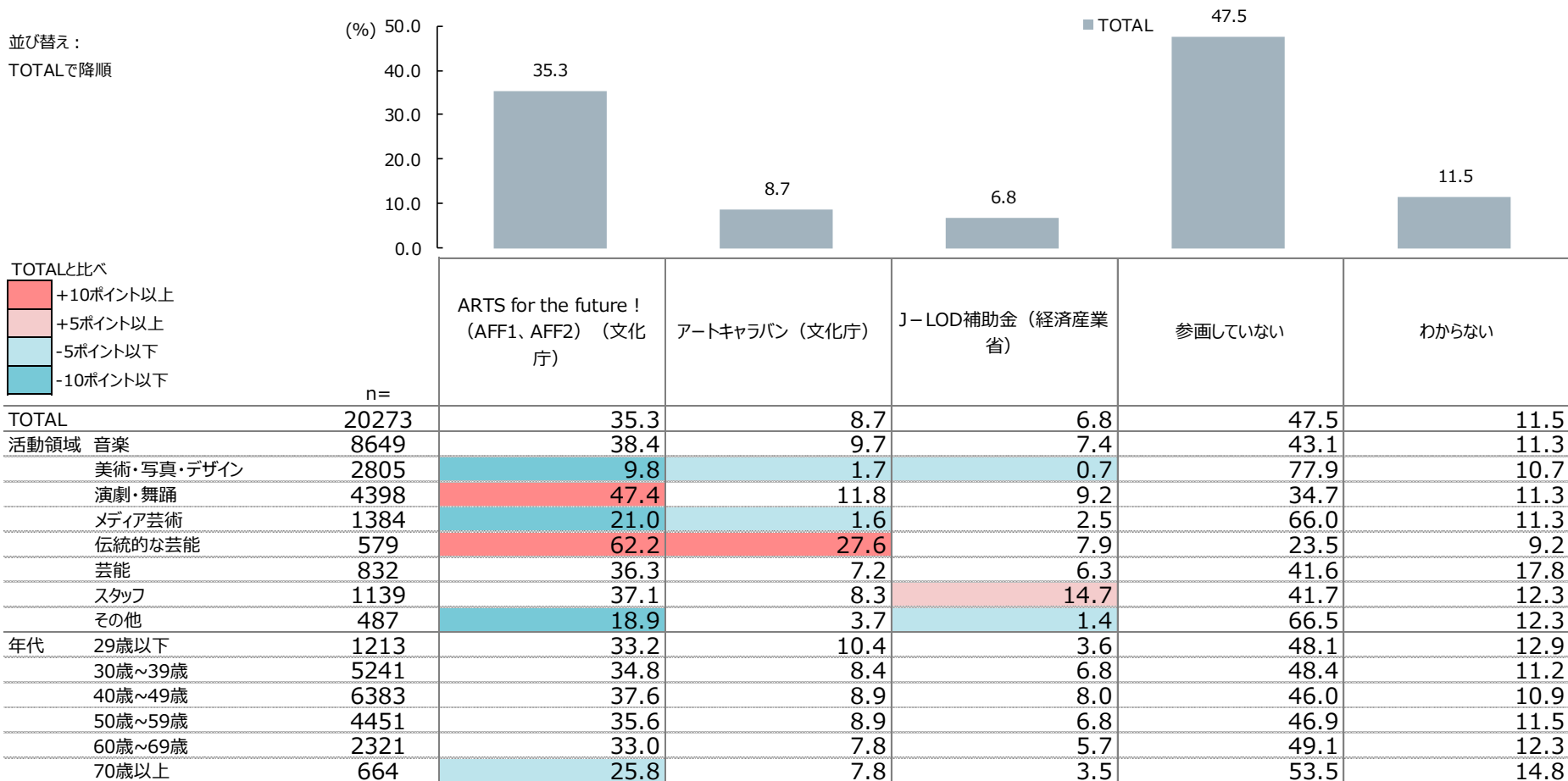


(質問文) Q15 あなたは、文化芸術活動の継続支援事業の「交付を受けた」とお答えになりましたが、交付を受けたことによりどのような成果がありましたか。

14.政府補助金で実施されたイベントへの参画(MA)

- 政府補助金で実施されたイベントへの参画をTOTALで見ると、「参画していない」が47.5%と最も多い。参画した中では、「ARTS for the future!」が35.3%と最も多い。
- 活動領域別で見ると、『演劇・舞踊』、『伝統的な芸能』は「ARTS for the future!」がTOTALに比べて高い。また、『伝統的な芸能』は「アートキャラバン」もTOTALに比べて高い。

14-1.TOTAL／活動領域別／年代別

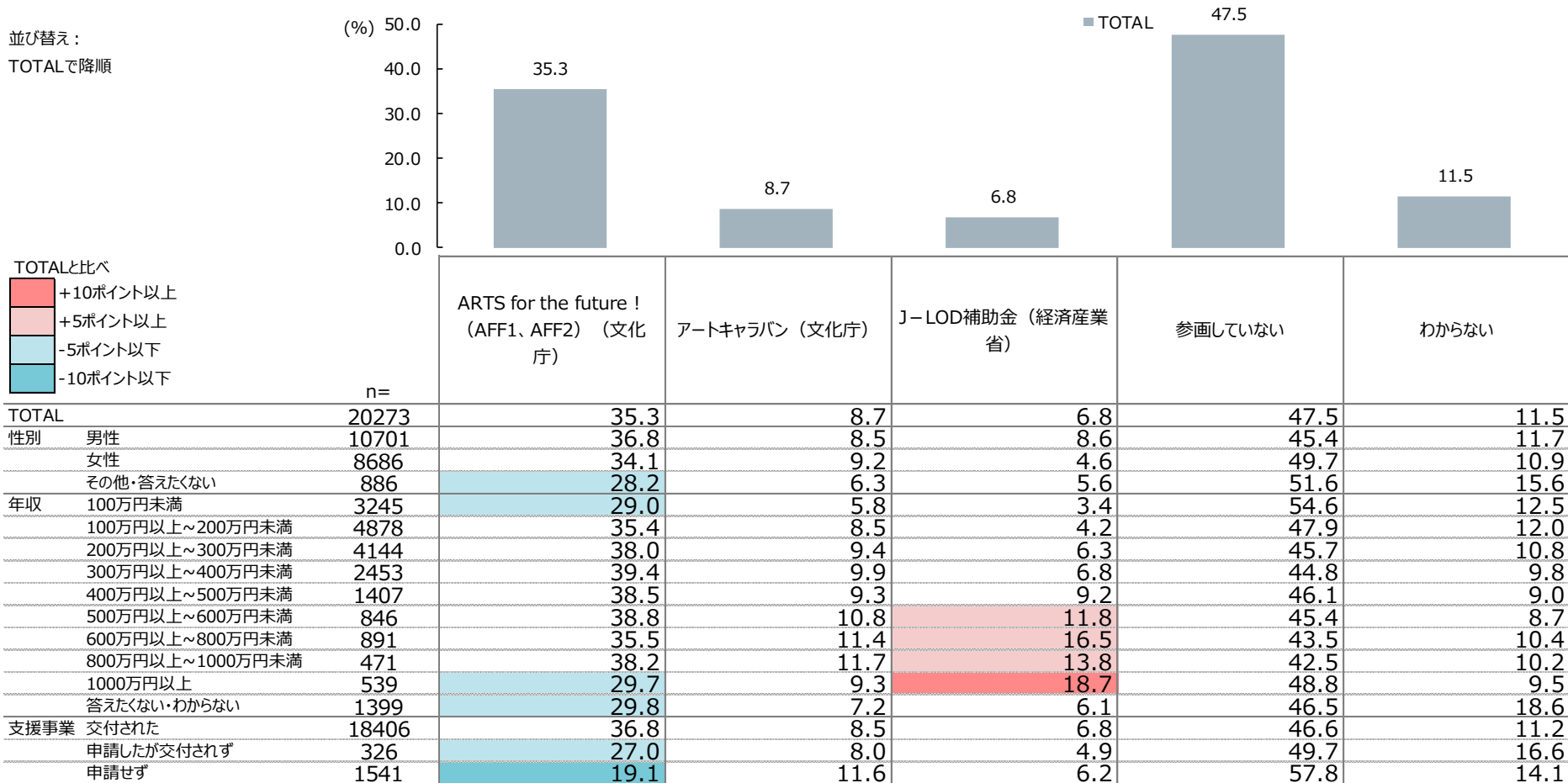


(質問文) Q16 以下の政府補助金による支援を受けて実施された公演、演奏会、コンサート、ライブ、展覧会等に、出演者、主催者、スタッフとして参画しましたか。把握している範囲ですべてお答えください。

14.政府補助金で実施されたイベントへの参画(MA)

- 政府補助金で実施されたイベントへの参画を性別で見ると、『男性』は「参画していない」が45.4%と『女性(49.7%)』『その他・答えたくない (51.6%)』に比べて低く、参画されている方が多い。
- 年収別で見ると、『500万円以上』は「J-LOD補助金」が10%以上とTOTALに比べて高い。中でも、『1000万円以上』は18.7%と特に高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「参画していない」が57.8%とTOTALに比べて高い。

14-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

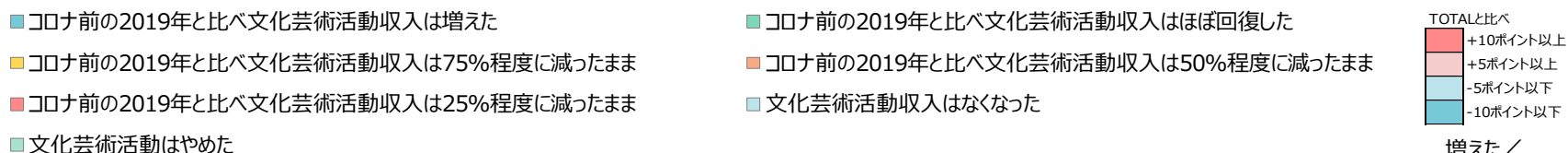


(質問文) Q16 以下の政府補助金による支援を受けて実施された公演、演奏会、コンサート、ライブ、展覧会等に、出演者、主催者、スタッフとして参画しましたか。把握している範囲ですべてお答えください。

15.コロナ禍を経た現在の状況(SA)

- コロナ禍を経た現在の状況をTOTALで見ると、コロナ前の2019年と比べて文化芸術活動収入は「ほぼ回復した」が24.4%、「75%程度に減ったまま」が24.1%、「50%程度に減ったまま」が23.0%。文化芸術活動収入が減ったと回答している方が66.1%。
- 活動領域別で見ると、『美術・写真・デザイン』、『メディア芸術』は、「増えた／回復した計」が40%近くと、TOTALに比べてやや高い。対して、『芸能』は文化芸術活動収入が減ったと回答している方が74.3%とTOTALに比べてやや高い。
- 年代別で見ると、『39歳以下』は「増えた／回復した計」がTOTALに比べて高く、『50歳以上』は低い。

15-1.TOTAL／活動領域別／年代別



	n=	0%						100%	増えた／回復した計	減った計
			0%	25%	50%	75%	100%			
TOTAL	20273	9.5	24.4	24.1	23.0	12.4	5.4	33.9	66.1	
活動領域										
音楽	8649	9.1	23.7	25.9	24.3	12.3	3.8	32.8	67.2	
美術・写真・デザイン	2805	12.9	26.5	19.6	19.9	11.1	8.9	39.4	60.6	
演劇・舞踊	4398	8.3	24.5	23.3	22.1	12.3	7.4	32.8	67.2	
メディア芸術	1384	13.1	25.2	22.4	21.2	11.7	5.6	38.3	61.7	
伝統的な芸能	579	6.6	24.5	31.1	24.7	9.8	1.9	31.1	68.9	
芸能	832	8.9	16.8	21.8	30.8	18.4	3.0	25.7	74.3	
スタッフ	1139	7.4	29.8	25.0	20.3	12.4	3.8	37.2	62.8	
その他	487	8.4	20.1	21.1	21.8	17.9	8.2	28.5	71.5	
年代										
29歳以下	1213	23.8	27.4	16.4	14.2	6.6	7.8	51.2	48.8	
30歳～39歳	5241	15.2	28.8	21.0	18.1	9.8	5.4	44.0	56.0	
40歳～49歳	6383	8.7	25.7	25.7	22.5	12.4	4.3	34.4	65.6	
50歳～59歳	4451	5.0	20.8	27.9	26.8	14.0	5.0	25.8	74.2	
60歳～69歳	2321	2.5	18.5	25.1	30.7	16.6	5.7	21.0	79.0	
70歳以上	664	1.7	15.5	17.6	30.0	19.3	13.6	17.2	82.8	

非表示：1%未満

(質問文) Q17 コロナ感染症の拡大による活動停止など厳しい時期を経て、今の状況に近いものをお選びください。

15.コロナ禍を経た現在の状況(SA)

- コロナ禍を経た現在の状況を年収別で見ると、『500万円以上』は「増えた／回復した計」が45%以上とTOTALに比べて高い。中でも『1000万円以上』は、「増えた／回復した計」が61.2%と特に高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請したが交付されず』は、文化芸術活動収入が減ったと回答している方が73.0%と、TOTALに比べてやや高い。

15-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は増えた
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は75%程度に減ったまま
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は25%程度に減ったまま
- 文化芸術活動はやめた

- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入はほぼ回復した
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は50%程度に減ったまま
- 文化芸術活動収入はなくなった

- TOTALと比べ
- +10ポイント以上
 - +5ポイント以上
 - -5ポイント以下
 - -10ポイント以下

		n=	0%						50%						100%						増えた／回復した計		減った計		
TOTAL		20273	9.5	24.4	24.1	23.0	12.4	5.4	1.2	9.5	24.4	24.1	23.0	12.4	5.4	1.2	9.5	24.4	24.1	23.0	12.4	5.4	1.2	33.9	66.1
性別	男性	10701	9.7	23.1	24.4	24.3	12.4	5.1	1.0	9.7	23.1	24.4	24.3	12.4	5.1	1.0	9.7	23.1	24.4	24.3	12.4	5.1	1.0	32.8	67.2
	女性	8686	9.5	26.3	23.6	21.4	12.2	5.5	1.4	9.5	26.3	23.6	21.4	12.2	5.5	1.4	9.5	26.3	23.6	21.4	12.2	5.5	1.4	35.8	64.2
その他・答えたくない		886	8.1	20.7	25.2	22.3	13.8	8.1	1.8	8.1	20.7	25.2	22.3	13.8	8.1	1.8	8.1	20.7	25.2	22.3	13.8	8.1	1.8	28.8	71.2
年収	100万円未満	3245	6.1	15.0	19.5	25.5	21.0	11.1	1.7	6.1	15.0	19.5	25.5	21.0	11.1	1.7	6.1	15.0	19.5	25.5	21.0	11.1	1.7	21.1	78.9
	100万円以上～200万円未満	4878	7.7	20.4	24.0	26.8	14.2	5.8	1.2	7.7	20.4	24.0	26.8	14.2	5.8	1.2	7.7	20.4	24.0	26.8	14.2	5.8	1.2	28.1	71.9
	200万円以上～300万円未満	4144	8.7	24.6	26.3	24.9	10.4	4.2	8.7	24.6	26.3	24.9	10.4	4.2	8.7	24.6	26.3	24.9	10.4	4.2	33.3	66.7			
	300万円以上～400万円未満	2453	10.0	28.7	26.5	20.8	9.8	3.1	1.1	10.0	28.7	26.5	20.8	9.8	3.1	1.1	10.0	28.7	26.5	20.8	9.8	3.1	1.1	38.7	61.3
	400万円以上～500万円未満	1407	12.5	30.8	25.7	18.3	8.5	2.9	1.2	12.5	30.8	25.7	18.3	8.5	2.9	1.2	12.5	30.8	25.7	18.3	8.5	2.9	1.2	43.3	56.7
	500万円以上～600万円未満	846	14.3	34.9	24.3	16.0	6.7	2.1	1.5	14.3	34.9	24.3	16.0	6.7	2.1	1.5	14.3	34.9	24.3	16.0	6.7	2.1	1.5	49.2	50.8
	600万円以上～800万円未満	891	15.6	31.2	26.8	15.9	6.5	2.9	1.0	15.6	31.2	26.8	15.9	6.5	2.9	1.0	15.6	31.2	26.8	15.9	6.5	2.9	1.0	46.8	53.2
	800万円以上～1000万円未満	471	16.6	37.2	24.4	13.4	5.5	2.5	16.6	37.2	24.4	13.4	5.5	2.5	16.6	37.2	24.4	13.4	5.5	2.5	53.8	46.2			
1000万円以上	539	23.9	37.3	19.5	10.4	6.9	1.9	23.9	37.3	19.5	10.4	6.9	1.9	23.9	37.3	19.5	10.4	6.9	1.9	61.2	38.8				
答えたくない・わからない		1399	8.1	25.4	22.1	23.2	12.2	7.2	1.8	8.1	25.4	22.1	23.2	12.2	7.2	1.8	8.1	25.4	22.1	23.2	12.2	7.2	1.8	33.5	66.5
支援事業	交付された	18406	9.5	24.8	24.5	23.1	12.2	4.9	1.0	9.5	24.8	24.5	23.1	12.2	4.9	1.0	9.5	24.8	24.5	23.1	12.2	4.9	1.0	34.3	65.7
	申請したが交付されず	326	7.1	19.9	20.9	26.7	17.2	6.7	1.5	7.1	19.9	20.9	26.7	17.2	6.7	1.5	7.1	19.9	20.9	26.7	17.2	6.7	1.5	27.0	73.0
	申請せず	1541	10.6	20.8	19.9	20.8	13.5	11.0	3.4	10.6	20.8	19.9	20.8	13.5	11.0	3.4	10.6	20.8	19.9	20.8	13.5	11.0	3.4	31.4	68.6

非表示：1%未満

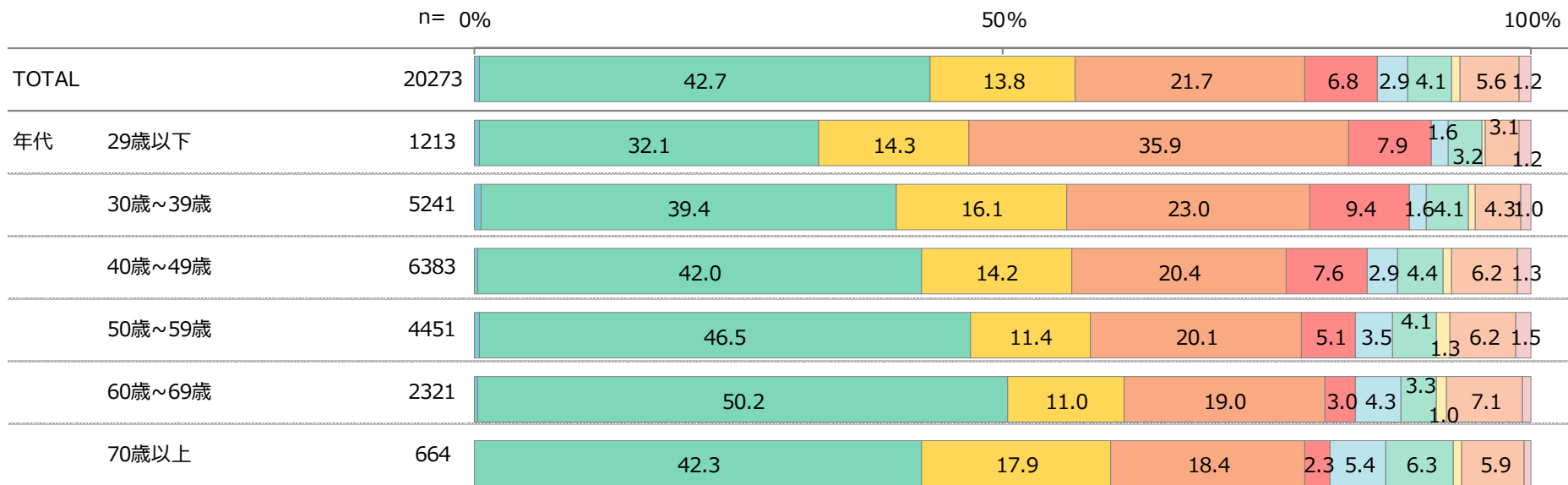
(質問文) Q17 コロナ感染症の拡大による活動停止など厳しい時期を経て、今の状況に近いものをお選びください。

16.主な活動領域(SA)

- 主な活動領域をTOTALでみると、「音楽」が42.7%と最も多く、「演劇・舞踊」が21.7%、「美術・写真・デザイン」が13.8%で続く。
- 年代別でみると、『29歳以下』は「演劇・舞踊」が35.9%とTOTALに比べて高い。また、『60歳～69歳』は「音楽」が50.2%とTOTALに比べてやや高い。

16-1.TOTAL／年代別

■ 文学 ■ 音楽 ■ 美術・写真・デザイン ■ 演劇・舞踊 ■ メディア芸術 ■ 伝統的な芸能 ■ 芸能 ■ 生活文化・国民娯楽 ■ 公演、展示、映画・映像等に係る専門分野 ■ その他



非表示：1%未満

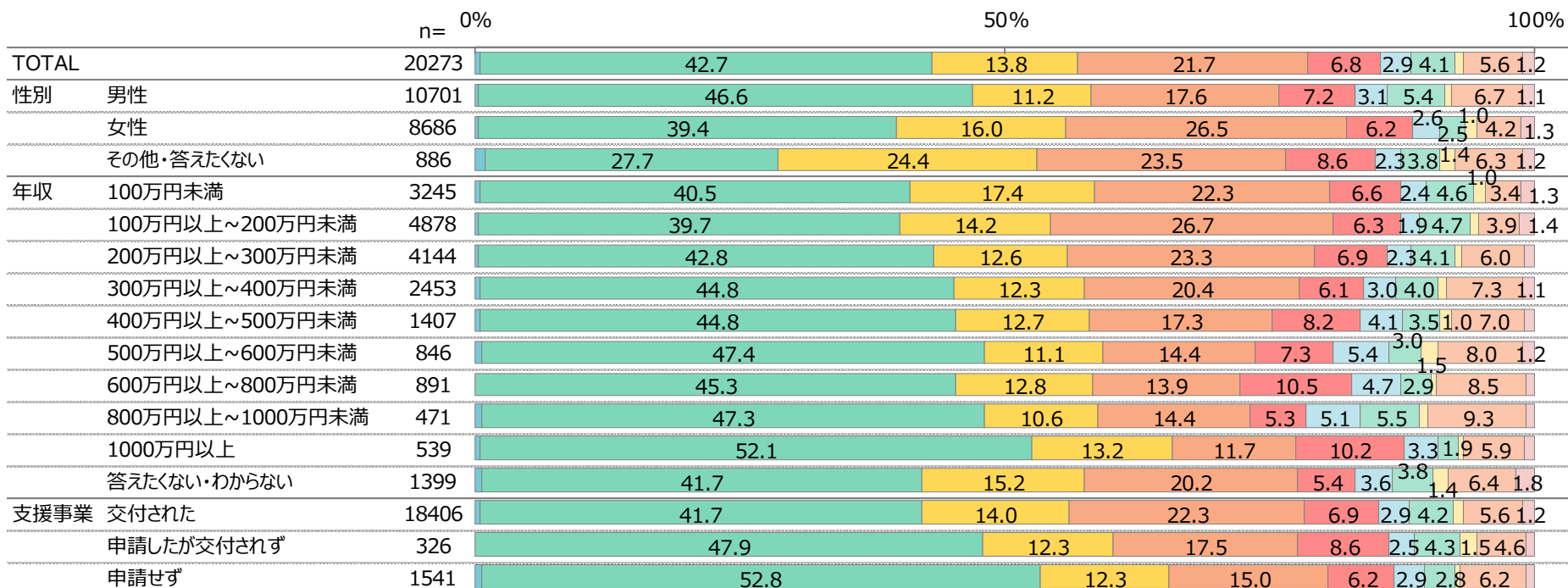
(質問文) Q18 あなたの主たる文化芸術活動領域を1つだけ教えてください。

16.主な活動領域(SA)

- 主な活動領域を性別でみると、『男性』は「音楽」が46.6%、『女性』は「演劇・舞踊」が26.5%とTOTALに比べ僅かに高い。
- 年収別でみると、『1000万円以上』は「音楽」が52.1%とTOTALに比べてやや高い。
また、『500万円以上』は「演劇・舞踊」がTOTALに比べてやや低い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別でみると、『申請したが交付されず』『申請せず』は「音楽」が40%後半～50%前半とTOTALに比べて高い。

16-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

■文学 ■音楽 ■美術・写真・デザイン ■演劇・舞踊 ■メディア芸術 ■伝統的な芸能 ■芸能 ■生活文化・国民娯楽 ■公演、展示、映画・映像等に係る専門分野 ■その他



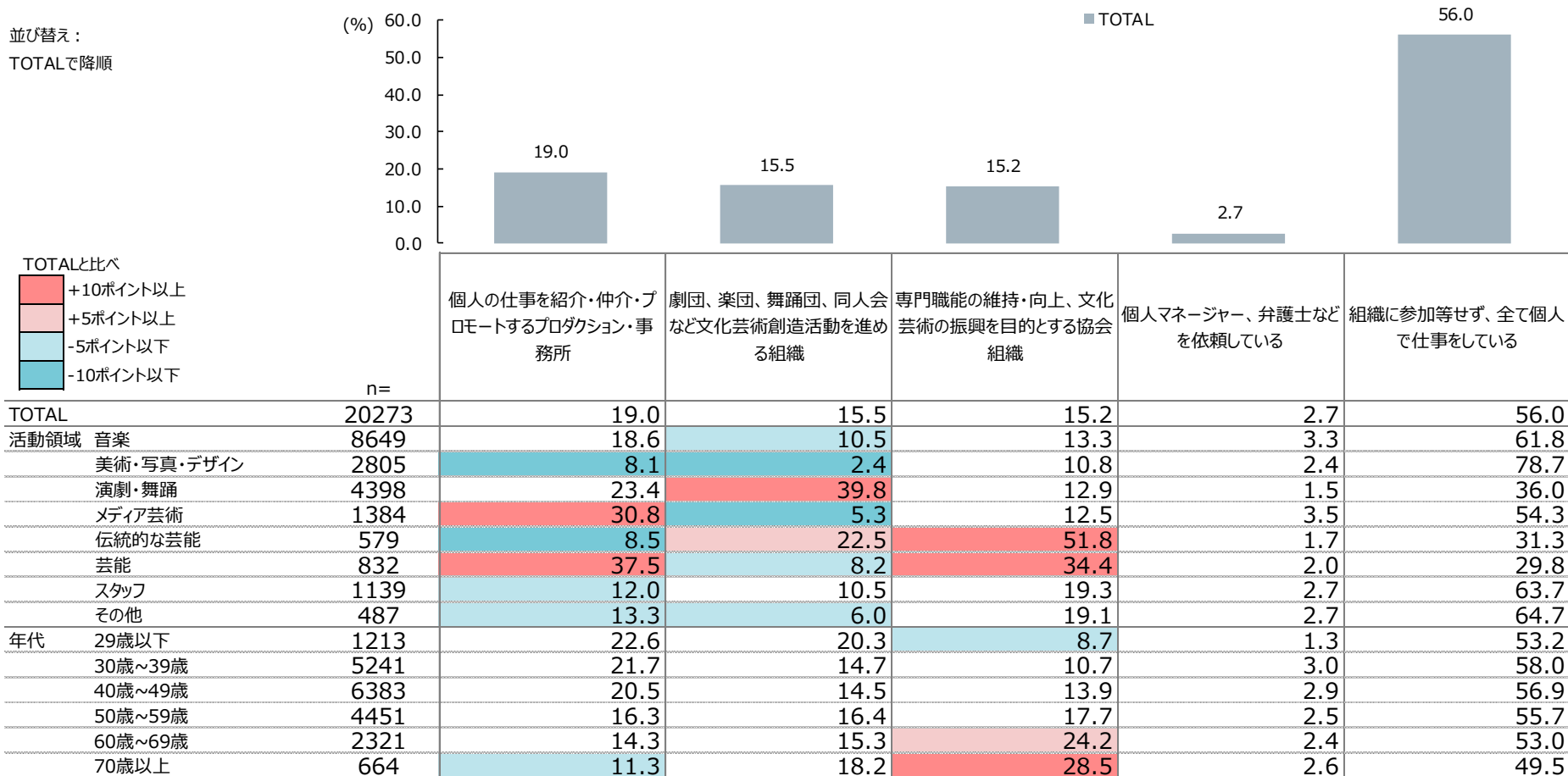
非表示：1%未満

(質問文) Q18 あなたの主たる文化芸術活動領域を1つだけ教えてください。

17.組織への参加・所属等の状況(MA)

- 組織への参加・所属等の状況をTOTALでみると、「組織に参加等せず、全て個人で仕事をしている」が56.0%と最も多い。組織に所属している方の中では、「個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所」が19.0%と最も多い。
- 活動領域別でみると、『メディア芸術』、『芸能』は「個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所」が30%台とTOTALに比べて高く、『伝統的な芸能』は、「専門職能の維持・向上、文化芸術の振興を目的とする協会組織」が51.8%とTOTALに比べて特に高い。
- 年代別でみると、『60歳以上』は「専門職能の維持・向上、文化芸術の振興を目的とする協会組織」が20%台とTOTALに比べて高い。

17-1.TOTAL／活動領域別／年代別

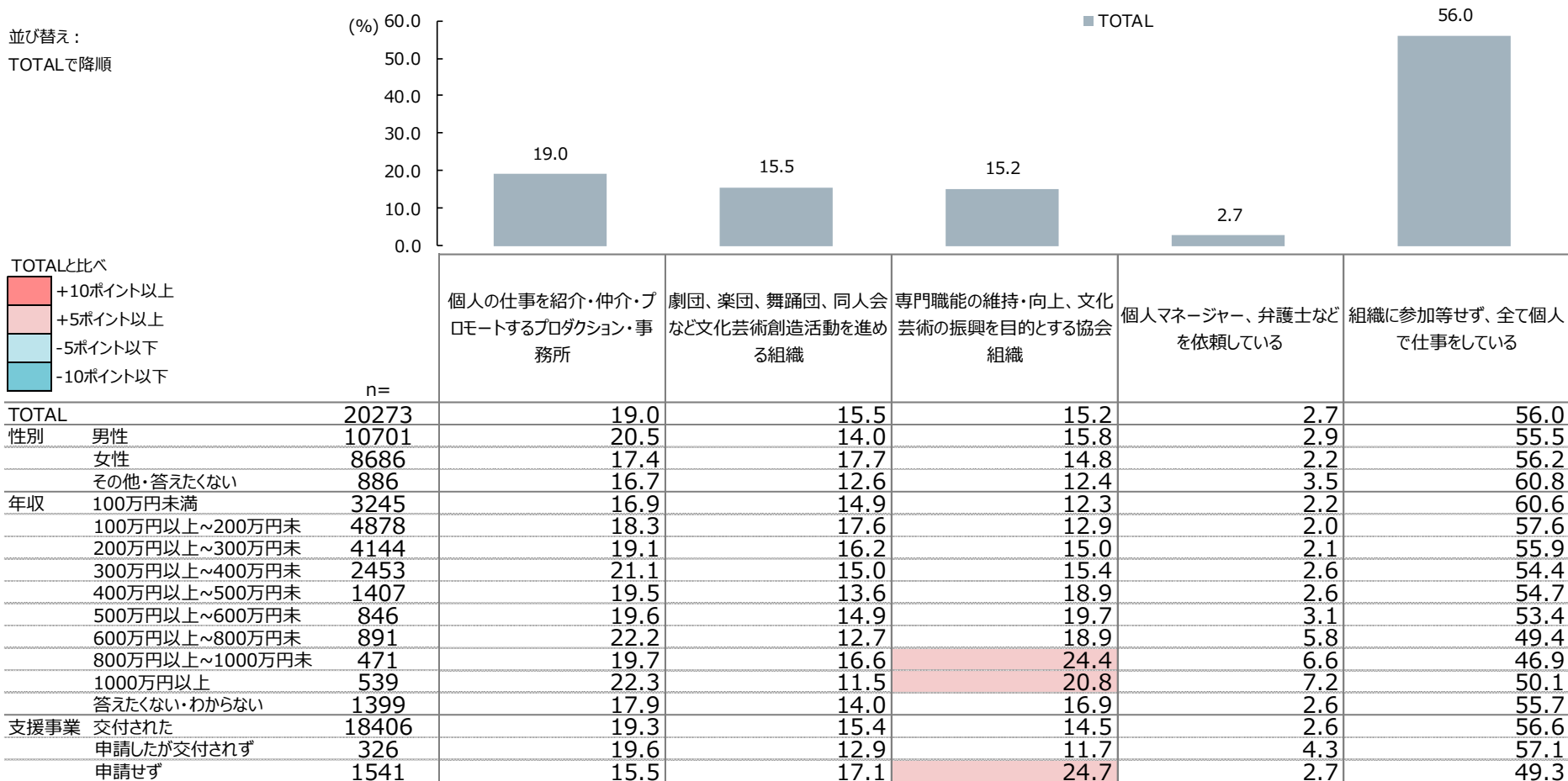


(質問文) Q19 あなたは文化芸術活動を続ける上で、必要な組織に参加、所属あるいは業務委託をしていますか(あるいは、していましたか)。あてはまるものをすべてお答えください。

17.組織への参加・所属等の状況(MA)

- 組織への参加・所属等の状況を年収別で見ると、『800万円以上』は「専門職能の維持・向上、文化芸術の振興を目的とする協会組織」が20%台と、TOTALに比べてやや高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「専門職能の維持・向上、文化芸術の振興を目的とする協会組織」が24.7%と高い。

17-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別



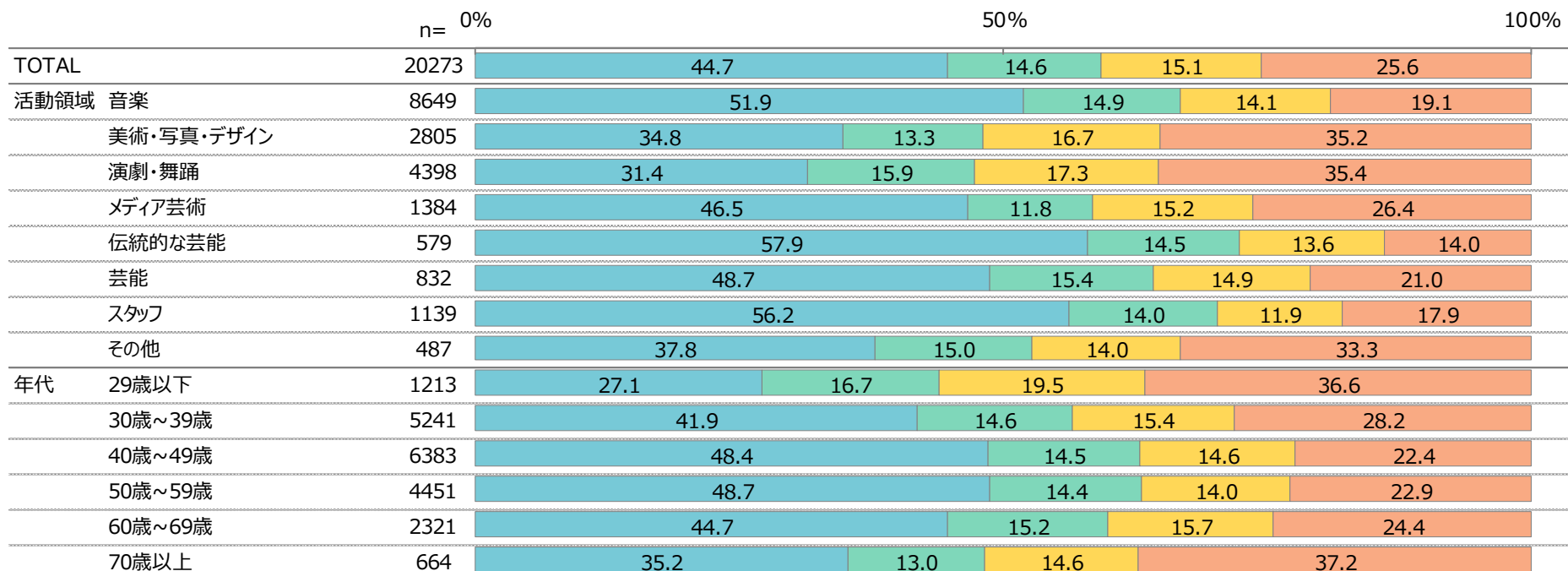
(質問文) Q19 あなたは文化芸術活動を続ける上で、必要な組織に参加、所属あるいは業務委託をしていますか(あるいは、していましたか)。あてはまるものをすべてお答えください。

18.文化芸術活動からの収入割合(SA)

- 文化芸術活動からの収入割合をTOTALでみると、「76%～100%」が44.7%、「51%～75%」が14.6%、「26%～50%」が15.1%、「25%以下」が25.6%。半数近くの方が、文化芸術活動からの収入が自身の収入の大半を占めていると回答。
- 活動領域別でみると、『音楽』、『伝統的な芸能』、『スタッフ』は「76%～100%」が50%台とTOTALに比べてやや高い。対して、『美術・写真・デザイン』、『演劇・舞踊』は「25%以下」が35%程と他の領域に比べて高い。

18-1.TOTAL／活動領域別／年代別

■ 76%～100% ■ 51%～75% ■ 26%～50% ■ 25%以下



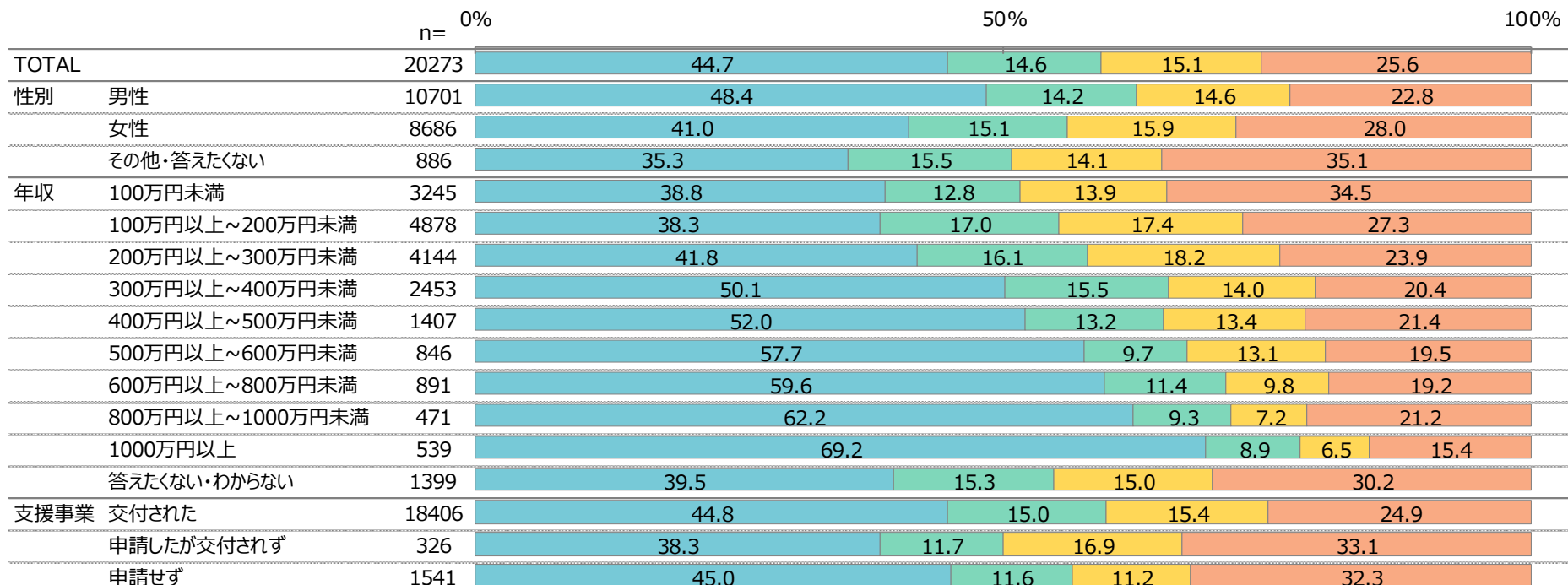
(質問文) Q20 昨年(2022年)の「あなた」の全収入に占める文化芸術活動からの収入の割合を教えてください。

18.文化芸術活動からの収入割合(SA)

- 文化芸術活動からの収入割合を性別でみると、『男性』は「75%～100%」が48.4%と、『女性(41.0%)』、『その他・答えたくない(35.3%)』に比べて高い。
- 年収別でみると、年収が上がるほど「76%～100%」の割合が高くなっていく。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別でみると、『申請したが交付されず』、『申請せず』は「25%以下」が30%前半とTOTALに比べて高い。

18-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

■ 76%～100% ■ 51%～75% ■ 26%～50% ■ 25%以下



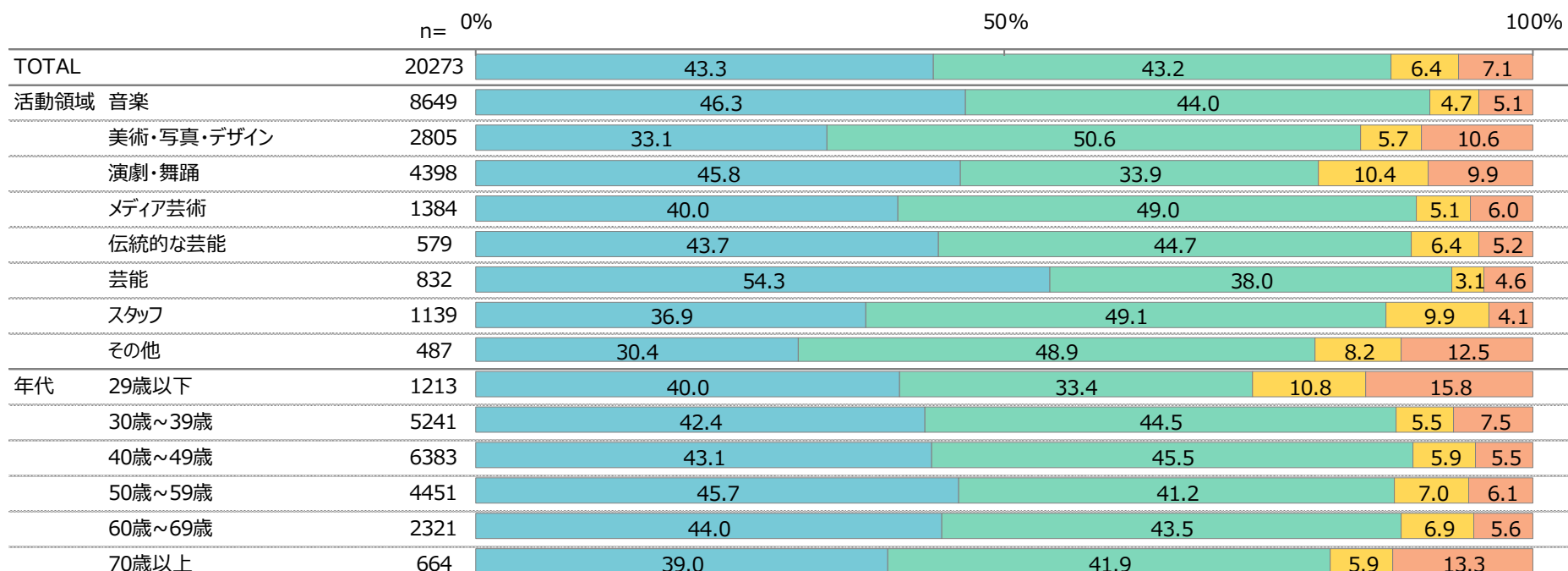
(質問文) Q20 昨年(2022年)の「あなた」の全収入に占める文化芸術活動からの収入の割合を教えてください。

19.所得の申告状況(SA)

- 所得の申告状況をTOTALで見ると、「所得税の確定申告(白色)を行った」が43.3%、「所得税の確定申告(青色)を行った」が43.2%、「報酬等は源泉徴収されているので何もなかった」が6.4%、「所得が20万円以下のため確定申告をしなかった」が7.1%。
- 活動領域別で見ると、『芸能』は「所得税の確定申告(白色)を行った」が54.3%と高く、『美術・写真・デザイン』、『メディア芸術』、『スタッフ』は「所得税の確定申告(青色)を行った」が50%前後とやや高い。
- 年代別で見ると、『29歳以下』、『70歳以上』は「所得が20万円以下のため確定申告をしなかった」が10%台とTOTALに比べてやや高い。

19-1.TOTAL／活動領域別／年代別

■ 所得税の確定申告（白色）を行った ■ 所得税の確定申告（青色）を行った ■ 報酬等は源泉徴収されているので何もなかった ■ 所得が20万円以下のため確定申告をしなかった



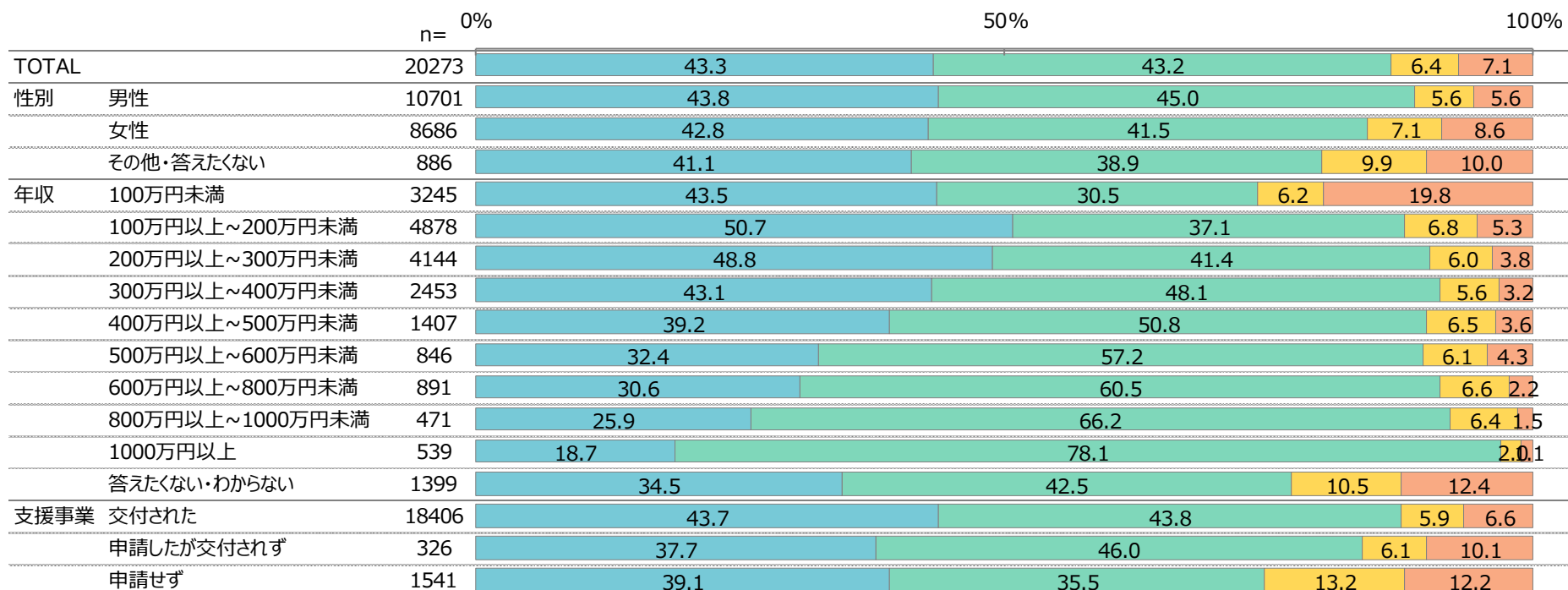
(質問文) Q21 昨年（2022年）の「あなた」の所得について申告はどのようにしましたか。以下から教えてください。

19.所得の申告状況(SA)

- 所得の申告状況を年収別で見ると、年収が上がるにつれて「所得税の確定申告(青色)を行った」の割合が高くなる。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は「報酬等は源泉徴収されているので何もしなかった」、「所得が20万円以下のため確定申告をしなかった」がそれぞれTOTALに比べてやや高い。

19-2.TOTAL／性別／年収別／支援事業別

■ 所得税の確定申告（白色）を行った ■ 所得税の確定申告（青色）を行った ■ 報酬等は源泉徴収されているので何もしなかった ■ 所得が20万円以下のため確定申告をしなかった



(質問文) Q21 昨年（2022年）の「あなた」の所得について申告はどのようにしましたか。以下から教えてください。

20. 昨年の全収入(SA)

- 昨年の全収入をTOTALでみると、「100万円以上～200万円未満」、「200万円以上～300万円未満」が20%台とやや多い。平均は301.45万円。
- 活動領域別でみると、『伝統的な芸能』、『スタッフ』は平均が350万円以上とやや高く、『演劇・舞踊』は257.26万円とやや低い。

20-1. TOTAL／活動領域別／年代別

- 100万円未満
- 100万円以上～200万円未満
- 200万円以上～300万円未満
- 300万円以上～400万円未満
- 400万円以上～500万円未満
- 500万円以上～600万円未満
- 600万円以上～700万円未満
- 700万円以上～800万円未満
- 800万円以上～900万円未満
- 900万円以上～1000万円未満
- 1000万円以上～1500万円未満
- 1500万円以上
- 答えたくない・わからない

	n=	0%	50%	100%	平均 (円)	
TOTAL	20273	16.0	24.1	20.4	12.1 6.9 4.2 2.6 1.2 1.7 6.9	301.45
活動領域 音楽	8649	15.2	22.4	20.5	12.7 7.3 4.6 2.9 1.3 2.1 6.8	318.99
美術・写真・デザイン	2805	20.1	24.8	18.6	10.7 6.4 3.4 2.4 1.0 7.6	278.57
演劇・舞踊	4398	16.5	29.6	22.0	11.4 5.5 2.8 1.2 1.0 6.4	257.26
メディア芸術	1384	15.5	22.3	20.6	10.8 8.3 4.5 3.8 3.0 2.5 5.5	331.18
伝統的な芸能	579	13.5	16.2	16.4	12.8 10.0 7.9 3.3 4.0 1.7 1.9 8.6	371.03
芸能	832	17.8	27.3	20.6	11.7 5.9 3.0 1.4 1.8 6.4	269.53
スタッフ	1139	9.7	16.7	21.9	15.8 8.7 6.0 4.0 2.7 1.8 1.0 7.9	361.50
その他	487	18.7	25.3	16.0	10.7 6.8 5.7 1.4 1.8 1.0 10.5	277.85
年代 29歳以下	1213	19.9	34.0	21.9	8.8 4.8 1.7 6.7	210.73
30歳～39歳	5241	15.1	27.5	22.3	12.8 6.6 3.8 1.2 2.1 5.3	276.05
40歳～49歳	6383	14.3	21.5	20.6	12.5 8.0 5.1 3.1 1.3 2.2 6.8	328.65
50歳～59歳	4451	17.2	21.7	19.5	12.0 7.0 4.1 2.9 1.3 2.0 8.1	309.41
60歳～69歳	2321	17.1	22.3	18.3	11.2 6.4 4.3 3.1 1.2 2.3 7.8	325.68
70歳以上	664	20.5	25.2	16.1	12.2 5.4 3.2 1.8 2.1 1.5 9.5	279.36

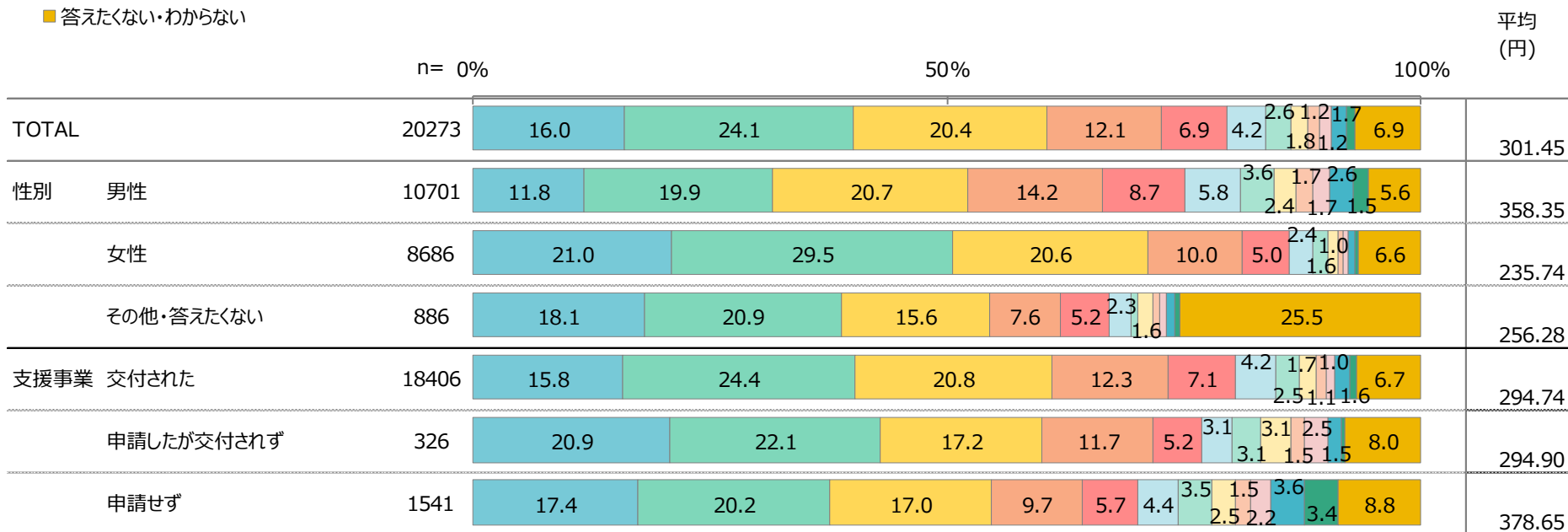
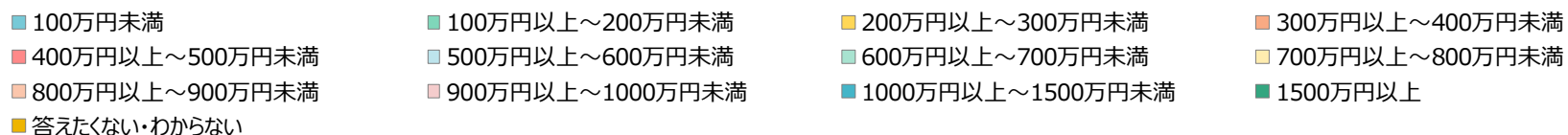
非表示：1%未満

(質問文) Q22 昨年(2022年)の「あなた」の全収入について教えてください。

20. 昨年（2022年）の全収入（SA）

- 昨年の全収入を性別で見ると、『男性』は平均が358.35万円と、『女性（235.74万円）』、『その他・答えたくない（256.28万円）』に比べて高い。
- 文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請・交付別で見ると、『申請せず』は平均が378.65万円と高い。

20-2. TOTAL / 性別 / 支援事業別



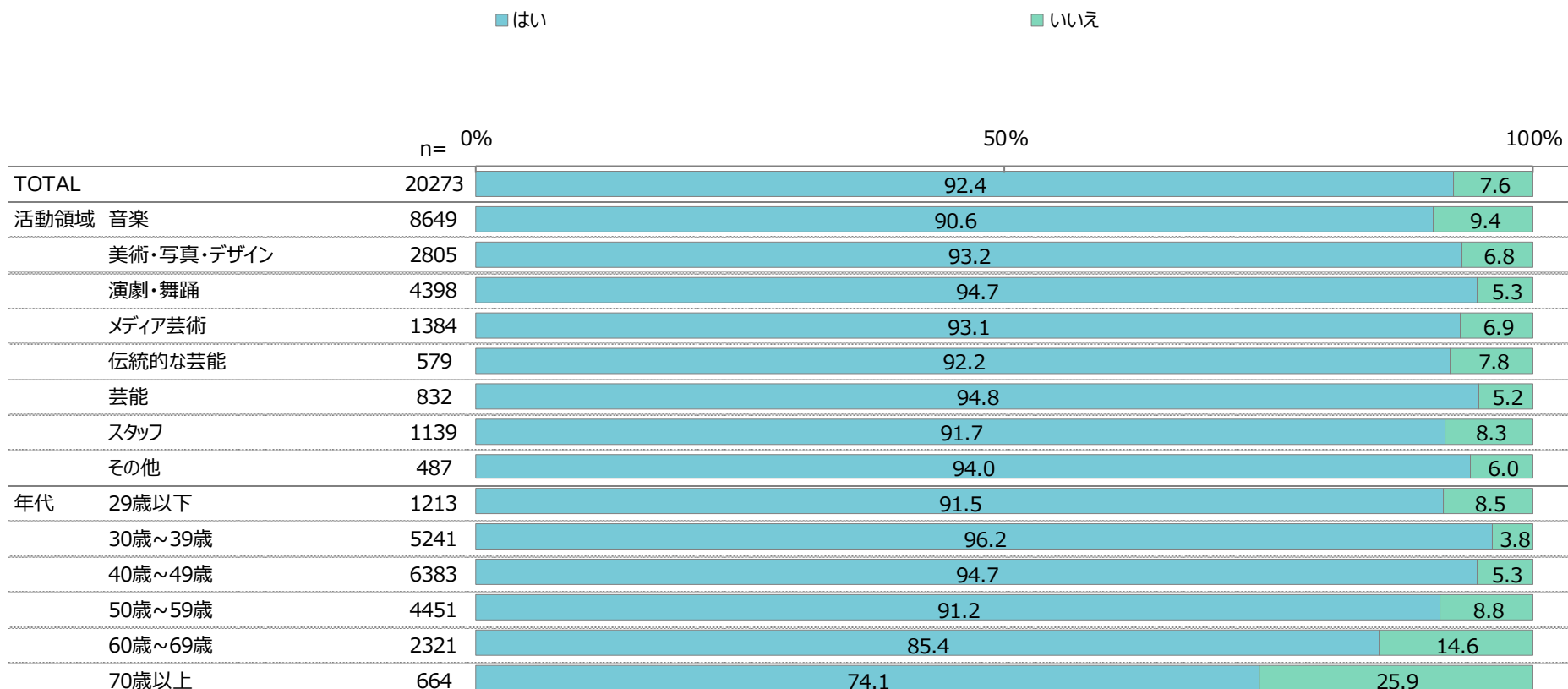
非表示：1%未満

(質問文) Q22 昨年（2022年）の「あなた」の全収入について教えてください。

21.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請の有無(SA)

- 申請の有無をTOTALで見ると、「はい」が92.4%、「いいえ」が7.6%と、ほとんどの方が申請をしたと回答。
- 年代別で見ると、概ね年齢が上がるにつれて「いいえ」がTOTALに比べて高く、中でも『70歳以上』は「いいえ」が25.9%と特に高い。

21-1.TOTAL／活動領域別／年代別

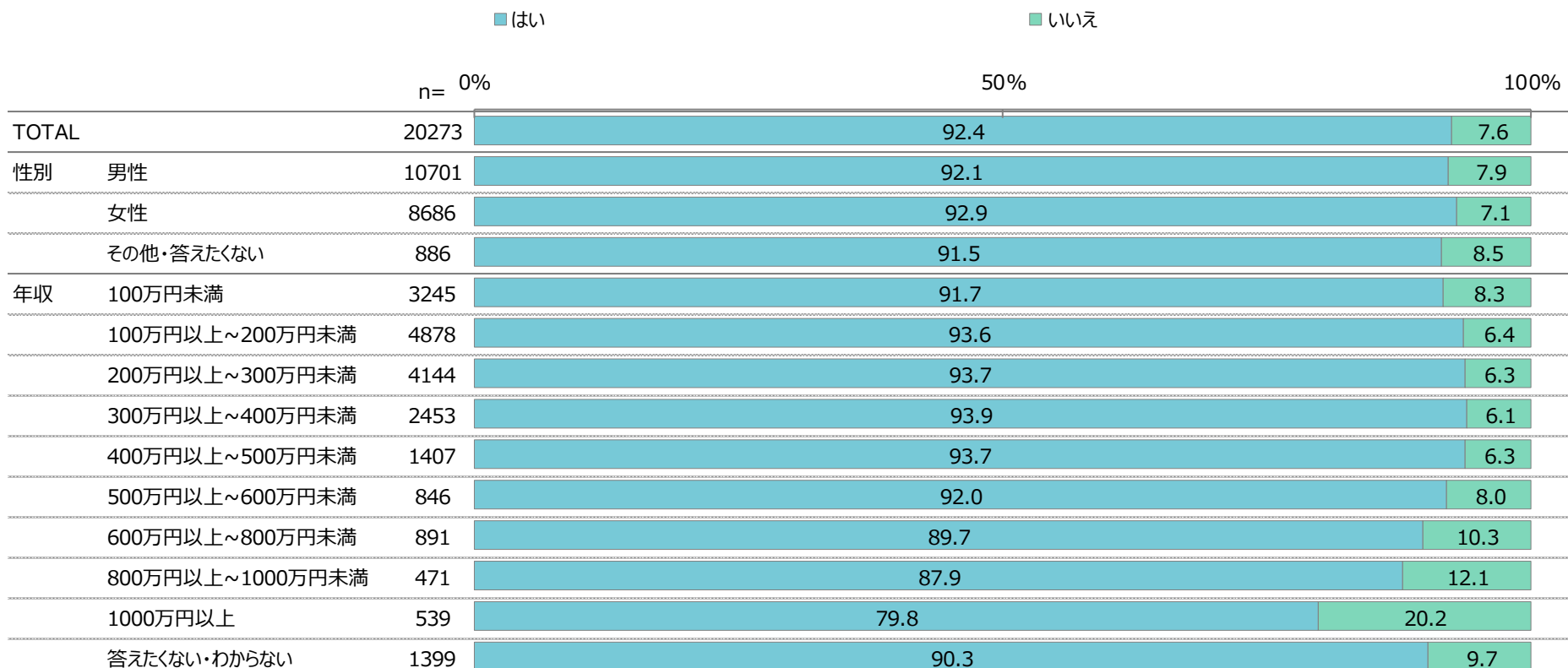


(質問文) Q1 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」に申請しましたか。

21.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」申請の有無(SA)

- 申請の有無を年収別で見ると、年収が上がるにつれて「いいえ」の割合が多くなる傾向。中でも、『1000万円以上』は「いいえ」が20.2%とTOTALに比べて特に高い。

21-2.TOTAL／性別／年収別

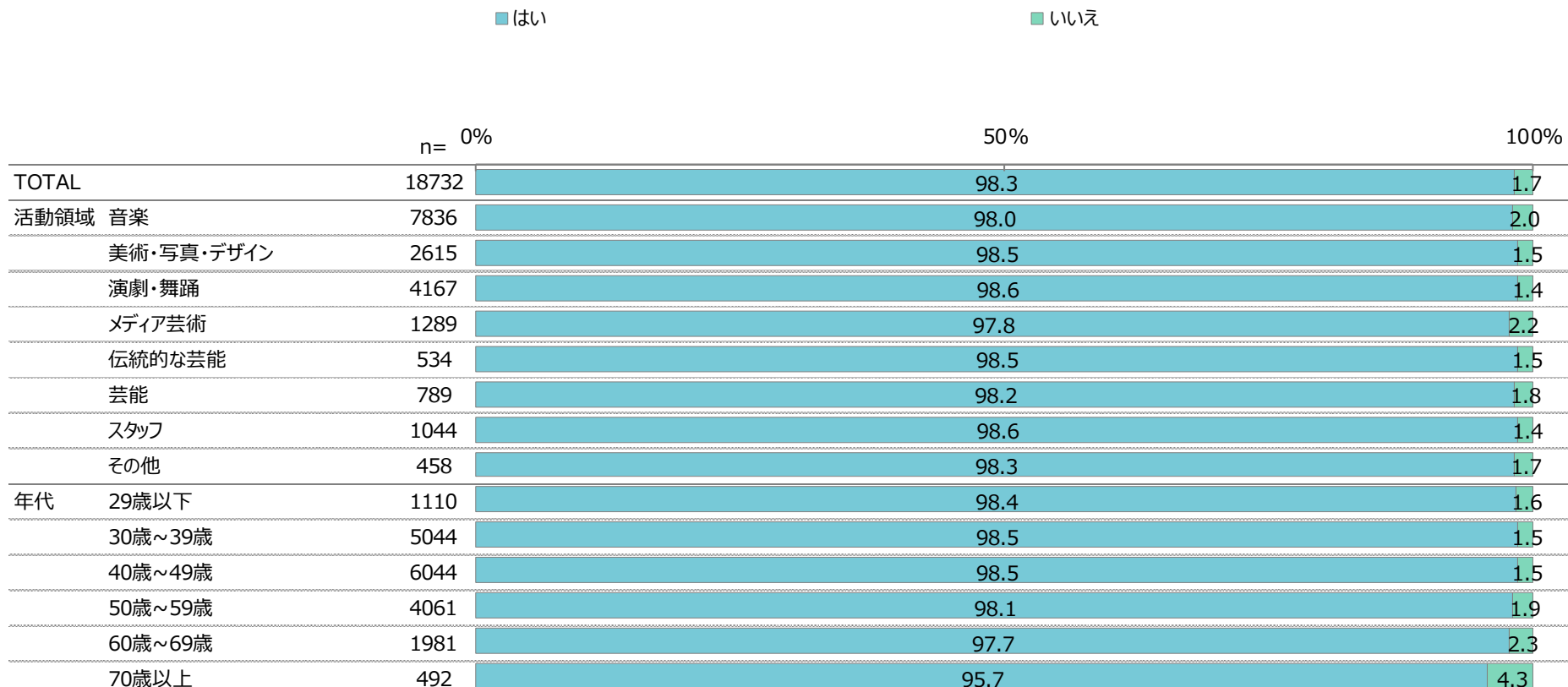


(質問文) Q1 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」に申請しましたか。

22.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」交付の有無(SA)

- 交付の有無をTOTALで見ると、「はい」が98.3%、「いいえ」が1.7%と、申請をした方のほとんどが交付を受けている。

22-1.TOTAL／活動領域別／年代別※「文化芸術活動の継続支援事業」申請者ベース

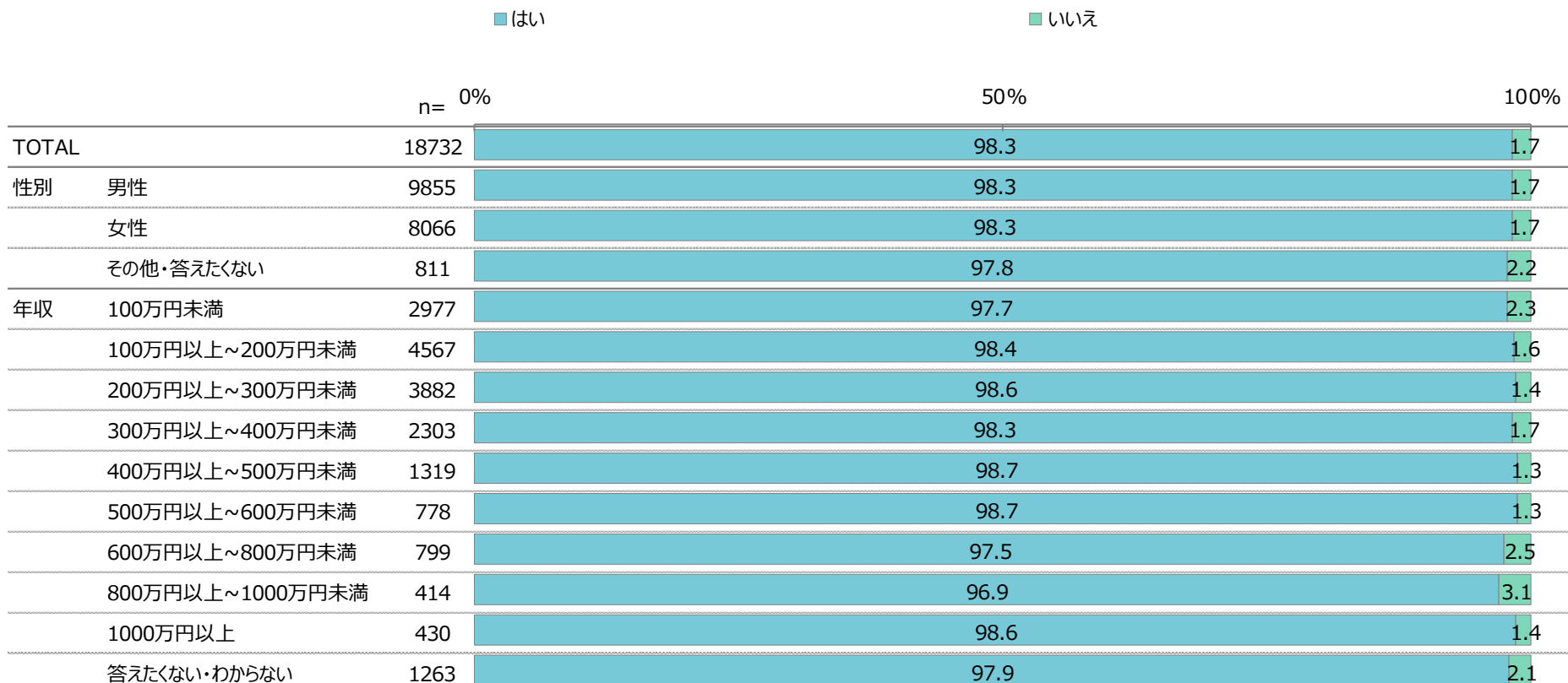


(質問文) Q2 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の交付を受けましたか。

22.文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」交付の有無(SA)

- 交付の有無は、性別・年収別では大きな差は無い。

22-2.TOTAL／性別／年収別※「文化芸術活動の継続支援事業」申請者ベース



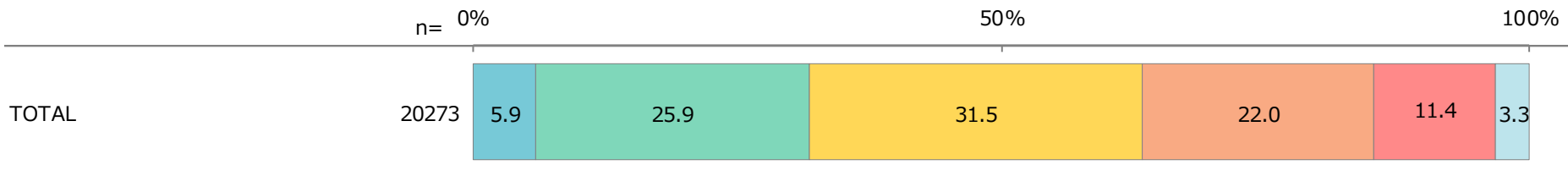
(質問文) Q2 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の交付を受けましたか。

23.年齢(SA)

- 年齢をTOTALで見ると、「29歳以下」が5.9%、「30歳～39歳」が25.9%、「40歳～49歳」が31.5%、「50歳～59歳」が22.0%、「60歳～69歳」が11.4%、「70歳以上」が3.3%。

23-1.TOTAL

■ 29歳以下 ■ 30歳～39歳 ■ 40歳～49歳 ■ 50歳～59歳 ■ 60歳～69歳 ■ 70歳以上



Ⅲ 調査票

調査票

新型コロナウイルス感染症の影響に対する政府の施策の活用状況及び芸術家のセーフティネットに関するアンケート

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。
ご協力いただける場合は「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

開始

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

Q1 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」に申請しましたか。

- はい
- いいえ

Q2 あなたは、2020年7月からの文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の交付を受けましたか。

- はい
- いいえ

Q3 あなたの文化芸術活動の主な取り組み方を教えてください。

- 個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され、文化芸術活動を行っている
- 個人として主に自ら企画・制作し、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社に年間雇用され、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係の団体・会社を営み、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社に雇用されているが、文化芸術活動を行っている
- 文化芸術関係以外の団体・会社を営んでいるが、文化芸術活動を行っている
- その他

あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。

Q4 文化芸術活動以外でのケガや病気への備え

- 雇用されているので職場の健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している
- 健康保険（組合健保、協会けんぽ又は共済組合）に加入している家族の被扶養親族になっている
- 居住地の国民健康保険に加入している
- 文芸美術国民健康保険組合、東京芸能人国民健康組合等の国民健康保険組合に加入している
- 公的医療保険に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない

あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。

Q5 高齢になった時への備え

- 雇用されているので厚生年金に加入している
- 国民年金に加入しており、保険料を支払っている
- 国民年金に加入しており、保険料の免除・猶予手続を行っている
- 国民年金に加入しているが、扶養されているので保険料を支払っていない
- 公的年金に加入していない（保険料を支払っていない）
- わからない

あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。

Q6 文化芸術活動中に事故にあったことによるケガや病気への備え

※通常、自営業者は労災保険の対象とはなりません。2021年より「芸術関係作業従事者」は特別加入制度の対象となり、労災保険に任意加入できるようになりました。

- 雇用されているので労災保険が適用される
- 労災保険に特別加入している
- 労災保険は適用されない
- わからない

あなたの基本的な社会保険制度への加入状況を伺います。

Q7 失業、育児、介護により収入がなくなった時への備え

- 雇用されているので雇用保険が適用される
- 雇用保険は適用されない
- わからない

Q8 これまでの設問で伺ったあなたの基本的な社会保険以外の備えについて伺います。あてはまるものをすべてお答えください。

- ケガや病気への備えとして民間の医療保険に入っている
- 高齢になった時の備えとして民間の個人年金保険、生命保険又は所得保障保険に入っている
- 高齢になった時の備えとして付加年金、国民年金基金又はiDeCoに加入している
- 廃業した時や高齢になった時の備えとして小規模企業共済に加入している
- 仕事が出来なくなった時の備えとして民間の所得保障保険等に入っている
- 貯蓄や資金運用をしている
- 金銭的な余裕がないため、特に何もしていない
- 知識がないため、特に何もしていない
- 備えをする必要性を感じないため、特に何もしていない

Q9 あなたは文化芸術活動や生活維持、老後の備えのために活用できる公的制度について知る機会が欲しいですか。

- 知る機会が欲しい
- 知る機会が必要とは思っていない

調査票

Q10 「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

※「戻る」ボタンから上位の順位を修正できます。

1/3

1位

- 自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付
- 日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付
- 文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付
- 依頼主の倒産や不払いがあった場合の支援
- やむを得ず文化芸術活動を辞めて転職する場合の一時金
- 能力向上や転職のための学びの機会と支援
- 文化芸術活動を引退した場合の年金
- その他
- 特に必要な仕組みはない

2/3

2位

- 自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付
- 日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付
- 文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付
- 依頼主の倒産や不払いがあった場合の支援
- やむを得ず文化芸術活動を辞めて転職する場合の一時金
- 能力向上や転職のための学びの機会と支援
- 文化芸術活動を引退した場合の年金
- その他
- 特に必要な仕組みはない

戻る

次を表示

Q10 「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる場合、どのような給付の仕組みが必要ですか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

※「戻る」ボタンから上位の順位を修正できます。

3/3

3位

- 自然災害、パンデミックなど不可抗力な事態で収入がなくなった場合の給付
- 日常的に仕事量の変動が大きいことによる収入の減少を補う給付
- 文化芸術活動に起因する病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 文化芸術活動に起因しない病気やケガで仕事が出来ない場合に補う給付
- 出産・育児・介護などで仕事が出来ない場合に補う給付
- 依頼主の倒産や不払いがあった場合の支援
- やむを得ず文化芸術活動を辞めて転職する場合の一時金
- 能力向上や転職のための学びの機会と支援
- 文化芸術活動を引退した場合の年金
- その他
- 特に必要な仕組みはない

Q11 「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくる上で何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。

- 芸術家同士で助け合うという意識の共有
- 芸術家であれば参加すべきという意識の共有
- 参加が強制されないこと
- 負担額に対し納得できる給付内容
- 芸術家自身による独立した運営
- 芸術家の代表が運営に参加できること
- 業界や公的部門など芸術家以外の関係者の賛同と財政・運営支援
- 会計・運営の透明性
- その他
- 特に必要なことはない

Q12 「文化芸術活動に特有の収入変動等に備える芸術家のための互助の仕組み」をつくることについてお考えを教えてください。

- 仕組みづくりに賛同する
- 仕組みづくりに賛同しない

調査票

Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

※「戻る」ボタンから上位の順位を修正できます。

1/3

1位

- 個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成
- 生計維持のために使用できる使途を問わない給付金
- 利用しやすい低利又は無利子の給付金
- 適正な契約が結ばれるための支援
- 文化芸術活動や生活についての相談窓口
- 技能、能力向上のための研修機会とその支援
- 芸術家であることの職業・身分証明
- その他
- 特に必要なことはない

2/3

2位

- 個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成
- 生計維持のために使用できる使途を問わない給付金
- 利用しやすい低利又は無利子の給付金
- 適正な契約が結ばれるための支援
- 文化芸術活動や生活についての相談窓口
- 技能、能力向上のための研修機会とその支援
- 芸術家であることの職業・身分証明
- その他
- 特に必要なことはない

Q13 今後文化芸術活動を続ける上で何が必要だと思いますか。優先順位の高い順に3位まで順位をつけてください。

※「戻る」ボタンから上位の順位を修正できます。

3/3

3位

- 個人の文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成
- 生計維持のために使用できる使途を問わない給付金
- 利用しやすい低利又は無利子の給付金
- 適正な契約が結ばれるための支援
- 文化芸術活動や生活についての相談窓口
- 技能、能力向上のための研修機会とその支援
- 芸術家であることの職業・身分証明
- その他
- 特に必要なことはない

調査票

ここからの設問は、新型コロナウイルス感染症があなたに与えた影響、政府が講じた施策の利用状況及びあなたの評価、今後必要と考える施策について伺います。

Q14 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として、政府は以下のような施策を講じましたが、あなたが利用したものをすべてお答え下さい。

<中小法人・個人事業者のための持続化給付金>
所管：経済産業省
申請期間：2020年5月～2021年2月
対象：売上が前年同月比50%以上減少している事業者
金額：中小法人等は上限200万円、個人事業者等は上限100万円

<中小法人・個人事業者のための一時支援金>
所管：経済産業省
申請期間：2021年3月～2021年5月
対象：2021年1月に発令された緊急事態宣言の影響を受けて売上が減少した中小法人・個人事業者
金額：中小法人等は上限60万円、個人事業者等は上限30万円

<中小法人・個人事業者のための月次支援金>
所管：経済産業省
申請期間：2021年6月～2022年1月
対象：緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置に伴う影響を受けて月間売上が前年同月比又は前々年同月比50%以上減少した中小法人・個人事業者
金額：中小法人等は上限20万円/月、個人事業者等は上限10万円/月

<特別定額給付金>
所管：総務省
申請期間：2020年5月～2022年10月 ※自治体により終了が異なる
対象：2020年4月27日において、住民基本台帳に記録されている者
金額：1人につき10万円

<個人向け緊急小口資金等>
所管：厚生労働省
期間：2020年3月～2022年9月
対象：新型コロナウイルスの影響を受けて収入が減少した世帯
金額：個人向け緊急小口資金の場合、最大20万円を無利子かつ保証人不要で借り入れ

<家賃支援給付金>
所管：経済産業省
期間：2020年7月～2021年2月
対象：2020年5月の緊急事態宣言の延長等により売り上げが減少した中小法人、個人事業者（事業規模等の要件あり）
金額：法人は最大600万円、個人事業者は最大300万円

1/2

申請したもの（実際に受け取ったかは問いません）

- 中小法人・個人事業者のための持続化給付金（経済産業省）
- 中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金（経済産業省）
- 特別定額給付金（総務省）
- 個人向け緊急小口資金等（厚生労働省）
- 家賃支援給付金（経済産業省）
- 制度内容は知っているが申請はしていない
- このような制度は知らない
- 交付・支給・給付を受け取っていない

2/2

受け取ったもの（実際に交付・支給・給付を受けたもの）

- 中小法人・個人事業者のための持続化給付金（経済産業省）
- 中小法人・個人事業者のための一時支援金・月次支援金（経済産業省）
- 特別定額給付金（総務省）
- 個人向け緊急小口資金等（厚生労働省）
- 家賃支援給付金（経済産業省）
- 制度内容は知っているが申請はしていない
- このような制度は知らない
- 交付・支給・給付を受け取っていない

Q15 あなたは、文化芸術活動の継続支援事業の「交付を受けた」とお答えになりましたが、交付を受けたことによりどのような成果がありましたか。

- 従来活動を維持することができた
- 新たな活動を行うことができた
- その他

Q16 以下の政府補助金による支援を受けて実施された公演、演奏会、コンサート、ライブ、展覧会等に、出演者、主催者、スタッフとして参加しましたか。把握している範囲ですべてお答えください。

- アートキャラバン（文化庁）
- ARTS for the future！（AFF1、AFF2）（文化庁）
- J-LOD補助金（経済産業省）
- 参加していない
- わからない

Q17 コロナ感染症の拡大による活動停止など厳しい時期を経て、今の状況に近いものをお選びください。

- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は増えた
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入はほぼ回復した
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は75%程度に減ったまま
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は50%程度に減ったまま
- コロナ前の2019年と比べ文化芸術活動収入は25%程度に減ったまま
- 文化芸術活動収入はなくなった
- 文化芸術活動はやめた

Q18 あなたの主たる文化芸術活動領域を1つだけ教えてください。

- 文学
- 音楽
- 美術・写真・デザイン
- 演劇・舞踊
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
- 伝統的な芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、邦楽など）
- 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱など）
- 生活文化・国民娯楽（茶道、華道、書道、食文化、囲碁・将棋など）
- 公演、展示、映画・映像等に係る専門分野（演出、監督、振付、デザイン、大道具、照明、音響、制作等）
- その他

調査票

Q19 あなたは文化芸術活動を続ける上で、必要な組織に参加、所属あるいは業務委託をしていますか（あるいは、していましたか）。あてはまるものをすべてお答えください。

- 専門職能の維持・向上、文化芸術の振興を目的とする協会組織
- 劇団、楽団、舞踊団、同人会など文化芸術創造活動を進める組織
- 個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所
- 個人マネージャー、弁護士などを依頼している
- 組織に参加せず、全て個人で仕事をしている

Q20 昨年（2022年）の「あなた」の全収入に占める文化芸術活動からの収入の割合を教えてください。

- 76%～100%
- 51%～75%
- 26%～50%
- 25%以下

Q21 昨年（2022年）の「あなた」の所得について申告はどのようにしましたか。以下から教えてください。

- 所得税の確定申告（白色）を行った
- 所得税の確定申告（青色）を行った
- 報酬等は源泉徴収されているので何もなかった
- 所得が20万円以下のため確定申告をしなかった

Q22 昨年（2022年）の「あなた」の全収入について教えてください。

- 100万円未満
- 100万円以上～200万円未満
- 200万円以上～300万円未満
- 300万円以上～400万円未満
- 400万円以上～500万円未満
- 500万円以上～600万円未満
- 600万円以上～700万円未満
- 700万円以上～800万円未満
- 800万円以上～900万円未満
- 900万円以上～1000万円未満
- 1000万円以上～1500万円未満
- 1500万円以上
- 答えたくない・わからない

Q23 あなたの年齢について伺います。

- 20歳未満
- 20歳～29歳
- 30歳～39歳
- 40歳～49歳
- 50歳～59歳
- 60歳～69歳
- 70歳以上

Q24 あなたの性別について伺います。

- 男性
- 女性
- その他・答えたくない

Q25 コロナ禍（緊急事態宣言時期）、ウィズコロナ（令和4年度前後）の時期を振り返ってのお考えや、現在の活動状況、ポストコロナにおける今後の活動や将来の展望等について自由にお書きください（150字以内）。